

平成30年度
男女共同参画に関するアンケート調査結果
報 告 書

平成31（2019）年3月
廿日市市 自治振興部 人権・男女共同推進課

目 次

1 章 男女共同参画に関する市民アンケート調査結果	1
I 調査の概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査の設計	1
3. 調査項目	1
4. 回収結果	1
5. 報告書の見方	2
II 調査回答者の属性	3
III 調査結果	8
1. 男女の平等意識について	8
2. 家庭生活について	19
3. 働く場について	25
4. 仕事と家庭、個人の生活のバランスについて	38
5. 地域活動について	42
6. ドメスティック・バイオレンス（DV）などについて	45
7. 男女共同参画社会実現への取組について	49
IV 自由意見	54
2 章 男女共同参画に関する事業所アンケート調査結果	57
I 調査の概要	57
1. 調査の目的	57
2. 調査の設計	57
3. 調査項目	57
4. 回収結果	57
5. 報告書の見方	57
II 調査回答者の属性	58
III 調査結果	60
1. 雇用管理について	60
2. ポジティブ・アクション（積極的改善措置）について	62
3. ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について	65
4. 女性の活躍の推進について	72
5. セクシュアル・ハラスメントの防止について	74
6. 市として重点的に取り組むべきことについて	76
IV 自由意見	77

3章 男女共同参画に関する中学生・高校生アンケート調査結果	78
I 調査の概要	78
1. 調査の目的	78
2. 調査の設計	78
3. 調査項目	78
4. 回収結果	78
5. 報告書の見方	78
II 調査回答者の属性	79
III 調査結果	80
1. 男女平等について	80
2. 家庭での家事などの分担について	84
3. 将来のことなどについて	85
4. デートDVについて	90
5. 男女共同参画社会を実現するために必要なことについて	91
IV 自由意見	93

<資料編> 調査票

1 章 男女共同参画に関する市民アンケート調査結果

I 調査の概要

1. 調査の目的

本アンケート調査は、男女共同参画に関する意識の変化を経年比較し、平成27年3月に策定した「第2次廿日市市男女共同参画プラン」の後期5年(平成32年度～)の実施計画策定に向けて、施策への反映、改善に役立てることを目的として実施した。

2. 調査の設計

- | | |
|----------|-----------------------------------|
| (1) 調査地域 | 廿日市市全域 |
| (2) 調査対象 | 市内に在住する満20歳以上の男女2,000人(男女各1,000人) |
| (3) 標本数 | 2,000人 |
| (4) 抽出方法 | 住民基本台帳から無作為抽出 |
| (5) 調査方法 | 郵送配付・郵送回収によるアンケート調査 |
| (6) 調査期間 | 平成30(2018)年11月12日(月)～12月6日(木) |

3. 調査項目

- (1) 男女の平等意識について
- (2) 家庭生活について
- (3) 働く場について
- (4) 仕事と家庭、個人の生活のバランスについて
- (5) 地域活動について
- (6) ドメスティック・バイオレンス(DV)などについて
- (7) 男女共同参画社会実現への取組について

4. 回収結果

- | | | |
|-----------|--------|---|
| (1) 標本数 | 2,000人 | (男性:1,000人 女性:1,000人) |
| | | (廿日市地域:1,300人 佐伯地域:165人 吉和地域:10人
大野地域:495人 宮島地域:30人) |
| (2) 有効回収数 | 771人 | (男性:308人 女性:419人 無回答:44人) |
| | | (廿日市地域:524人 佐伯地域:51人 吉和地域:2人
大野地域:166人 宮島地域:11人、無回答:17人) |
| (3) 有効回収率 | 38.6% | ※参考 前回平成25(2013)年調査の有効回収率:34.2% |

5. 報告書の見方

(1) 標本誤差について

本調査は、調査対象となる母集団（廿日市市に住民登録がある満20歳以上の市民）から一部を抽出した標本（サンプル）の比率等から母集団の比率等を推測する、いわゆる「標本調査」である。したがって、調査結果には統計上の誤差（標本誤差）が生じることがある。

単純無作為抽出法を用いた場合の標本誤差（信頼度を95%とした場合）は次の算出式により求められる。

■ 算出式

$$\text{標本誤差} = \pm 2 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{p(1-p)}{n}}$$

N=母集団数(廿日市市の20歳以上の男女)
n=比率算出の基数(回答サンプル数)
p=回答の比率(0≤p≤1)

Nがnより十分に大きいことから、 $\frac{N-n}{N-1} \div 1$ とみなすことができるので、信頼度95%とした場合における調査結果の標本誤差の範囲は、以下の標本誤差早見表のとおり求められる。

基数（回答サンプル数）n=771の場合、例えば回答比率が50%の時の標本誤差は±3.6%となり、調査結果で得た50%という集計結果を実際の母集団の傾向として評価する際には、50±3.6%（=46.4%～53.6%）という一定の幅を持った値（信頼区間）として取り扱う必要がある。そのため、調査結果の評価・分析にあたっては、信頼区間未満(本調査では7.2%未満)の差異は切り捨てて考える必要がある。

■ 標本誤差早見表（信頼度：95%）

回答比率(p) 標本数(n)	5%または 95%程度	10%または 90%程度	20%または 80%程度	30%または 70%程度	40%または 60%程度	50%程度
30	±8.0	±11.0	±14.6	±16.7	±17.9	±18.3
50	±6.2	±8.5	±11.3	±13.0	±13.9	±14.1
100	±4.4	±6.0	±8.0	±9.2	±9.8	±10.0
200	±3.1	±4.2	±5.7	±6.5	±6.9	±7.1
500	±1.9	±2.7	±3.6	±4.1	±4.4	±4.5
771	±1.6	±2.2	±2.9	±3.3	±3.5	±3.6
1,000	±1.4	±1.9	±2.5	±2.9	±3.1	±3.2
2,000	±1.0	±1.3	±1.8	±2.0	±2.2	±2.2

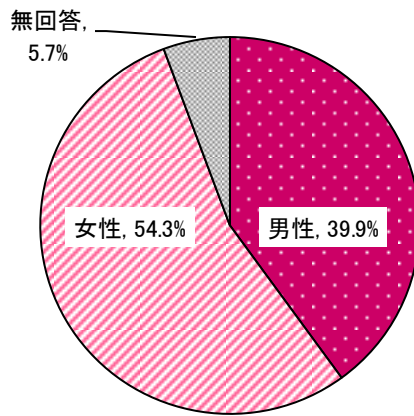
(2) 集計・分析点における留意点

- ① 図表中に示すnは、回答数総数を示す。
- ② 回答比率（%）は、その設問の回答者数を基軸として算出し、小数点以下第2位を四捨五入した。このため、比率の合計が100.0%を上下する場合がある。
- ③ 回答が2つ以上ありうる複数回答は、比率の合計は100.0%を超える場合がある。
- ④ 属性別(クロス集計)については、回答者数（n）が30以上、かつ全体及び属性間の結果を比較して特徴または傾向がみられる項目について記述（コメント）対象とした。
- ⑤ 表・グラフの属性別データは、無回答を除いて掲載しているため、回答数総数と属性別の回答者数の合計は一致しない場合がある。

Ⅱ 調査回答者の属性

問(1)～(9)の項目について、それぞれ1つ選んで○をつけてください。

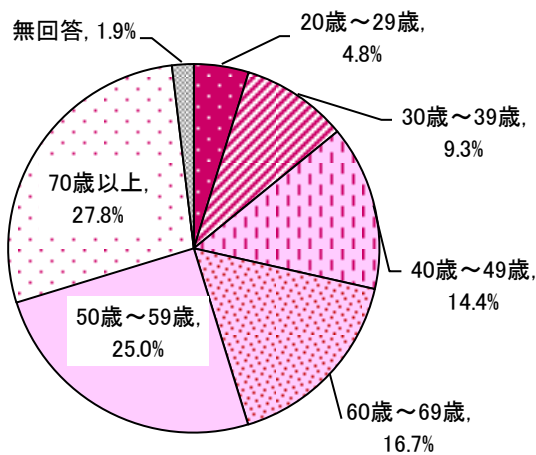
(1) 性別



■ 性別 -全体-

	(人)	(%)
男 性	308	39.9
女 性	419	54.3
無回答	44	5.7
合 計	771	100.0

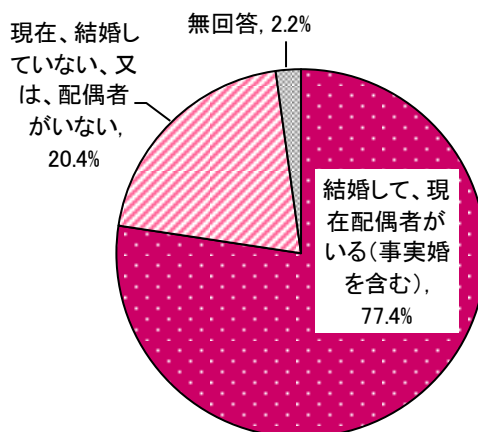
(2) 年齢



■ 年齢 -性別-

	全 体		男 性		女 性	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
20歳代	37	4.8	13	4.2	24	5.7
30歳代	72	9.3	24	7.8	48	11.5
40歳代	111	14.4	45	14.6	65	15.5
50歳代	129	16.7	41	13.3	85	20.3
60歳代	193	25.0	96	31.2	86	20.5
70歳以上	214	27.8	88	28.6	110	26.3
無回答	15	1.9	1	0.3	1	0.2
合 計	771	100.0	308	100.0	419	100.0

(3) 配偶者の有無



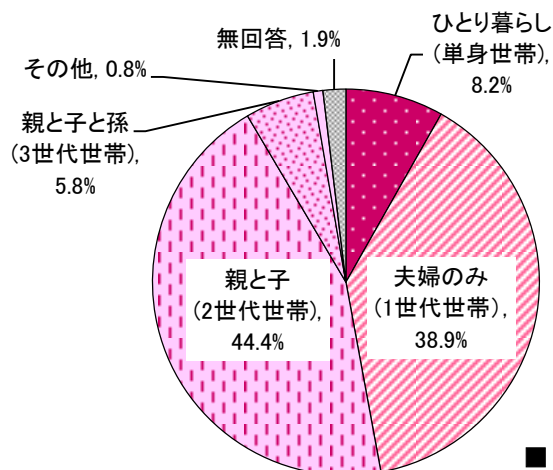
■ 配偶者の有無 -性別-

	全 体		男 性		女 性	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
結婚して、現在配偶者がいる(事実婚を含む)	597	77.4	261	84.7	313	74.7
結婚していない、又は、結婚していたが現在は配偶者がいない	157	20.4	47	15.3	102	24.3
無回答	17	2.2	-	-	4	1.0
合 計	771	100.0	308	100.0	419	100.0

■ 配偶者の有無 -性・年代別

	男性											
	20歳代		30歳代		40歳代		50歳代		60歳代		70歳以上	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
結婚して、現在配偶者がいる(事実婚を含む)	4	30.8	18	75.0	35	77.8	33	80.5	89	92.7	82	93.2
結婚していない、又は、結婚していたが現在は配偶者がいない	9	69.2	6	25.0	10	22.2	8	19.5	7	7.3	6	6.8
無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合 計	13	100.0	24	100.0	45	100.0	41	100.0	96	100.0	88	100.0
	女性											
	20歳代		30歳代		40歳代		50歳代		60歳代		70歳以上	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
結婚して、現在配偶者がいる(事実婚を含む)	6	25.0	41	85.4	52	80.0	69	81.2	73	84.9	71	64.5
結婚していない、又は、結婚していたが現在は配偶者がいない	18	75.0	7	14.6	13	20.0	16	18.8	12	14.0	36	32.7
無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1.2	3	2.7
合 計	24	100.0	48	100.0	65	100.0	85	100.0	86	100.0	110	100.0

(4) 家族構成



■ 家族構成 -性別-

	全 体		男 性		女 性	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
ひとり暮らし(単身世帯)	63	8.2	17	5.5	41	9.8
夫婦だけ(1世代世帯)	300	38.9	135	43.8	149	35.6
親と子(2世代世帯)	342	44.4	139	45.1	194	46.3
親と子と孫(3世代世帯)	45	5.8	16	5.2	28	6.7
その他	6	0.8	1	0.3	5	1.2
無回答	15	1.9	-	-	2	0.5
合 計	771	100.0	308	100.0	419	100.0

■ 家族構成 -性・年代別-

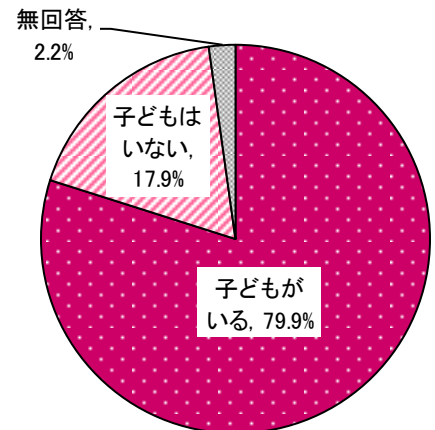
	男性											
	20歳代		30歳代		40歳代		50歳代		60歳代		70歳以上	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
ひとり暮らし(単身世帯)	1	7.7	-	-	3	6.7	4	9.8	3	3.1	5	5.7
夫婦だけ(1世代世帯)	2	15.4	4	16.7	9	20.0	13	31.7	46	47.9	61	69.3
親と子(2世代世帯)	9	69.2	19	79.2	30	66.7	24	58.5	39	40.6	18	20.5
親と子と孫(3世代世帯)	1	7.7	1	4.2	3	6.7	-	-	7	7.3	4	4.5
その他	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1.0	-	-
無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合 計	13	100.0	24	100.0	45	100.0	41	100.0	96	100.0	88	100.0

	女性											
	20歳代		30歳代		40歳代		50歳代		60歳代		70歳以上	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
ひとり暮らし(単身世帯)	2	8.3	1	2.1	5	7.7	6	7.1	4	4.7	23	20.9
夫婦だけ(1世代世帯)	3	12.5	5	10.4	8	12.3	30	35.3	53	61.6	50	45.5
親と子(2世代世帯)	17	70.8	39	81.3	42	64.6	42	49.4	25	29.1	28	25.5
親と子と孫(3世代世帯)	2	8.3	3	6.3	8	12.3	6	7.1	4	4.7	5	4.5
その他	-	-	-	-	2	3.1	1	1.2	-	-	2	1.8
無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1.8
合 計	24	100.0	48	100.0	65	100.0	85	100.0	86	100.0	110	100.0

(5) 子どもの有無

■ 子どもの有無 -性別-

	全 体		男 性		女 性	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
子どもがいる	616	79.9	253	82.1	337	80.4
子どもはいない	138	17.9	54	17.5	80	19.1
無回答	17	2.2	1	0.3	2	0.5
合 計	771	100.0	308	100.0	419	100.0

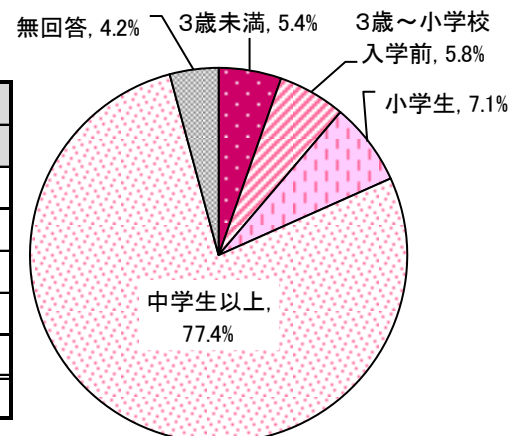


(6) 一番下の子どもの年齢

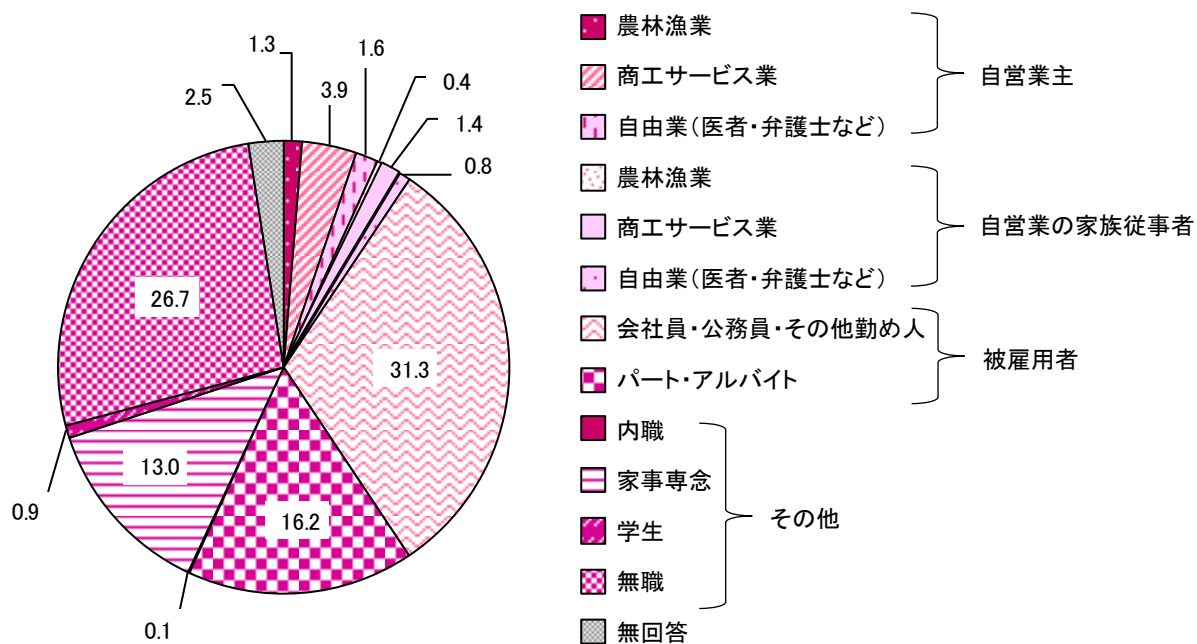
※(5)で「子どもがいる」と回答した人のみ回答

■ 一番下の子どもの年齢-性別-

	全 体		男 性		女 性	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
乳児(3歳未満)	33	5.4	12	4.7	21	6.2
幼児(3歳～小学校入学前)	36	5.8	13	5.1	23	6.8
小学生	44	7.1	18	7.1	26	7.7
中学生以上	477	77.4	203	80.2	252	74.8
無回答	26	4.2	7	2.8	15	4.5
合 計	616	100.0	253	100.0	337	100.0



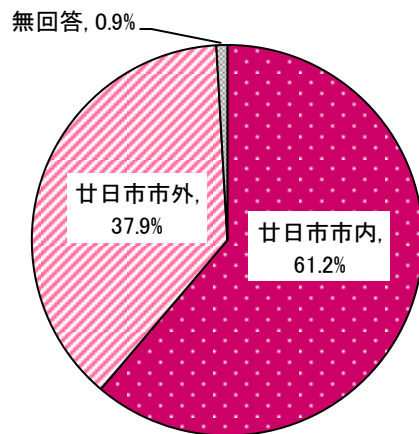
(7) 職業



■ 職業 -性別-

		全体	自営業主			自営業の家族従事者			被雇用者		その他				無回答
			農林漁業	商工サービス業	自由業（医者・弁護士など）	農林漁業	商工サービス業	自由業（医者・弁護士など）	会社員・公務員・その他勤め人	パート・アルバイト	内職	家事専念	学生	無職	
全体	(人)	771	10	30	12	3	11	6	241	125	1	100	7	206	19
	(%)	100	1.3	3.9	1.6	0.4	1.4	0.8	31.3	16.2	0.1	13.0	0.9	26.7	2.5
男性	(人)	308	7	24	9	1	2	1	139	19	-	1	3	102	-
	(%)	100	2.3	7.8	2.9	0.3	0.6	0.3	45.1	6.2	0.0	0.3	1.0	33.1	0.0
女性	(人)	419	3	5	3	2	9	5	99	103	1	95	4	85	5
	(%)	100	0.7	1.2	0.7	0.5	2.1	1.2	23.6	24.6	0.2	22.7	1.0	20.3	1.2

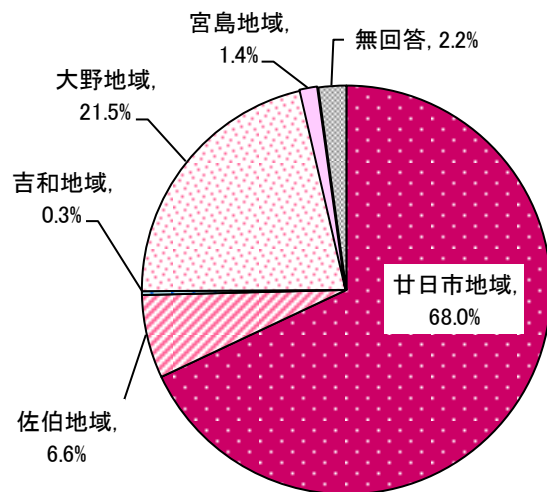
(8) 職場の場所



■ 職場の場所 -性別-

	全 体		男 性		女 性	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
甘日市市内	268	61.2	100	49.5	162	70.7
甘日市市外	166	37.9	99	49.0	66	28.8
無回答	4	0.9	3	1.5	1	0.4
合 計	438	100.0	202	100.0	229	100.0

(9) 居住地域



■ 居住地域 -性別-

	全 体		男 性		女 性	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
甘日市地域	524	68.0	217	70.5	286	68.3
佐伯地域	51	6.6	15	4.9	31	7.4
吉和地域	2	0.3	0	0.0	2	0.5
大野地域	166	21.5	70	22.7	91	21.7
宮島地域	11	1.4	6	1.9	5	1.2
無回答	17	2.2	0	0.0	4	1.0
合 計	771	100.0	308	100.0	419	100.0

Ⅲ 調査結果

1. 男女の平等意識について

(1) 男女の地位

問1 あなたは、次にあげる分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。

①～⑧の項目について、それぞれ1つ選んで○をつけてください。

< 全体 >

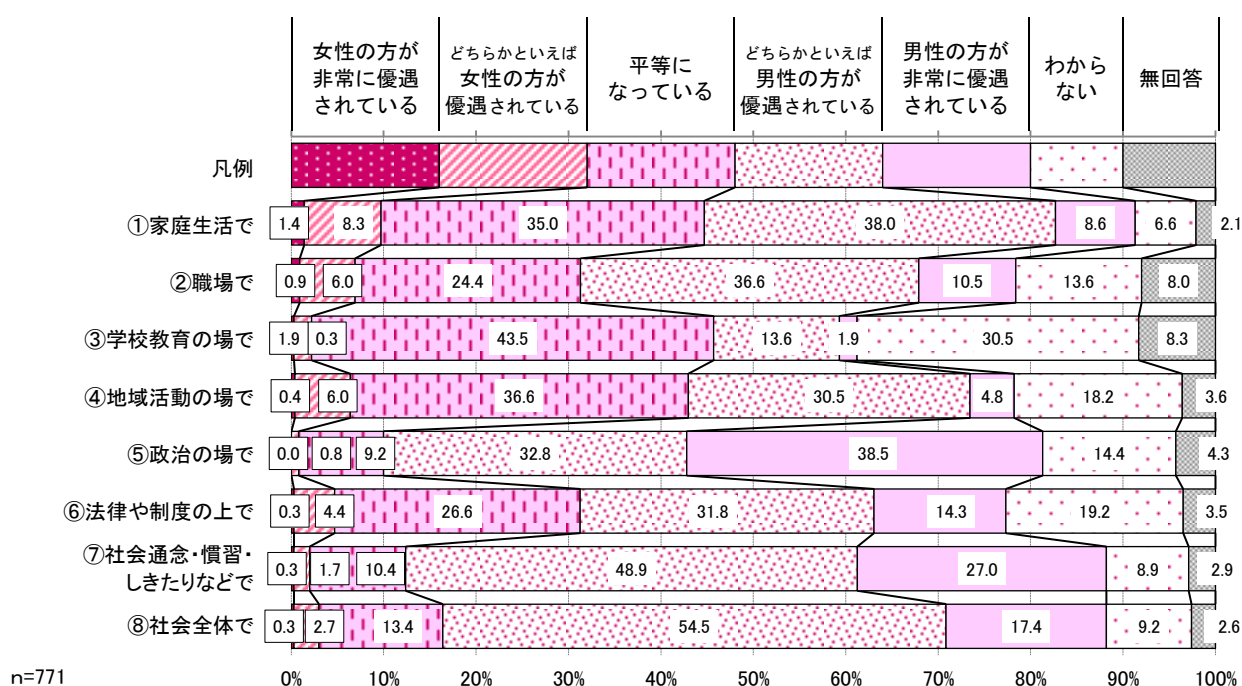
男女の平等意識について、[③学校教育の場で]は、「平等になっている(43.5%)」の値が『男性優遇※(15.5%)』より高い。一方、[④地域活動の場で]は、「平等になっている(36.6%)」と並んで『男性優遇(35.3%)』が高く、その他の6項目では『男性優遇』が「平等になっている」より高い。

特に、[⑤政治の場で]、[⑦社会通念・慣習・しきたりなどで]、[⑧社会全体で]は、『男性優遇』の値が約7割と高くなっている。

※『男性優遇』は「男性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計

※『女性優遇』は「女性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の合計

男女の地位	『女性優遇』※	「平等になっている」	『男性優遇』※
① 家庭生活上で	9.7%	35.0%	46.6%
② 職場で	6.9%	24.4%	47.1%
③ 学校教育の場で	2.2%	43.5%	15.5%
④ 地域活動の場で	6.4%	36.6%	35.3%
⑤ 政治の場で	0.8%	9.2%	71.3%
⑥ 法律や制度の上で	4.7%	26.6%	46.1%
⑦ 社会通念・慣習・しきたりなどで	2.0%	10.4%	75.9%
⑧ 社会全体で	3.0%	13.4%	71.9%



< 前回調査結果との比較 >

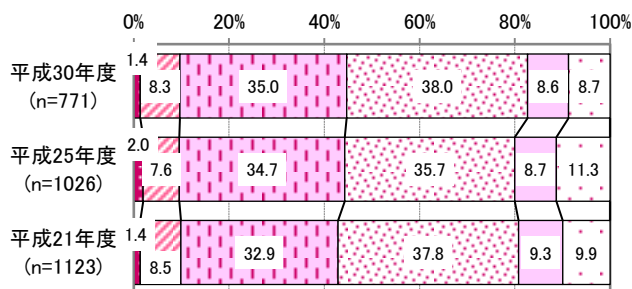
経年比較では、「平等になっている」の値については、増加・減少共に顕著な傾向は見られない。一方で『男性優遇』については、[③学校教育の場で]が4.8ポイント、[④地域活動の場で]が5.3ポイント、[⑤政治の場で]が6.9ポイント、[⑥法律や制度の上で]が8.1ポイント、[⑦社会通念・慣習・しきたりなどで]が8.2ポイント、[⑧社会全体で]が6.2ポイント、前回調査の値より高く、微増傾向が見られる。

■ 男女の地位 -経年比較-

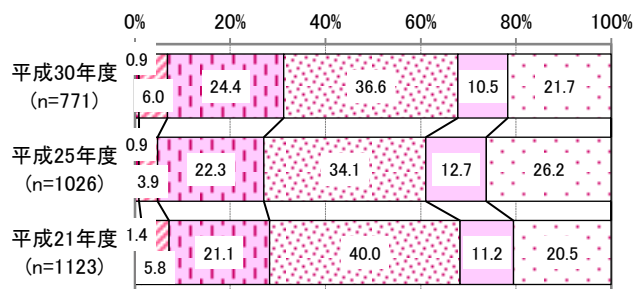
凡例

■ 女性の方が非常に優遇されている	■ どちらかといえば女性の方が優遇されている	■ 平等になっている	■ どちらかといえば男性の方が優遇されている	■ 男性の方が非常に優遇されている	■ 分からない・無回答
-------------------	------------------------	------------	------------------------	-------------------	-------------

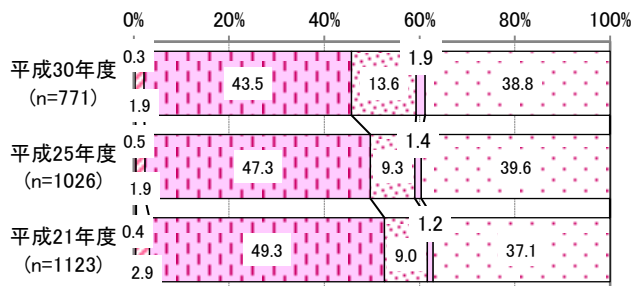
① 家庭生活で



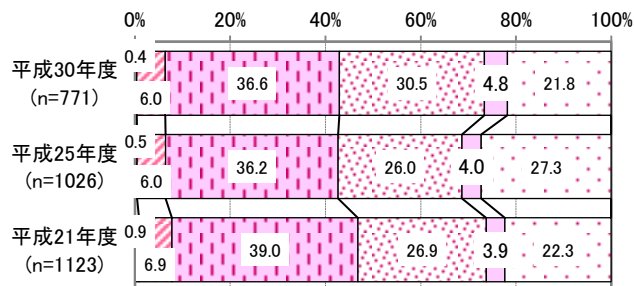
② 職場で



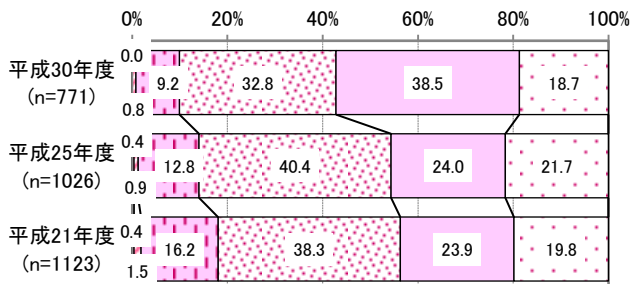
③ 学校教育の場で



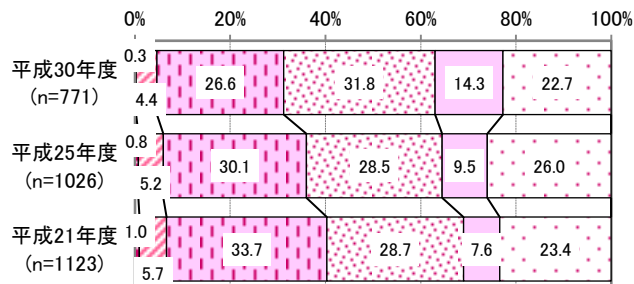
④ 地域活動の場で



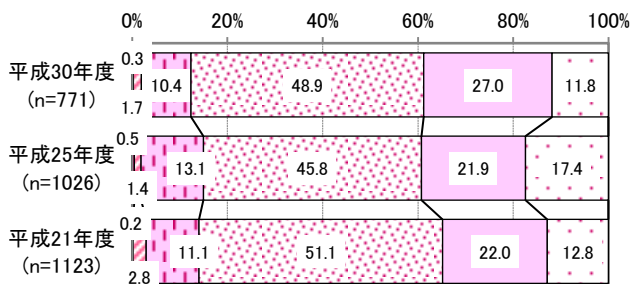
⑤ 政治の場で



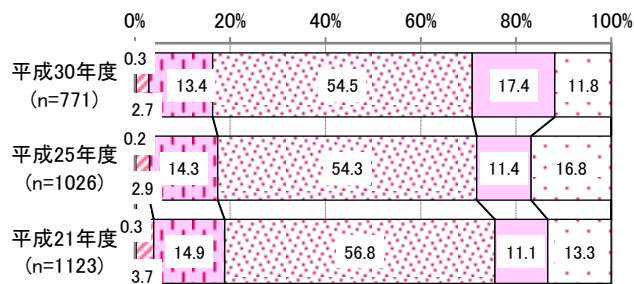
⑥ 法律や制度の上で



⑦ 社会通念・慣習・しきたりなどで



⑧ 社会全体で



<性別 / 性・年代別の値の比較>

①家庭生活で

性別で見ると、「平等になっている(男性40.9%、女性31.3%)」は男性が女性より9.6ポイント高く、『男性優遇(男性39.2%、女性52.1%)』は女性が男性より12.9ポイント高い。

性・年代別で見ると、『女性優遇』は、[男性40歳～49歳]、[男性50～59歳]が約2割と高く、『男性優遇』は、[女性30～39歳]、[女性60～69歳]が約6割と高くなっている。

②職場で

性別では、男女で顕著な差は見られない。

性・年代別で見ると、[男性40歳～49歳]は『女性優遇(20.0%)』と「男性の方が非常に優遇されている(22.2%)」がそれぞれ高い。「平等になっている」は、[女性40～49歳(46.2%)]が高い。『男性優遇』は、[男性60～69歳]、[女性60～69歳]が約6割と高くなっている。

■ 男女の地位 -性別 / 性・年代別-

単位:%

※全体より10ポイント以上高い＝太字・塗潰し(赤)、全体より10ポイント以上低い＝白太字・下線・塗潰し(青)。
ただし30サンプル未満の属性は除く。

①家庭生活で			女性の方が 非常に優遇 されている	どちらかといえば 女性の方が 優遇されている	平等に なっている	どちらかといえば 男性の方が 優遇されている	男性の方が 非常に優遇 されている	わから ない	無回答	『女性 優遇』	『男性 優遇』	
全体		n=771	1.4	8.3	35.0	38.0	8.6	6.6	2.1	9.7	46.6	
性	男性	n=308	1.6	11.7	40.9	33.4	5.8	5.8	0.6	13.3	39.2	
	女性	n=419	1.4	6.4	31.3	41.1	11.0	6.7	2.1	7.8	52.1	
性・年代	男性	20歳～29歳	n=13	-	15.4	30.8	15.4	7.7	30.8	-	15.4	23.1
		30歳～39歳	n=24	-	12.5	54.2	29.2	-	4.2	-	12.5	29.2
		40歳～49歳	n=45	4.4	17.8	40.0	22.2	4.4	11.1	-	22.2	26.6
		50歳～59歳	n=41	2.4	19.5	31.7	29.3	12.2	4.9	-	21.9	41.5
		60歳～69歳	n=96	1.0	6.3	44.8	40.6	4.2	3.1	-	7.3	44.8
		70歳以上	n=88	1.1	10.2	38.6	37.5	6.8	3.4	2.3	11.3	44.3
	女性	20歳～29歳	n=24	-	4.2	50.0	25.0	8.3	12.5	-	4.2	33.3
		30歳～39歳	n=48	2.1	6.3	25.0	43.8	14.6	8.3	-	8.4	58.4
		40歳～49歳	n=65	3.1	7.7	23.1	40.0	12.3	9.2	4.6	10.8	52.3
		50歳～59歳	n=85	1.2	5.9	40.0	34.1	12.9	5.9	-	7.1	47.0
		60歳～69歳	n=86	1.2	4.7	23.3	51.2	10.5	7.0	2.3	5.9	61.7
		70歳以上	n=110	0.9	7.3	34.5	41.8	8.2	3.6	3.6	8.2	50.0

②職場で			女性の方が 非常に優遇 されている	どちらかといえば 女性の方が 優遇されている	平等に なっている	どちらかといえば 男性の方が 優遇されている	男性の方が 非常に優遇 されている	わから ない	無回答	『女性 優遇』	『男性 優遇』	
全体		n=771	0.9	6.0	24.4	36.6	10.5	13.6	8.0	6.9	47.1	
性	男性	n=308	1.3	7.1	26.0	40.3	10.4	9.4	5.5	8.4	50.7	
	女性	n=419	0.7	5.0	25.1	34.8	11.0	16.2	7.2	5.7	45.8	
性・年代	男性	20歳～29歳	n=13	-	7.7	46.2	15.4	-	30.8	-	7.7	15.4
		30歳～39歳	n=24	4.2	12.5	29.2	45.8	-	8.3	-	16.7	45.8
		40歳～49歳	n=45	6.7	13.3	20.0	28.9	22.2	8.9	-	20.0	51.1
		50歳～59歳	n=41	-	7.3	31.7	43.9	12.2	4.9	-	7.3	56.1
		60歳～69歳	n=96	-	5.2	27.1	47.9	14.6	4.2	1.0	5.2	62.5
		70歳以上	n=88	-	3.4	21.6	38.6	3.4	14.8	18.2	3.4	42.0
	女性	20歳～29歳	n=24	4.2	16.7	41.7	16.7	-	16.7	4.2	20.9	16.7
		30歳～39歳	n=48	-	12.5	20.8	39.6	14.6	12.5	-	12.5	54.2
		40歳～49歳	n=65	3.1	4.6	46.2	21.5	9.2	10.8	4.6	7.7	30.7
		50歳～59歳	n=85	-	4.7	35.3	32.9	17.6	9.4	-	4.7	50.5
		60歳～69歳	n=86	-	2.3	17.4	53.5	12.8	11.6	2.3	2.3	66.3
		70歳以上	n=110	-	1.8	9.1	31.8	6.4	29.1	21.8	1.8	38.2

<性別 / 性・年代別の値の比較>

③学校教育の場で

性別では、男女で顕著な差は見られない。

性・年代別で見ると、「平等になっている」は、[女性40歳～49歳(61.5%)]、[男性50歳～59歳(58.5%)]が高い。

④地域活動の場で

性別で見ると、『男性優遇(男性29.8%、女性40.3%)』は女性が男性より10.5ポイント高い。

性・年代別で見ると、「平等になっている」は、[男性50～59歳(51.2%)]が高い。『男性優遇』は、[女性60～69歳(54.7%)]が高くなっている。

■ 男女の地位 -性別 / 性・年代別-

単位: %

※全体より10ポイント以上高い=太字・塗潰し(赤)、全体より10ポイント以上低い=白太字・下線・塗潰し(青)。
ただし30サンプル未満の属性は除く。

③学校教育の場で			女性の方が 非常に優遇 されている	どちらかといえば 女性の方が 優遇されている	平等に なっている	どちらかといえば 男性の方が 優遇されている	男性の方が 非常に優遇 されている	わから ない	無回答	『女性 優遇』	『男性 優遇』
全体		n=771	0.3	1.9	43.5	13.6	1.9	30.5	8.3	2.2	15.5
性	男性	n=308	-	2.6	44.8	13.0	1.6	32.1	5.8	2.6	14.6
	女性	n=419	0.2	1.7	44.6	13.4	2.4	29.8	7.9	1.9	15.8
性・年代	男性	20歳～29歳	n=13	-	-	30.8	7.7	-	61.5	-	7.7
		30歳～39歳	n=24	-	4.2	37.5	16.7	4.2	33.3	4.2	20.9
		40歳～49歳	n=45	-	4.4	46.7	4.4	2.2	42.2	4.4	6.6
		50歳～59歳	n=41	-	-	58.5	14.6	-	26.8	-	14.6
		60歳～69歳	n=96	-	4.2	43.8	17.7	3.1	28.1	4.2	20.8
		70歳以上	n=88	-	1.1	42.0	11.4	-	29.5	1.1	11.4
	女性	20歳～29歳	n=24	-	-	50.0	4.2	-	45.8	-	4.2
		30歳～39歳	n=48	-	2.1	47.9	16.7	2.1	31.3	2.1	18.8
		40歳～49歳	n=65	-	4.6	61.5	9.2	-	21.5	4.6	9.2
		50歳～59歳	n=85	-	1.2	50.6	20.0	4.7	22.4	1.2	24.7
		60歳～69歳	n=86	1.2	1.2	40.7	16.3	2.3	34.9	2.4	18.6
		70歳以上	n=110	-	0.9	30.9	9.1	2.7	31.8	0.9	11.8

④地域活動の場で			女性の方が 非常に優遇 されている	どちらかといえば 女性の方が 優遇されている	平等に なっている	どちらかといえば 男性の方が 優遇されている	男性の方が 非常に優遇 されている	わから ない	無回答	『女性 優遇』	『男性 優遇』
全体		n=771	0.4	6.0	36.6	30.5	4.8	18.2	3.6	6.4	35.3
性	男性	n=308	0.3	8.1	42.9	26.9	2.9	17.9	1.0	8.4	29.8
	女性	n=419	0.2	4.5	32.9	33.9	6.4	18.1	3.8	4.7	40.3
性・年代	男性	20歳～29歳	n=13	-	7.7	38.5	7.7	-	46.2	7.7	7.7
		30歳～39歳	n=24	-	12.5	41.7	25.0	-	20.8	12.5	25.0
		40歳～49歳	n=45	-	6.7	35.6	24.4	33.3	-	6.7	24.4
		50歳～59歳	n=41	-	9.8	51.2	17.1	7.3	14.6	9.8	24.4
		60歳～69歳	n=96	-	7.3	40.6	33.3	5.2	13.5	7.3	38.5
		70歳以上	n=88	1.1	8.0	45.5	29.5	1.1	11.4	9.1	30.6
	女性	20歳～29歳	n=24	-	4.2	29.2	16.7	-	50.0	4.2	16.7
		30歳～39歳	n=48	-	2.1	37.5	33.3	4.2	22.9	2.1	37.5
		40歳～49歳	n=65	-	7.7	30.8	29.2	7.7	23.1	7.7	36.9
		50歳～59歳	n=85	-	3.5	42.4	34.1	7.1	11.8	3.5	41.2
		60歳～69歳	n=86	1.2	3.5	20.9	50.0	4.7	17.4	4.7	54.7
		70歳以上	n=110	-	5.5	34.5	28.2	9.1	11.8	5.5	37.3

<性別 / 性・年代別の値の比較>

⑤政治の場で

性別で見ると、「男性の方が非常に優遇されている(男性33.4%、女性42.2%)」は女性が男性より8.8ポイント高い。

性・年代別で見ると、「平等になっている」は、[男性50～59歳(22.0%)]が高い。『男性優遇』は、[女性50～59歳]、[女性60歳～69歳]が約8割と高くなっている。

⑥法律や制度の上で

性別で見ると、「平等になっている(男性37.3%、女性19.8%)」は男性が女性より17.5ポイント高い。

性・年代別で見ると、「平等になっている」は、[男性50歳～59歳(39.0%)]、[男性60歳～69歳(45.8%)]が高い。『男性優遇』は、[女性50歳～59歳(56.5%)]が高くなっている。

■ 男女の地位 -性別 / 性・年代別-

単位:%

※全体より10ポイント以上高い=太字・塗潰し(赤)、全体より10ポイント以上低い=白太字・下線・塗潰し(青)。
ただし30サンプル未満の属性は除く。

⑤政治の場で			女性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	男性の方が非常に優遇されている	わからない	無回答	『女性優遇』	『男性優遇』
全体		n=771	-	0.8	9.2	32.8	38.5	14.4	4.3	0.8	71.3
性	男性	n=308	-	1.3	15.9	36.7	33.4	10.4	2.3	1.3	70.1
	女性	n=419	-	0.5	4.1	31.0	42.2	17.7	4.5	0.5	73.2
性・年代	男性	20歳～29歳	n=13	-	-	15.4	38.5	30.8	15.4	-	69.3
		30歳～39歳	n=24	-	4.2	20.8	25.0	29.2	-	4.2	45.8
		40歳～49歳	n=45	-	2.2	17.8	37.8	31.1	8.9	2.2	68.9
		50歳～59歳	n=41	-	-	22.0	31.7	41.5	4.9	-	73.2
		60歳～69歳	n=96	-	2.1	11.5	35.4	44.8	6.3	2.1	80.2
		70歳以上	n=88	-	-	15.9	42.0	22.7	6.8	-	64.7
	女性	20歳～29歳	n=24	-	-	8.3	29.2	29.2	33.3	-	58.4
		30歳～39歳	n=48	-	-	2.1	29.2	43.8	25.0	-	73.0
		40歳～49歳	n=65	-	-	3.1	35.4	41.5	18.5	1.5	76.9
		50歳～59歳	n=85	-	1.2	3.5	30.6	51.8	11.8	1.2	82.4
		60歳～69歳	n=86	-	-	3.5	30.2	52.3	11.6	2.3	82.5
		70歳以上	n=110	-	0.9	5.5	30.0	30.0	20.0	13.6	60.0

⑥法律や制度の上で			女性の方が 非常に優遇 されている	どちらかといえば 女性の方が 優遇されている	平等に なっている	どちらかといえば 男性の方が 優遇されている	男性の方が 非常に優遇 されている	わから ない	無回答	『女性 優遇』	『男性 優遇』	
全体		n=771	0.3	4.4	26.6	31.8	14.3	19.2	3.5	4.7	46.1	
性	男性	n=308	0.3	5.8	37.3	31.5	11.7	12.7	0.6	6.1	43.2	
	女性	n=419	0.2	3.3	19.8	31.0	16.7	24.6	4.3	3.5	47.7	
性・年代	男性	20歳～29歳	n=13	-	7.7	23.1	15.4	30.8	23.1	-	7.7	46.2
		30歳～39歳	n=24	4.2	16.7	33.3	20.8	4.2	20.8	-	20.9	25.0
		40歳～49歳	n=45	-	8.9	26.7	35.6	11.1	17.8	-	8.9	46.7
		50歳～59歳	n=41	-	7.3	39.0	22.0	17.1	14.6	-	7.3	39.1
		60歳～69歳	n=96	-	4.2	45.8	29.2	13.5	7.3	-	4.2	42.7
		70歳以上	n=88	-	1.1	36.4	42.0	6.8	11.4	2.3	1.1	48.8
	女性	20歳～29歳	n=24	-	16.7	16.7	12.5	12.5	41.7	-	16.7	25.0
		30歳～39歳	n=48	-	6.3	18.8	22.9	16.7	35.4	-	6.3	39.6
		40歳～49歳	n=65	1.5	4.6	20.0	36.9	16.9	18.5	1.5	6.1	53.8
		50歳～59歳	n=85	-	2.4	22.4	29.4	27.1	17.6	1.2	2.4	56.5
		60歳～69歳	n=86	-	2.3	17.4	44.2	9.3	23.3	3.5	2.3	53.5
		70歳以上	n=110	-	-	20.9	26.4	15.5	25.5	11.8	-	41.9

<性別 / 性・年代別の値の比較>

⑦社会通念・慣習・しきたりなどで

性別では、男女で顕著な差は見られない。

性・年代別で見ると、『男性優遇』は、[男性60歳～69歳]、[女性30歳～39歳]、[女性50歳～59歳]、[女性60歳～69歳]が8割以上と高い。

⑧社会全体で

性別で見ると、『男性優遇(男性67.8%、女性75.0%)』は女性が男性より7.2ポイント高い。

性・年代別で見ると、『女性優遇』は、[男性40歳～49歳(13.3%)]が高い。「どちらかといえば男性の方が優遇されている」は、[女性60歳～69歳(70.9%)]が高く、「男性の方が非常に優遇されている」は、[女性50歳～59歳(28.2%)]が高くなっている。

■ 男女の地位 -性別 / 性・年代別-

単位: %

※全体より10ポイント以上高い=太字・塗潰し(赤)、全体より10ポイント以上低い=白太字・下線・塗潰し(青)。
ただし30サンプル未満の属性は除く。

⑦社会通念・慣習・しきたりなどで			女性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	男性の方が非常に優遇されている	わからない	無回答	『女性優遇』	『男性優遇』
全体		n=771	0.3	1.7	10.4	48.9	27.0	8.9	2.9	2.0	75.9
性	男性	n=308	0.3	2.3	14.0	50.0	23.7	8.8	1.0	2.6	73.7
	女性	n=419	-	1.4	8.1	48.0	30.3	9.1	3.1	1.4	78.3
性・年代	男性	20歳～29歳	n=13	-	15.4	15.4	30.8	23.1	-	15.4	46.2
		30歳～39歳	n=24	-	4.2	20.8	50.0	8.3	16.7	4.2	58.3
		40歳～49歳	n=45	2.2	-	17.8	48.9	20.0	11.1	2.2	68.9
		50歳～59歳	n=41	-	2.4	9.8	51.2	26.8	9.8	2.4	78.0
		60歳～69歳	n=96	-	2.1	9.4	50.0	35.4	3.1	2.1	85.4
		70歳以上	n=88	-	1.1	17.0	54.5	14.8	9.1	1.1	69.3
	女性	20歳～29歳	n=24	-	4.2	16.7	20.8	25.0	33.3	4.2	45.8
		30歳～39歳	n=48	-	-	8.3	52.1	31.3	8.3	-	83.4
		40歳～49歳	n=65	-	1.5	10.8	47.7	30.8	6.2	1.5	78.5
		50歳～59歳	n=85	-	-	3.5	48.2	40.0	8.2	-	88.2
		60歳～69歳	n=86	-	2.3	3.5	51.2	36.0	4.7	2.3	87.2
		70歳以上	n=110	-	1.8	10.9	50.0	19.1	10.0	1.8	69.1

⑧社会全体で			女性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	男性の方が非常に優遇されている	わからない	無回答	『女性優遇』	『男性優遇』
全体		n=771	0.3	2.7	13.4	54.5	17.4	9.2	2.6	3.0	71.9
性	男性	n=308	0.6	5.5	18.5	54.5	13.3	6.8	0.6	6.1	67.8
	女性	n=419	-	1.0	10.3	54.7	20.3	11.0	2.9	1.0	75.0
性・年代	男性	20歳～29歳	n=13	-	-	15.4	38.5	23.1	23.1	-	61.6
		30歳～39歳	n=24	4.2	12.5	29.2	45.8	4.2	4.2	16.7	50.0
		40歳～49歳	n=45	-	13.3	15.6	37.8	17.8	15.6	13.3	55.6
		50歳～59歳	n=41	2.4	4.9	12.2	58.5	22.0	-	7.3	80.5
		60歳～69歳	n=96	-	3.1	19.8	59.4	15.6	2.1	3.1	75.0
		70歳以上	n=88	-	3.4	19.3	60.2	5.7	9.1	3.4	65.9
	女性	20歳～29歳	n=24	-	-	16.7	45.8	8.3	29.2	-	54.1
		30歳～39歳	n=48	-	-	12.5	60.4	20.8	6.3	-	81.2
		40歳～49歳	n=65	-	1.5	9.2	49.2	21.5	16.9	1.5	70.7
		50歳～59歳	n=85	-	-	9.4	51.8	28.2	9.4	-	80.0
		60歳～69歳	n=86	-	1.2	3.5	70.9	16.3	5.8	1.2	87.2
		70歳以上	n=110	-	1.8	14.5	46.4	19.1	10.9	1.8	65.5

(2) 子どもの育て方について

問2 あなたは、子どもの育て方についてどのように思いますか。

①～④の項目について、それぞれ1つ選んで○をつけてください。

①男女とも経済的自立ができるように育てる

< 全体 >

「①男女とも経済的自立ができるように育てる」については、「賛成(70.9%)」、「どちらかといえば賛成(22.7%)」を合わせた『賛成』が93.6%と高い。

< 性別の値の比較 >

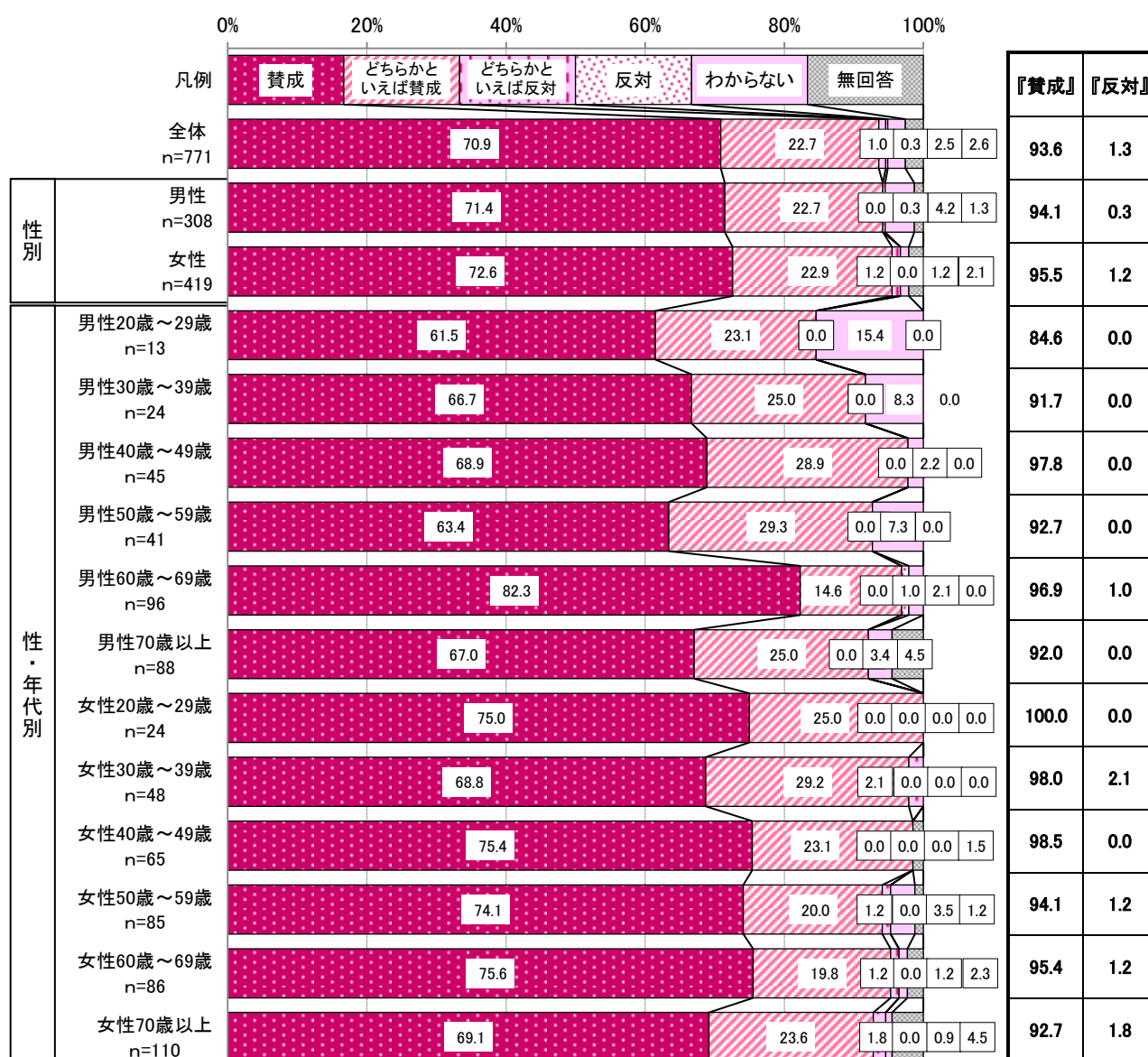
性別では、男女で顕著な差は見られない。

< 性・年代別の値の比較 >

「賛成」は、[男性60歳～69歳]が82.3%と高い。

※『賛成』は「賛成」「どちらかといえば賛成」の合計、『反対』は「反対」「どちらかといえば反対」の合計

■ 子どもの育て方について(①男女とも経済的自立ができるように育てる) -性別 / 性・年代別-



②男女とも家事ができるように育てる

< 全体 >

「②男女とも家事ができるように育てる」については、「賛成(56.9%)」、「どちらかといえば賛成(33.5%)」を合わせた『賛成』が90.4%と高い。

< 性別の値の比較 >

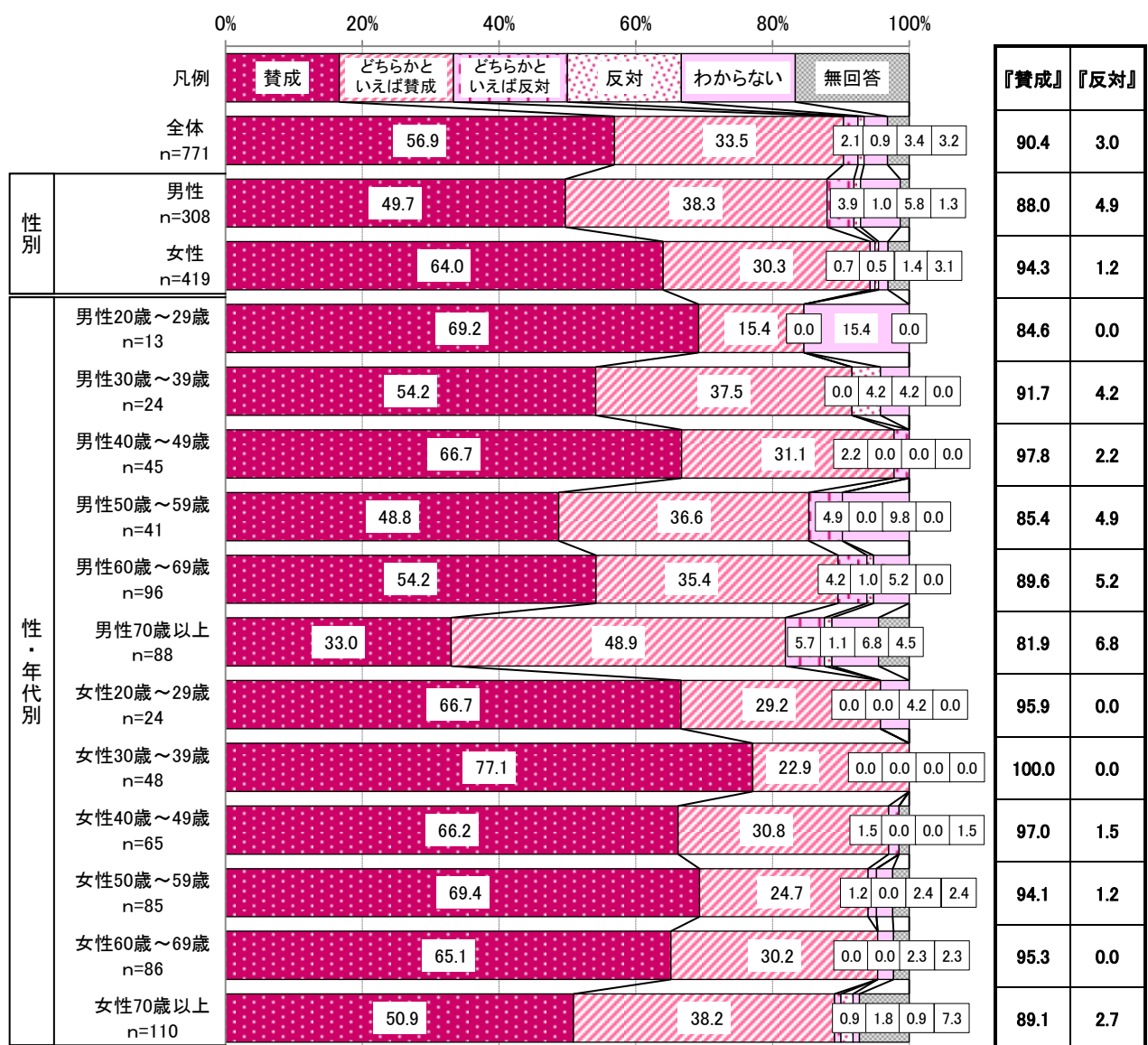
「賛成(男性49.7%、女性64.0%)」は女性が男性より14.3ポイント高い。

< 性・年代別の値の比較 >

「賛成」は、[女性30歳～39歳(77.1%)]が最も高い。

※『賛成』は「賛成」「どちらかといえば賛成」の合計、『反対』は「反対」「どちらかといえば反対」の合計

■ 子どもの育て方について(②男女とも家事ができるように育てる) -性別 / 性・年代別-



③男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる

< 全体 >

「③男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる」については、「賛成(28.1%)」、「どちらかといえば賛成(36.3%)」を合わせた『賛成』は64.4%と約6割を占めている。

< 性別の値の比較 >

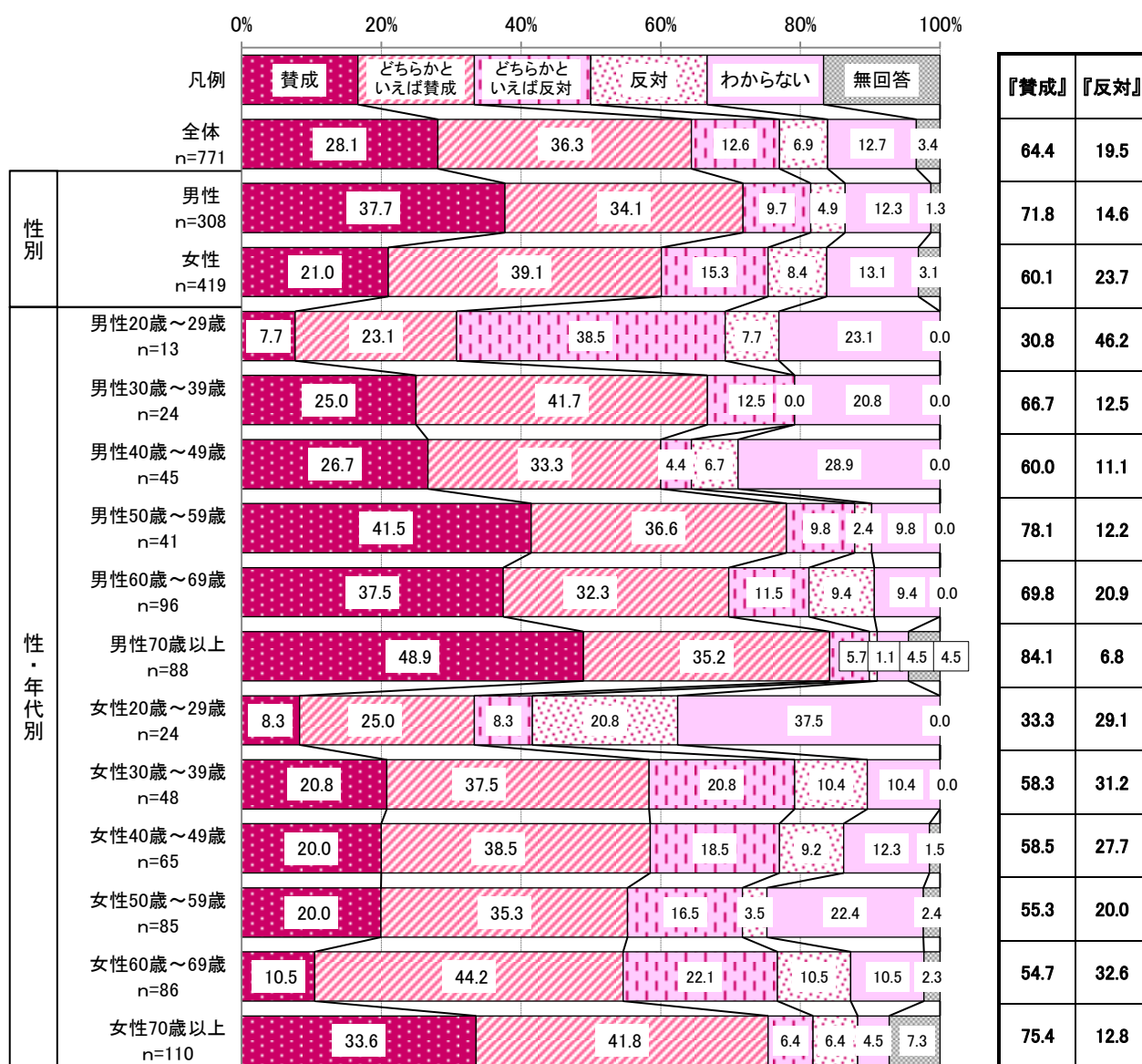
「賛成(男性37.7%、女性21.0%)」は男性が女性より16.7ポイント高い。

< 性・年代別の値の比較 >

「賛成」は、[男性70歳以上(48.9%)]、[男性50歳～59歳(41.5%)]が高い。『賛成』の値については、[男性70歳以上(84.1%)]、[男性50歳～59歳(78.1%)]、[女性70歳以上(75.4%)]で7割以上を占めている。

※『賛成』は「賛成」「どちらかといえば賛成」の合計、『反対』は「反対」「どちらかといえば反対」の合計

■ 子どもの育て方について(③男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる) -性別 / 性・年代別-



④性別に関わらず子どもの個性を大切に育てる

< 全体 >

「④性別に関わらず子どもの個性を大切に育てる」については、「賛成(70.7%)」、「どちらかといえば賛成(23.9%)」を合わせた『賛成』は94.6%と高い。

< 性別の値の比較 >

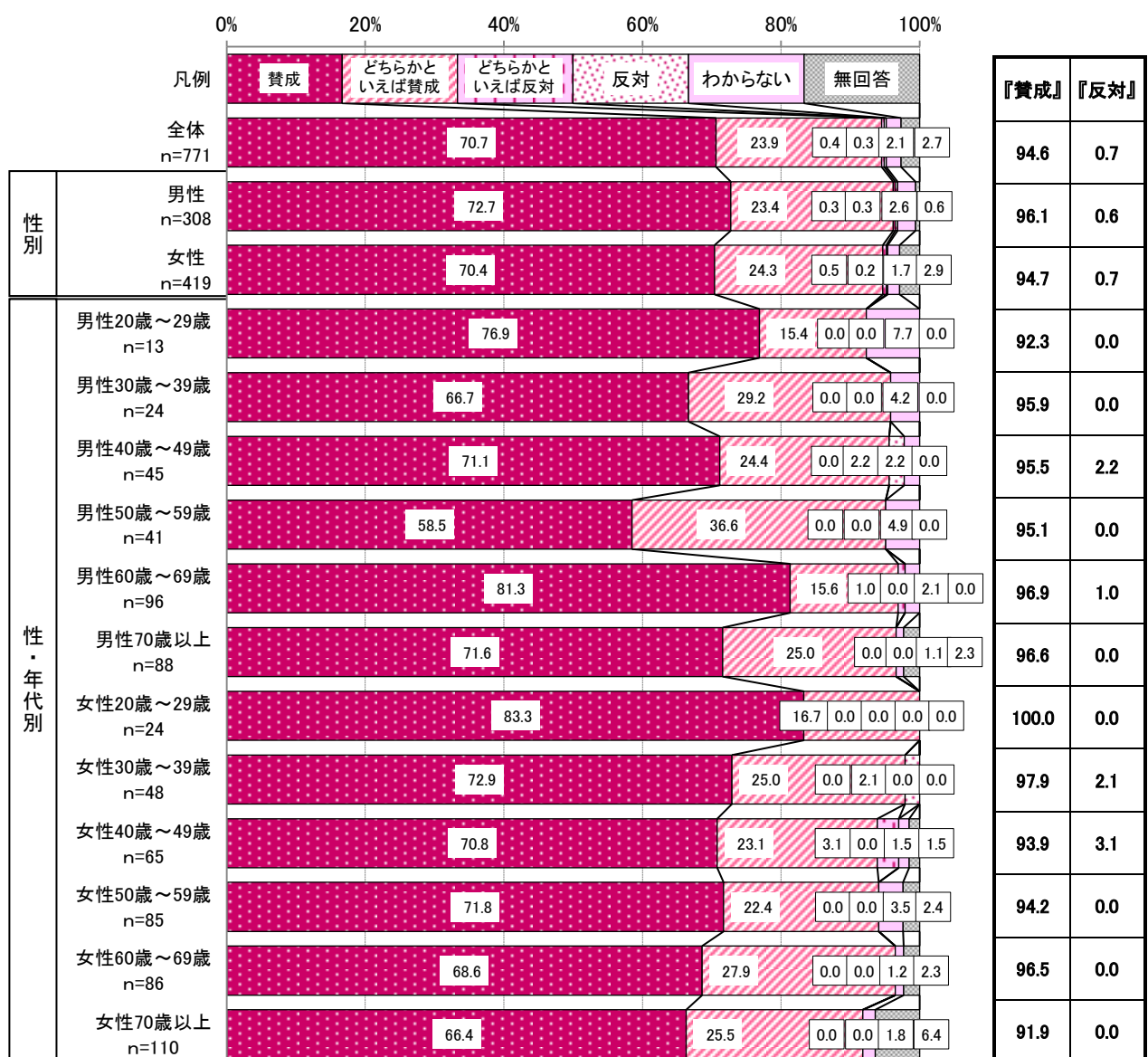
性別では、男女で顕著な差は見られない。

< 性・年代別の値の比較 >

「賛成」は、[男性70歳以上(33.0%)]が他の性・年代より低くなっている。

※『賛成』は「賛成」「どちらかといえば賛成」の合計、『反対』は「反対」「どちらかといえば反対」の合計

■ 子どもの育て方について(④性別に関わらず子どもの個性を大切に育てる) -性別 / 性・年代別-



(3) 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について

問3 あなたは、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方に対してどう思いますか。
次の中から1つ選んで○をつけてください。

< 全体 >

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方については、「賛成(5.3%)」、「どちらかといえば賛成(30.1%)」を合わせた『賛成』は35.4%、「反対(22.2%)」と「どちらかといえば反対(28.4%)」を合わせた『反対』は50.6%であり、『反対』が『賛成』より高い。

< 性別の値の比較 >

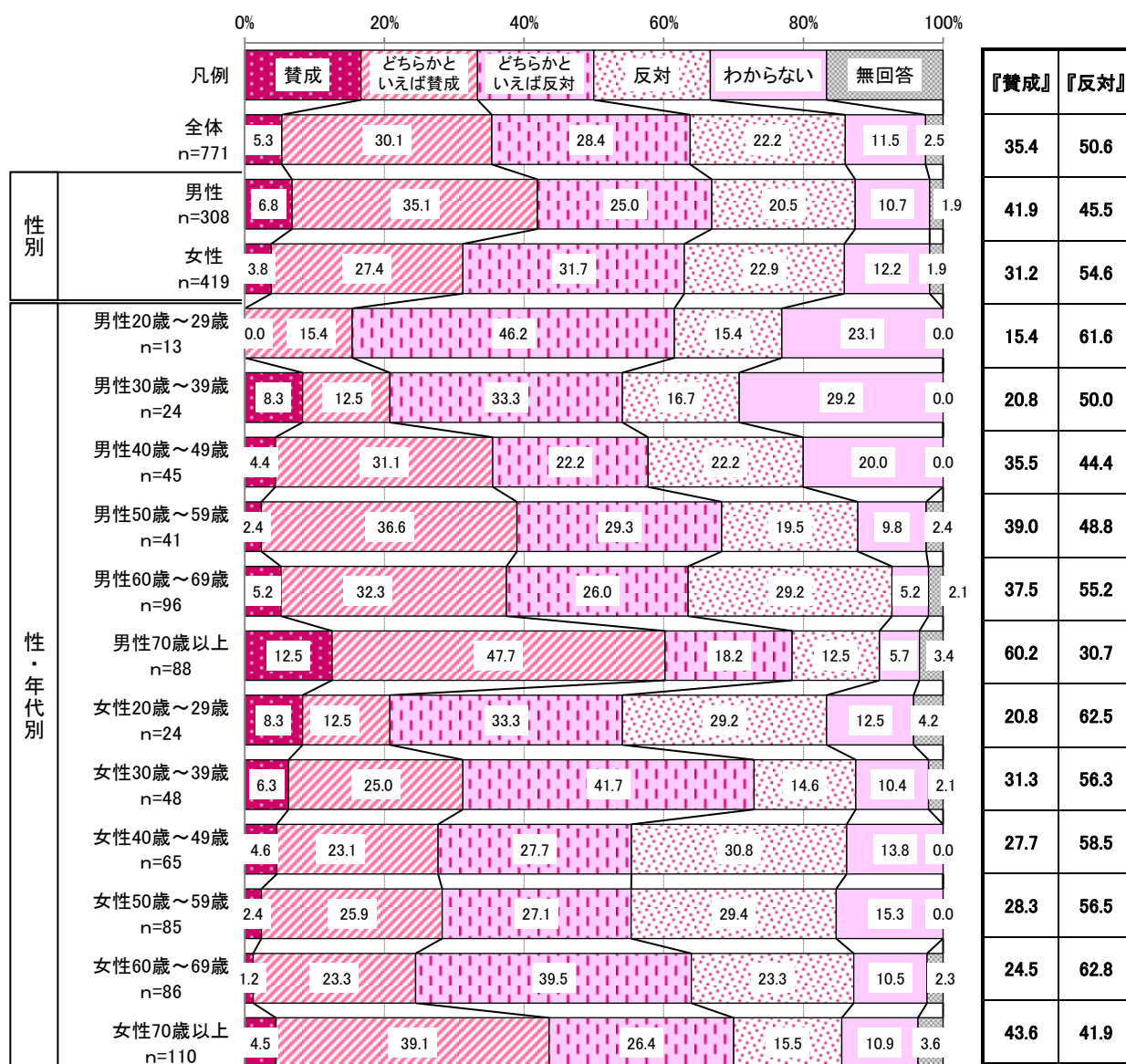
『賛成(男性41.9%、女性31.2%)』は男性が女性より10.7ポイント高い。

< 性・年代別の値の比較 >

『賛成』は、[男性70歳以上(60.2%)]が他の性・年代より高くなっている。

※『賛成』は「賛成」「どちらかといえば賛成」の合計、『反対』は「反対」「どちらかといえば反対」の合計

■ 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について -性別 / 性・年代別-



2. 家庭生活について

(1) 男女がともに家事、育児、介護などに積極的に参加するために必要なこと

問4 男女がともに家事、育児、介護などに積極的に参加していくためにはどのようなことが必要だと思いますか。次の中から3つ以内で選んで○をつけてください。

< 全体 >

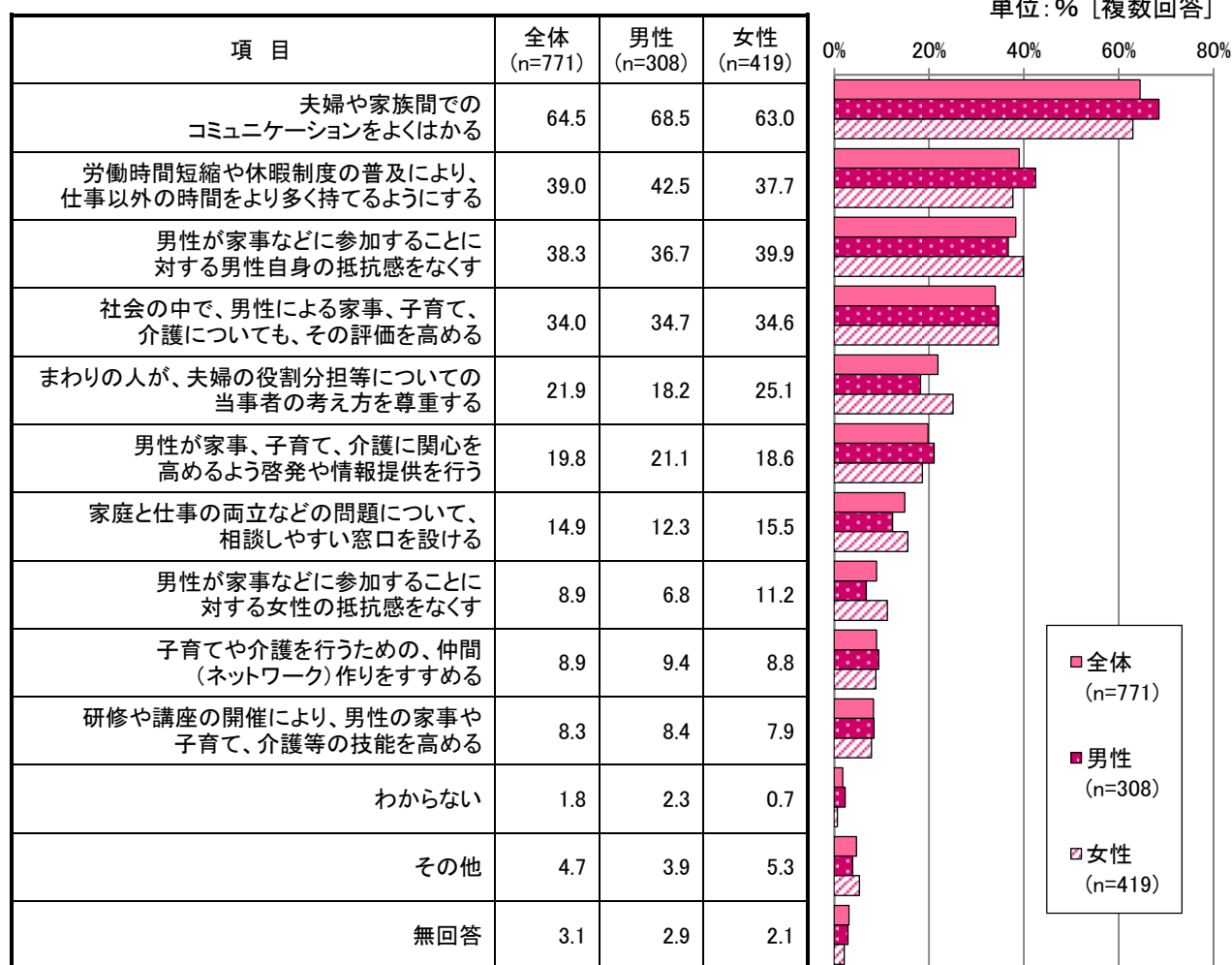
男女がともに家事、育児、介護などに積極的に参加していくために必要だと思うことについては、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる(64.5%)」が最も高く、ついで、「労働時間短縮や休暇制度の普及により、仕事以外の時間をより多く持てるようにする(39.0%)」、「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす(38.3%)」が高い。

< 性別の値の比較 >

男女とも、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる」が6割以上を占め、最も高くなっている。

「まわりの人が、夫婦の役割分担等についての当事者の考え方を尊重する(男性18.2%、女性25.1%)」は女性が男性より6.9ポイント高い。

■ 男女がともに家事、育児、介護などに積極的に参加するために必要なこと -性別-



< 性・年代別の値の比較 >

「労働時間短縮や休暇制度の普及により、仕事以外の時間をより多く持てるようにする」は、[女性30歳～39歳(58.3%)]、[男性40歳～49歳(53.3%)]が高い。

「社会の中で、男性による家事、子育て、介護についても、その評価を高める」は、[男性40歳～49歳(46.7%)]が高い。

「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる」は、[男性70歳以上(75.0%)]、[女性70歳以上(74.5%)]が7割以上と高い一方、[女性30歳～39歳(45.8%)]は他の性・年代より低い。

「まわりの人が、夫婦の役割分担等についての当事者の考え方を尊重する」は、[女性40歳～49歳(32.3%)]で高くなっている。

■ 男女がともに家事、育児、介護などに積極的に参加するために必要なこと -性・年代別-

※全体より10ポイント以上高い＝太字・塗潰し(赤)、全体より10ポイント以上低い＝白太字・下線・塗潰し(青)。
ただし30サンプル未満の属性は除く。

単位: % [複数回答]

			夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる	労働時間短縮や休暇制度の普及	男性が家事などに参加すること	子育て、介護、男性による活動の評価を高める	社会の中で、男性による家事、子育て、介護についても、その評価を高める	まわりの人が、夫婦の役割分担等についての当事者の考え方を尊重する	男性が家事、子育て、介護に関する情報を提供を行う	男性が家事、子育て、介護に関する情報を提供を行う	家庭と仕事の両立などについて相談しやすい	男性が家事などに参加すること	子育てや介護を行うための仲間	研究や講座の開催により、男性の家事や子育ての能力を高める
全体			n=771	64.5	39.0	38.3	34.0	21.9	19.8	14.9	8.9	8.9	8.3	
性	男性	n=308	68.5	42.5	36.7	34.7	18.2	21.1	12.3	6.8	9.4	8.4		
	女性	n=419	63.0	37.7	39.9	34.6	25.1	18.6	15.5	11.2	8.8	7.9		
性・年代	男性	20歳～29歳	n=13	69.2	61.5	38.5	38.5	38.5	-	7.7	15.4	7.7	-	
		30歳～39歳	n=24	54.2	79.2	41.7	29.2	12.5	8.3	20.8	4.2	8.3	4.2	
		40歳～49歳	n=45	68.9	53.3	24.4	46.7	24.4	17.8	8.9	8.9	4.4	6.7	
		50歳～59歳	n=41	56.1	34.1	43.9	31.7	17.1	14.6	14.6	7.3	12.2	2.4	
		60歳～69歳	n=96	70.8	45.8	36.5	35.4	17.7	28.1	9.4	4.2	12.5	13.5	
		70歳以上	n=88	75.0	25.0	37.5	30.7	14.8	23.9	14.8	8.0	8.0	9.1	
	女性	20歳～29歳	n=24	66.7	54.2	29.2	25.0	37.5	12.5	8.3	8.3	16.7	-	
		30歳～39歳	n=48	45.8	58.3	43.8	31.3	22.9	18.8	18.8	4.2	2.1	8.3	
		40歳～49歳	n=65	69.2	33.8	35.4	33.8	32.3	16.9	9.2	12.3	7.7	3.1	
		50歳～59歳	n=85	58.8	37.6	45.9	40.0	28.2	23.5	14.1	12.9	9.4	8.2	
		60歳～69歳	n=86	55.8	36.0	41.9	41.9	20.9	17.4	16.3	12.8	9.3	8.1	
		70歳以上	n=110	74.5	29.1	37.3	28.2	20.0	17.3	20.0	11.8	10.0	11.8	

(2) 家庭での家事・育児・介護の分担

配偶者・パートナーのいる方のみにおたずねします。

問5 あなたのご家庭では、次にあげる家事などは主にどなたの役割ですか。

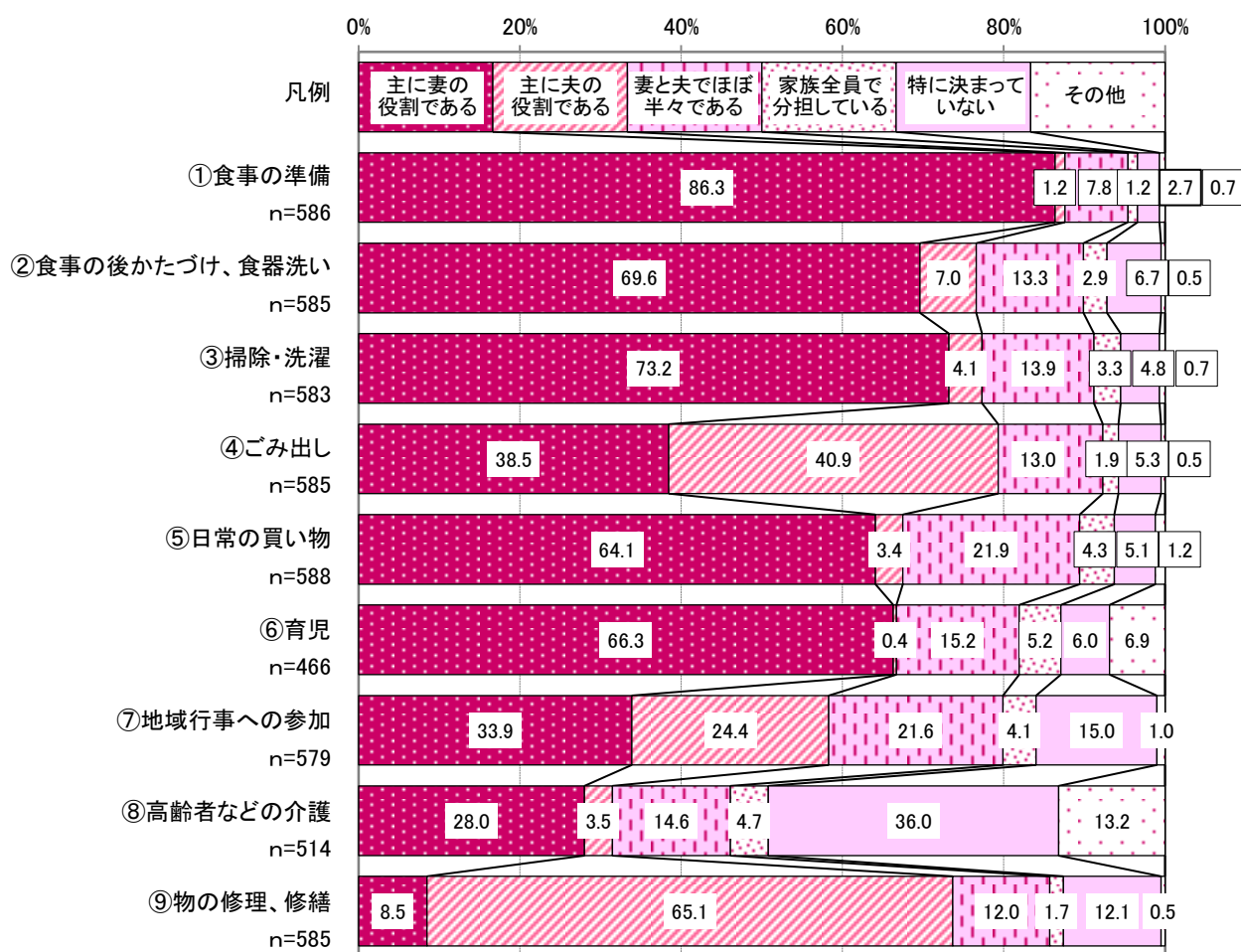
①～⑨の項目について、それぞれ1つ選んで○をつけてください。

< 全体 >

家庭での家事の役割分担について、「主に妻の役割である」は、[①食事の準備(86.3%)]が最も高く、ついで[③掃除、洗濯(73.2%)]、[②食事の後かたづけ、食器洗い(69.6%)]、[⑥育児(66.3%)]、[⑤日常の買い物(64.1%)]が高くなっている。

「主に夫の役割である」は、[⑨物の修理、修繕(65.1%)]が最も高く、ついで [④ごみ出し(40.9%)]、[⑦地域行事への参加(24.4%)]が高く、その他の項目では1割を下回っている。

■ 家庭での家事・育児・介護の分担



※①～⑨の各人数は、配偶者がいる者で無回答を除いた。

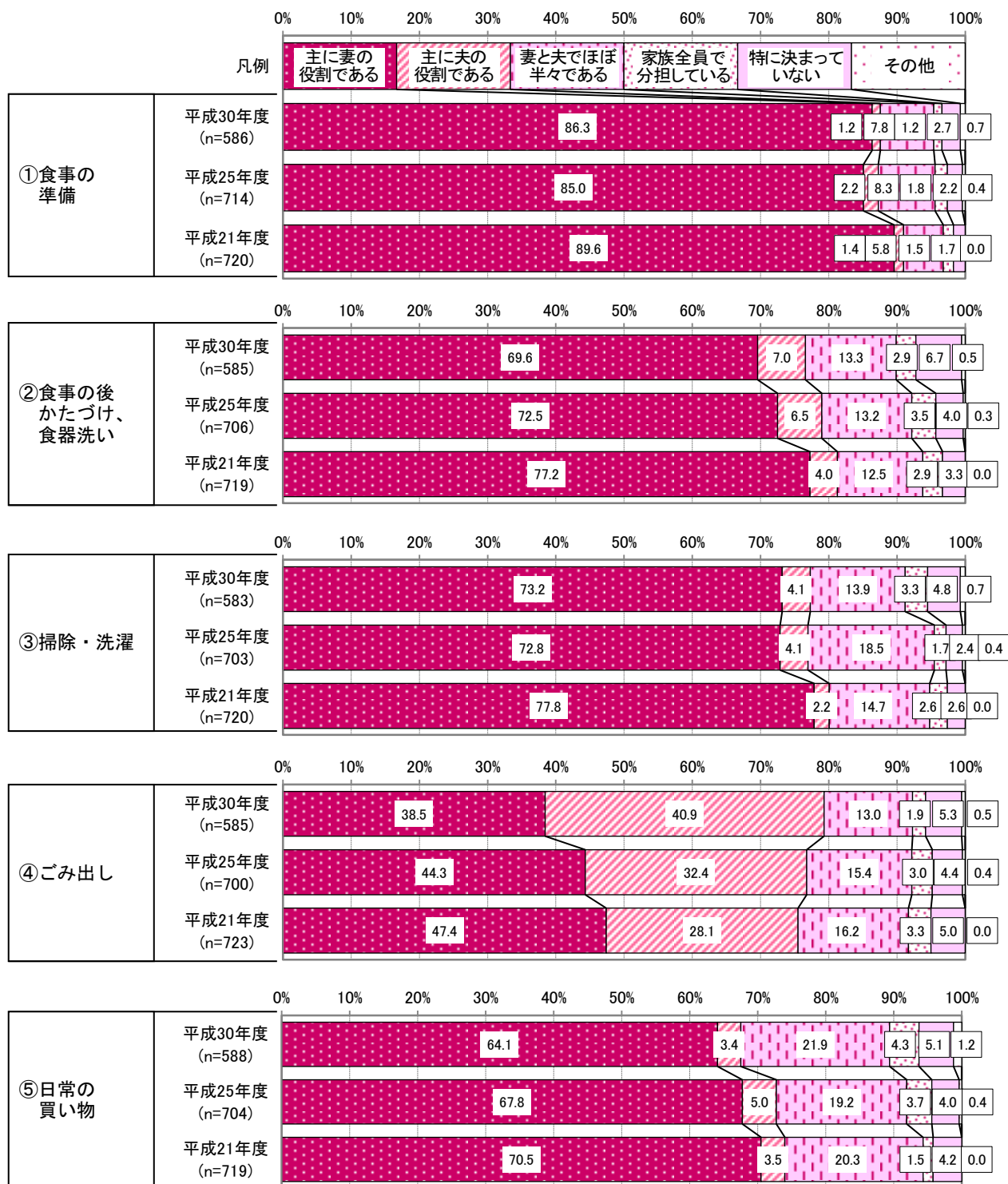
⑥育児は上記の条件かつ「子どもはいない」を除いた。

< 前回調査結果との比較 >

経年比較では、[④ごみ出し]の「主に夫の役割である(40.9%)」については、前回調査(32.4%)の値より8.5ポイント高く、増加傾向が見られる。反対に、「主に妻の役割である(38.5%)」についても、前回調査(44.3%)の値より5.8ポイント低く、減少傾向が見られる。

※平成25年度、平成21年度の調査では「妻と夫でほぼ半々である」の選択肢は、「夫婦で分担している」と表現されていたため、夫と妻の一方の比率が高い分担状況（今回調査の「主に妻の役割である」または「主に夫の役割である」に該当）が含まれていた可能性がある。したがって、本設問は厳密な経年比較が難しいため、平成21年度調査から継続した傾向のみをコメント対象とした。

■ 家庭での家事・育児・介護の分担 ー経年比較ー

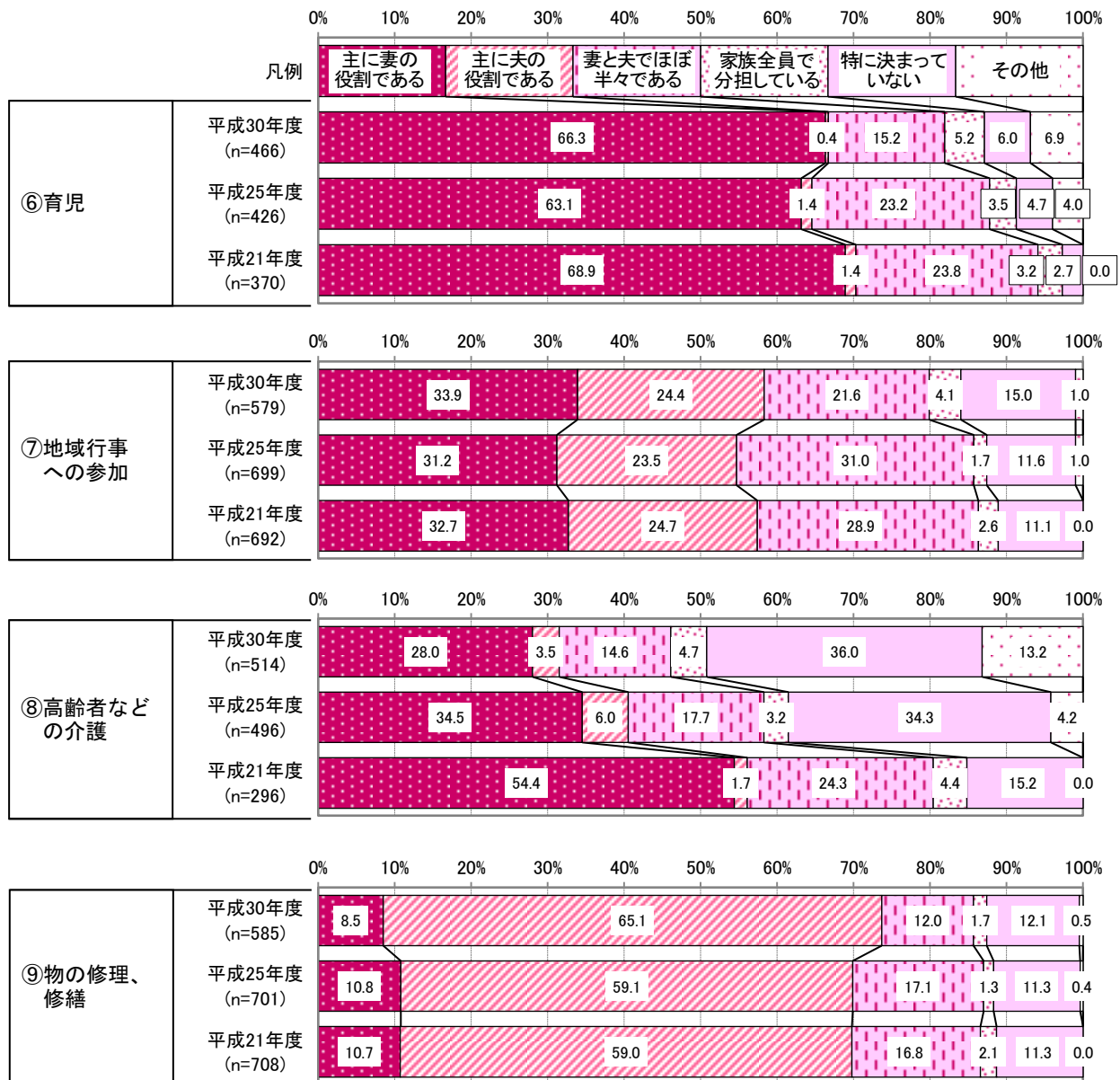


< 前回調査結果との比較（続き）>

〔⑧高齢者などの介護〕の「主に妻の役割である(28.0%)」については、前回調査(34.5%)の値より6.5ポイント低く、「特に決まっていない」「その他」の占める割合が大きくなっている。

※平成25年度、平成21年度の調査では「妻と夫でほぼ半々である」の選択肢は、「夫婦で分担している」と表現されていたため、夫と妻の一方の比率が高い分担状況（今回調査の「主に妻の役割である」または「主に夫の役割である」に該当）が含まれていた可能性がある。したがって、本設問は厳密な経年比較が難しいため、平成21年度調査から継続した傾向のみをコメント対象とした。

■ 家庭での家事・育児・介護の分担 ー経年比較ー



(3) 家庭での家事・育児・介護の分担の満足度

配偶者・パートナーのいる方のみにおたずねします。

問6 あなたは、家庭での家事・育児・介護の分担の満足度をどのように感じていますか。
次の中から1つ選んで○をつけてください。

< 全体 >

家庭での家事・育児・介護の分担の満足度については、『満足※(71.0%)』、『不満※(22.1%)』と『満足』が『不満』より高い。

< 性別の値の比較 >

『満足(男性87.0%、女性58.5%)』は、男性が女性より28.5ポイント高い。

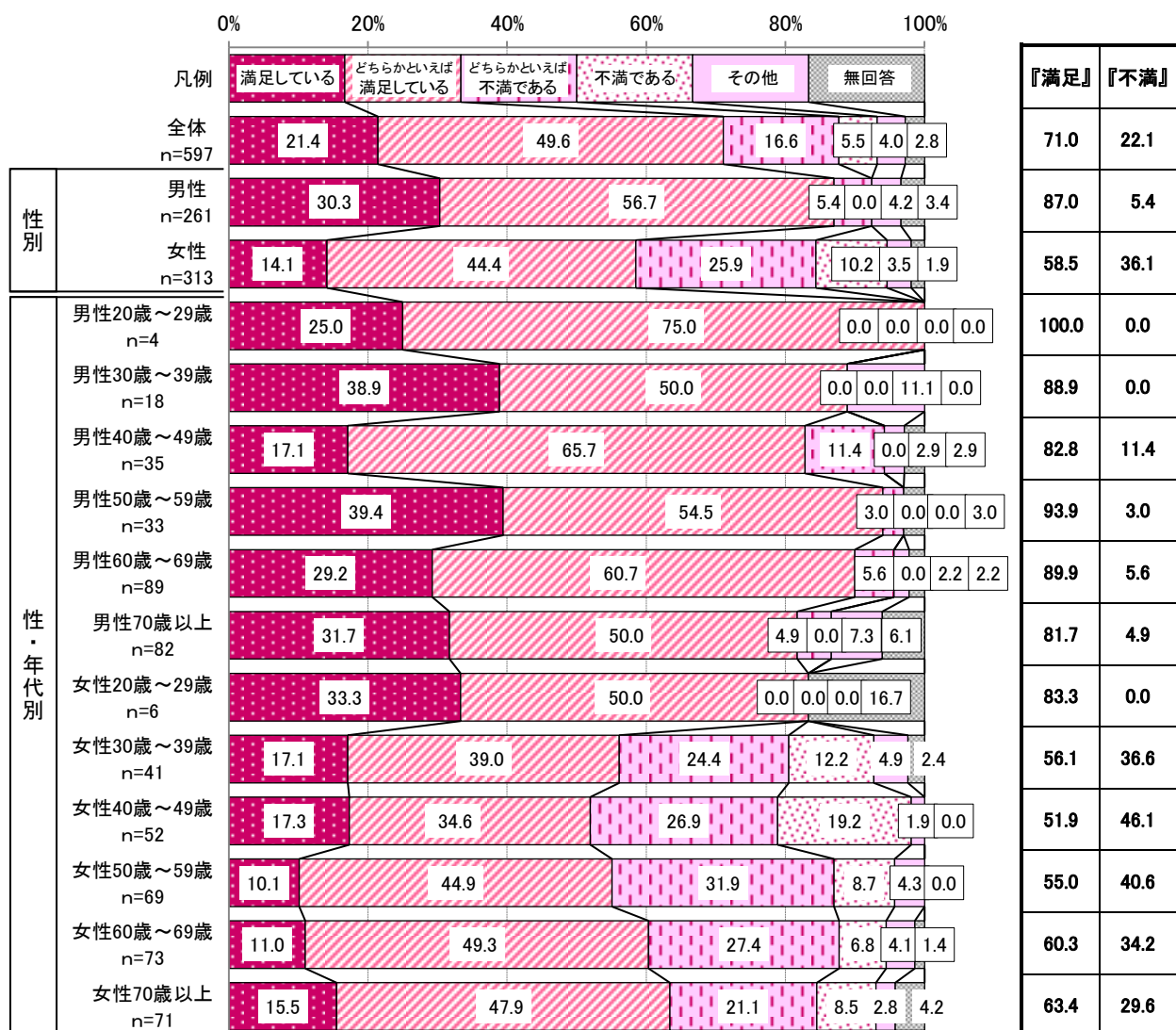
< 性・年代別の値の比較 >

『満足』は、男性は全年代で8割を超えているが、女性は、[女性40歳～49歳(51.9%)]、[女性50歳～59歳(55.0%)]、[女性30歳～39歳(56.1%)]、[女性60歳～69歳(60.3%)]において、同年代男性より『満足』の値が特に低くなっている。

※『満足』は「満足している」「どちらかといえば満足している」の合計

※『不満』は「不満である」「どちらかといえば不満である」の合計

■ 家庭での家事・育児・介護の分担の満足度 -性別 / 性・年代別-



3. 働く場について

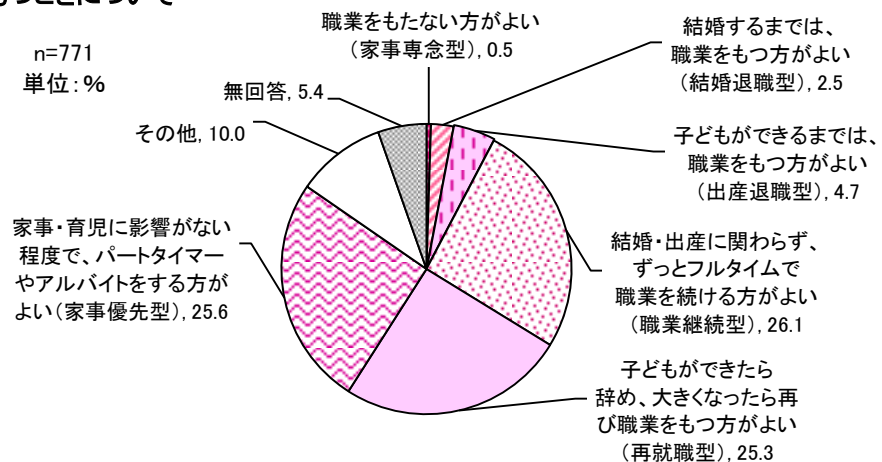
(1) 一般的に女性が職業をもつことについて

問7 あなたは、一般的に女性が職業をもつことについて、どのように思いますか。
次の中から1つ選んで○をつけてください。

< 全体 >

女性が職業をもつことについては、「結婚・出産に関わらず、ずっとフルタイムで職業を続ける方がよい（職業継続型）」が26.1%、「家事・育児に影響がない程度で、パートタイマーやアルバイトをする方がよい（家事優先型）」が25.6%、「子どもができたなら辞め、大きくなったら再び職業をもつ方がよい（再就職型）」が25.3%と高くなっている。

■ 一般的に女性が職業をもつことについて

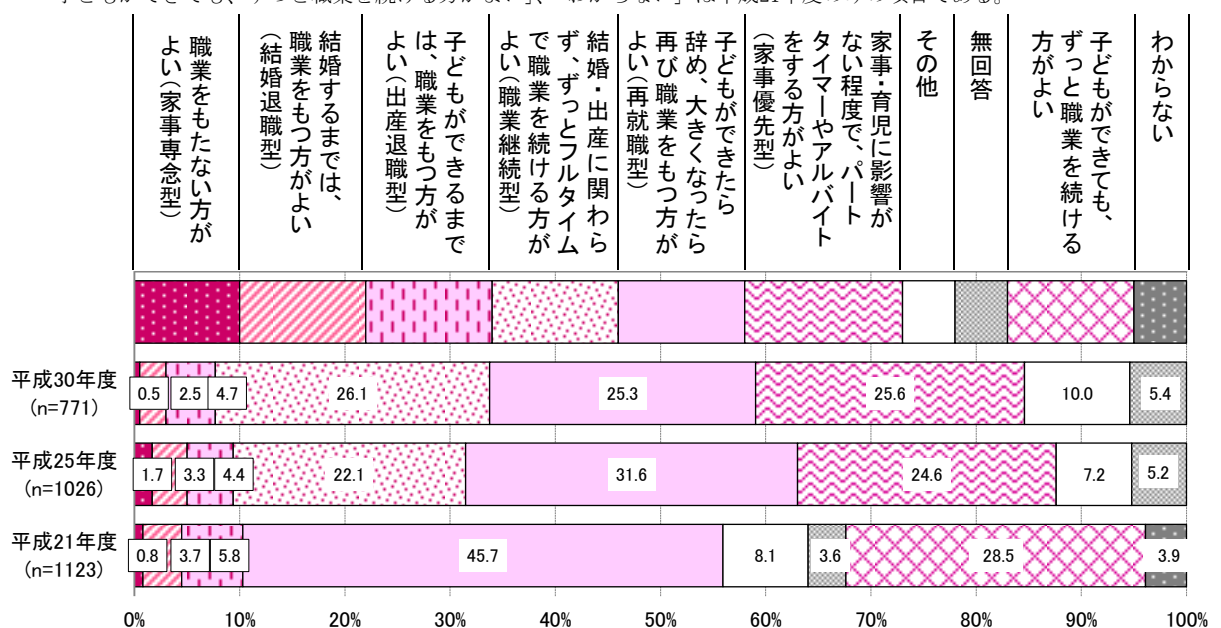


< 前回調査結果との比較 >

経年比較では、「子どもができたなら辞め、大きくなったら再び職業をもつ方がよい（再就職型）」の回答割合は減少傾向が見られる。

■ 一般的に女性が職業をもつことについて 経年比較

※平成21年度は「結婚・出産に関わらず、ずっとフルタイムで職業を続ける方がよい(職業継続型)」の項目がなく、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」、「わからない」は平成21年度のための項目である。



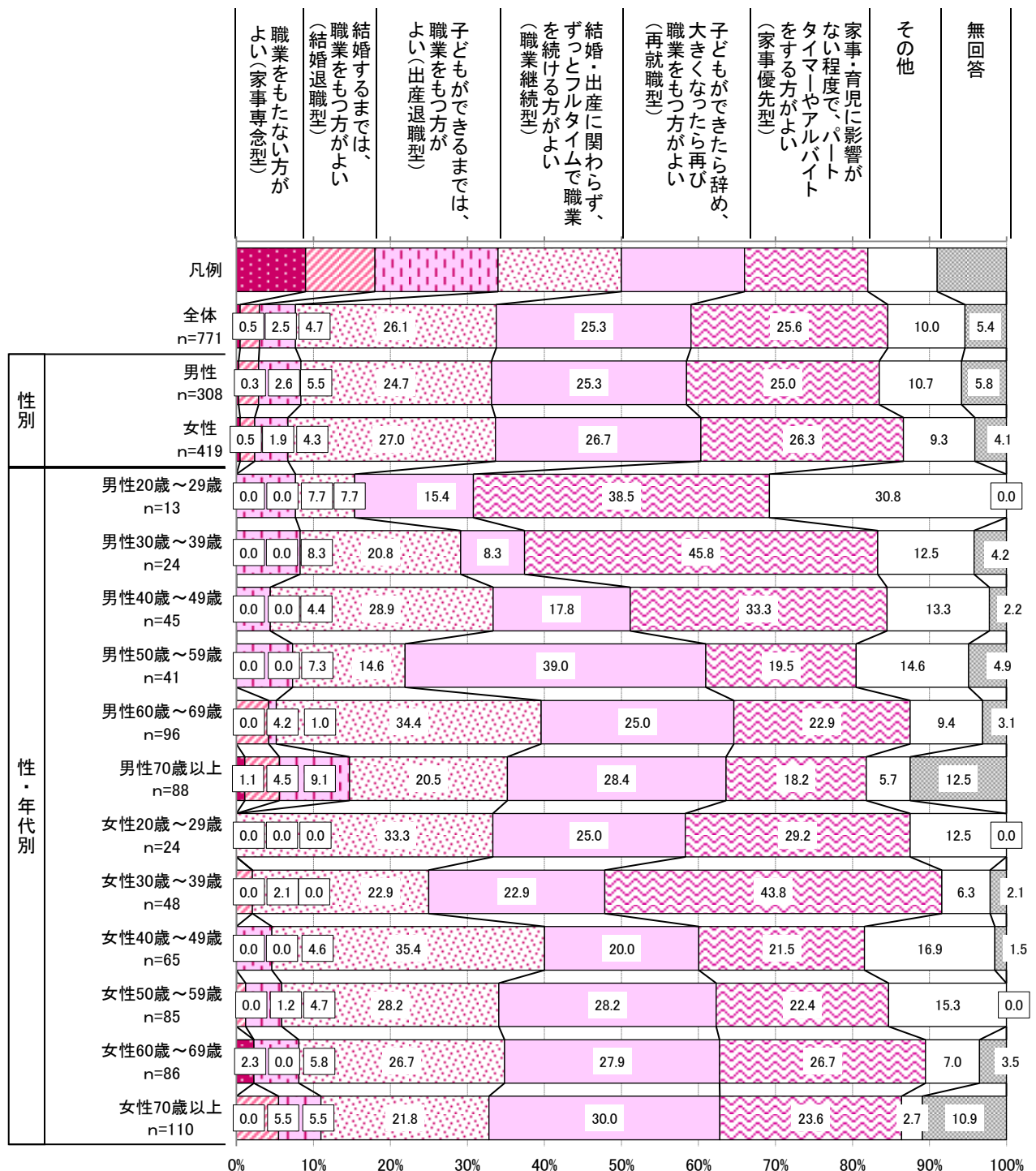
< 性別の値の比較 >

性別では、顕著な差は見られない。

< 性・年代別の値の比較 >

性・年代別では、「家事・育児に影響がない程度で、パートタイマーやアルバイトをする方がよい（家事優先型）」は、[男性30歳～39歳(45.8%、ただしサンプル数が少ないため参考値)]、[女性30歳～39歳(43.8)%]で高い。また、「子どもができたら辞め、大きくなったら再び職業をもつ方がよい（再就職型）」は、[男性50歳～59歳(39.0%)]が最も高くなっている。

■ 一般的に女性が職業をもつことについて -性別 / 性・年代別-



(2) 職場での男女の扱い

問8 あなたの今の職場では、男女の扱いについて、平等になっていると思いますか。

①～⑥の項目について、それぞれ1つ選んで○をつけてください。

< 全体 >

職場での男女の扱いについては、「平等になっている」との回答は、[⑤福利厚生]が66.7%、[⑥有給休暇の取得]が62.8%、[④教育訓練・研修]が60.5%と、それぞれ約6割を占めている。

しかし、[②昇進・昇格・評価]は、「平等になっている」が34.2%と低く、『男性優遇※』の回答割合が37.6%と高い。

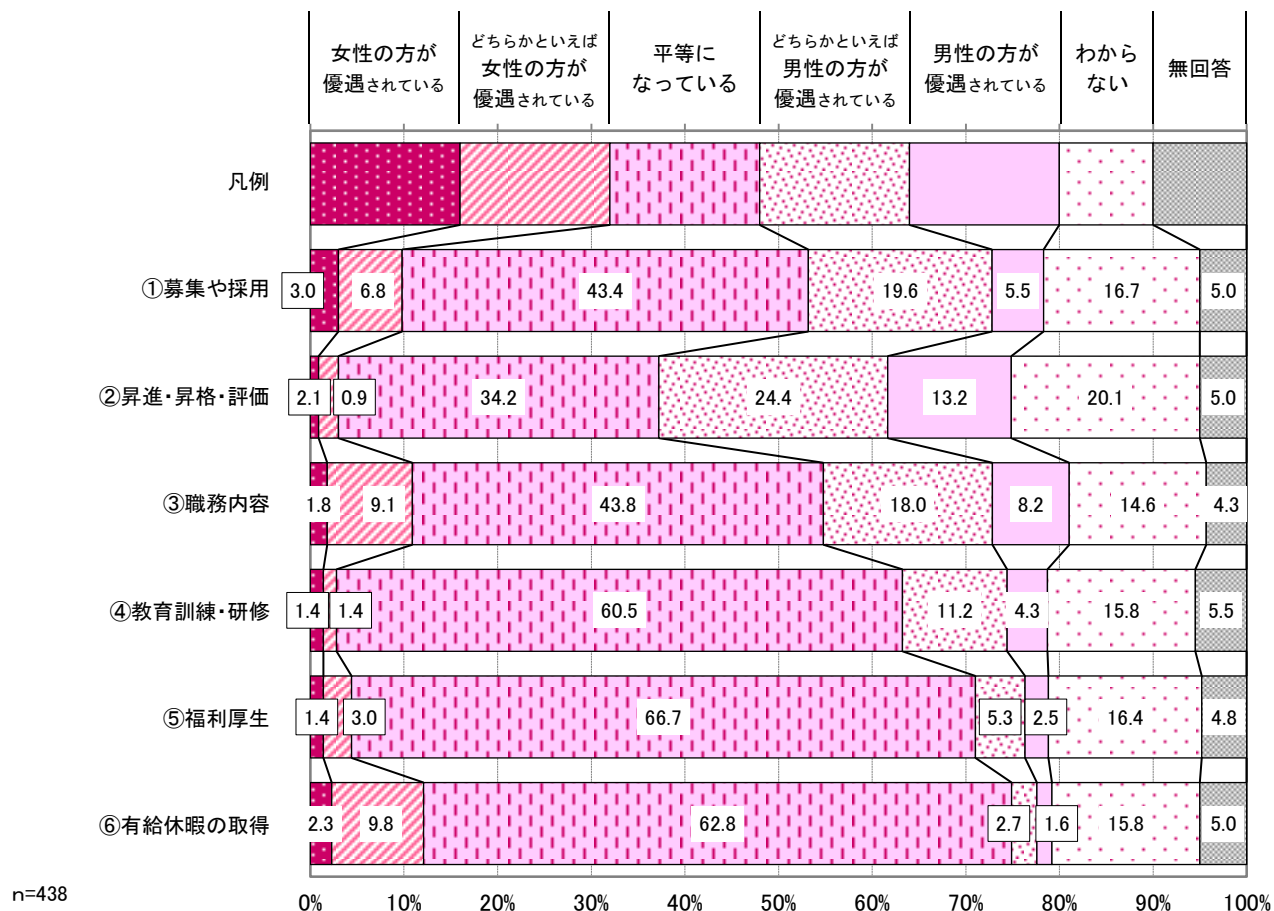
※『男性優遇』は「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計

※『女性優遇』は「女性の方が優遇されている」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の合計

■ 職場での男女の扱い

『女性優遇』※ 「平等になっている」 『男性優遇』※

① 募集や採用	9.8%	43.4%	25.1%
② 昇進・昇格・評価	3.0%	34.2%	37.6%
③ 職務内容	10.9%	43.8%	26.2%
④ 教育訓練・研修	2.8%	60.5%	15.5%
⑤ 福利厚生	4.4%	66.7%	7.8%
⑥ 有給休暇の取得	12.1%	62.8%	4.3%



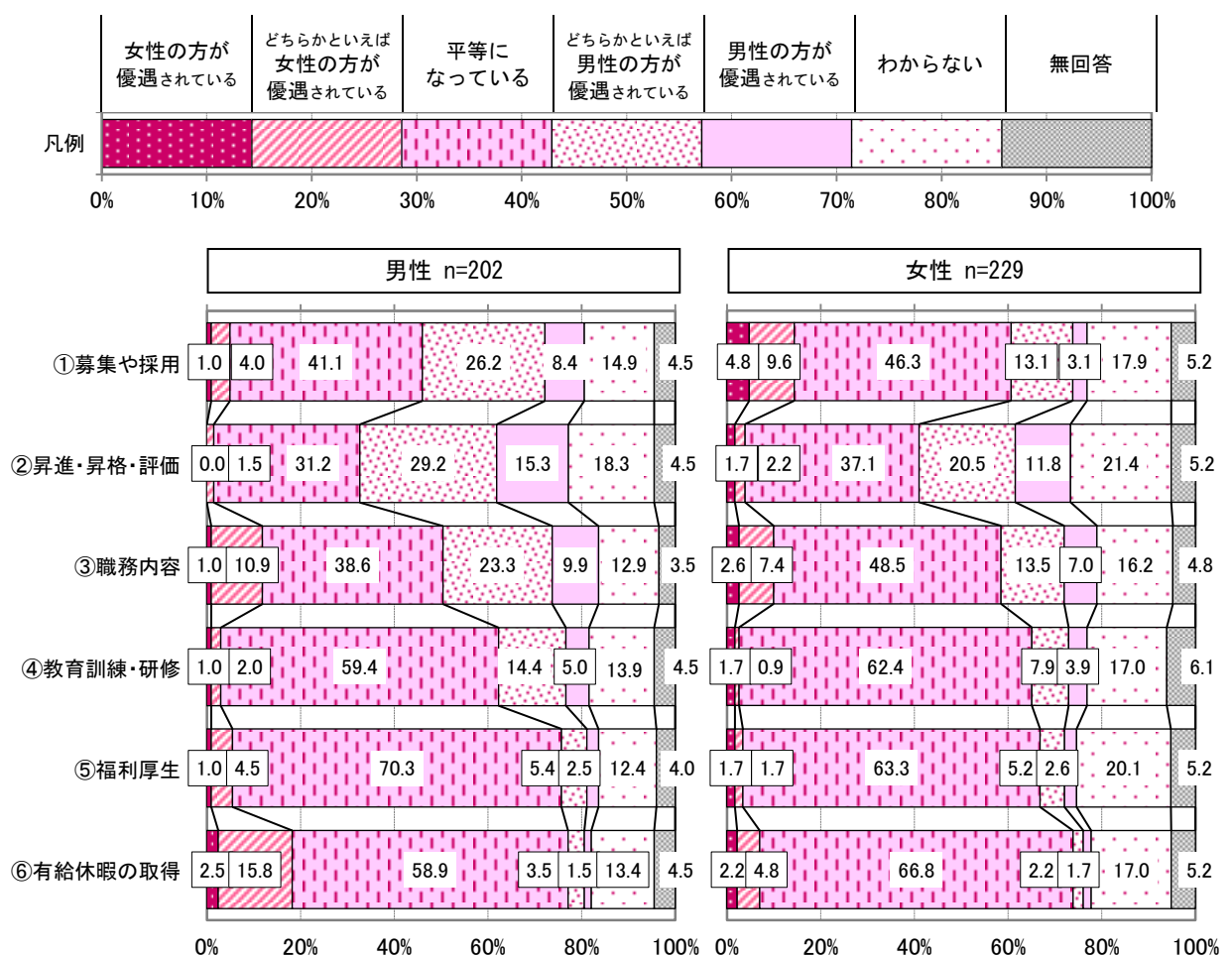
< 性別の値の比較 >

職場での男女の扱いについて、性別で見ると、[①募集や採用]、[②昇進・昇格・評価]、[③職務内容]、[⑥有給休暇の取得]は、「平等になっている」の回答が女性より5ポイント以上高く、女性の方が男性より「平等になっている」との意見が多い。

[①募集や採用]は「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の回答が男性26.2%、女性13.1%と男性の方が女性より「どちらかといえば男性の方が優遇されている」との意見が多い。

一方、[⑥有給休暇の取得]は「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の回答が男性15.8%、女性4.8%と、男性の方が女性より「どちらかといえば女性の方が優遇されている」との意見が多くなっている。

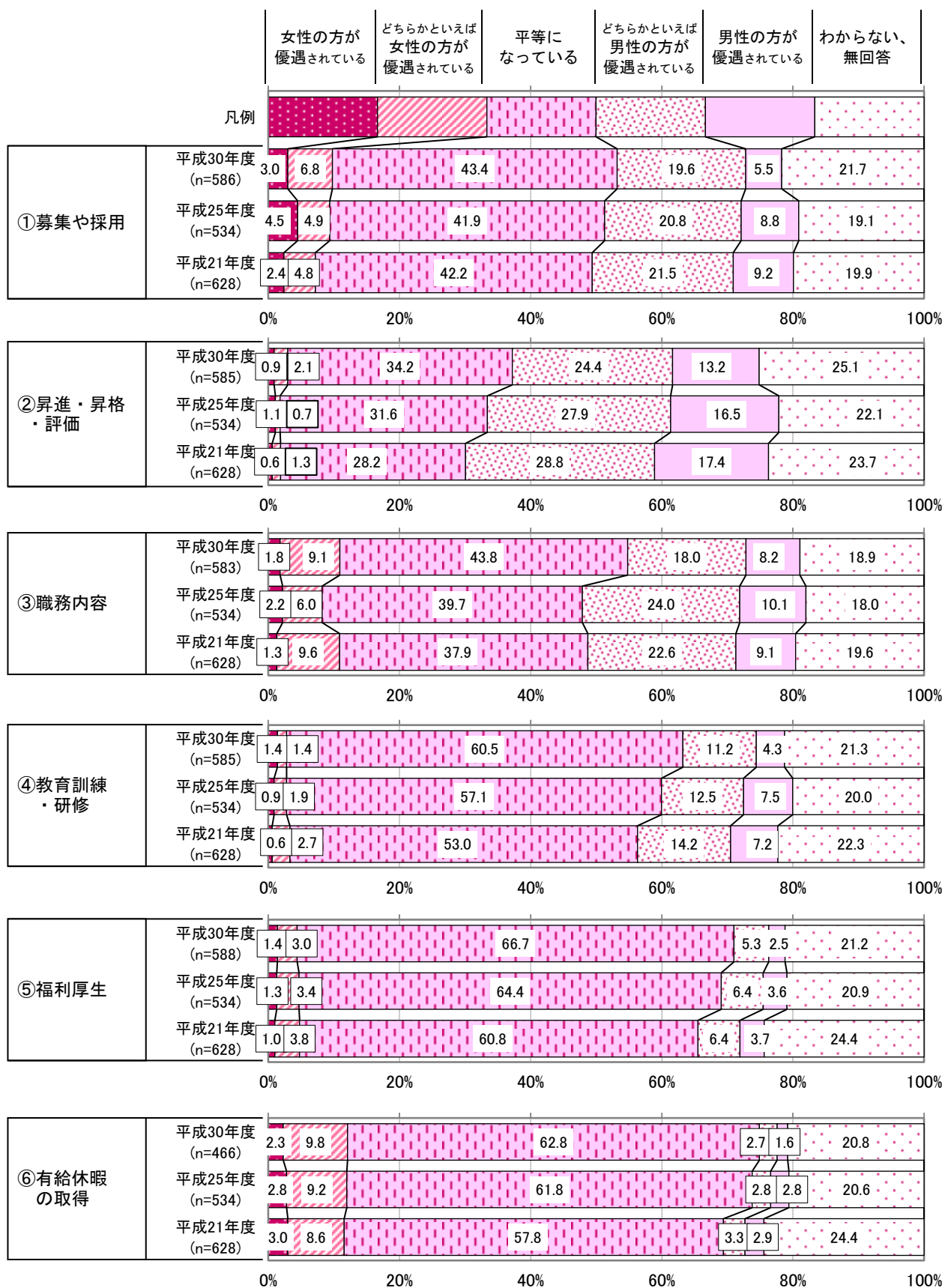
■ 職場での男女の扱い -性別-



< 前回調査結果との比較 >

経年比較では、全ての項目で「平等になっている」の回答が増加している。

■ 職場での男女の扱い -経年比較-



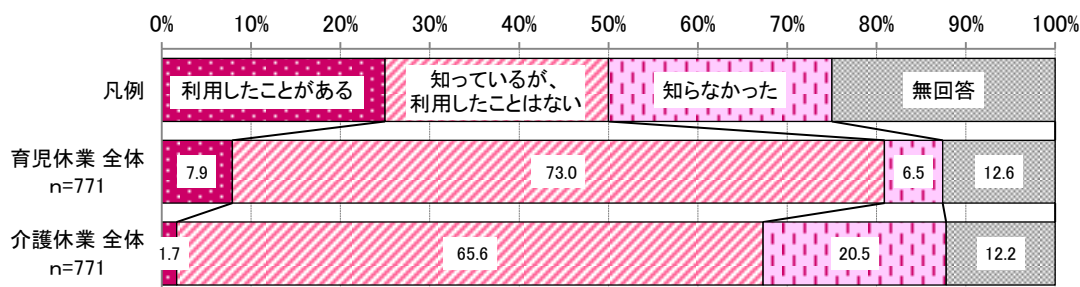
(3) 育児・介護休業の認知・利用状況

問9 あなたは、次にあげる制度をご存知ですか。また利用したことがありますか。
(1)～(2)の項目について、それぞれ1つ選んで○をつけてください。

< 全体 >

育児・介護休業の認知・利用状況について、『知っている(「利用したことがある」と「知っているが、利用したことはない」の合計)』の回答は、[育児休業]が80.9%、[介護休業]が67.3%となっており、[介護休業]は[育児休業]より『知っている』の回答が13.6ポイント低い。

■ 育児・介護休業の認知・利用状況



① 「育児休業」の認知・利用状況

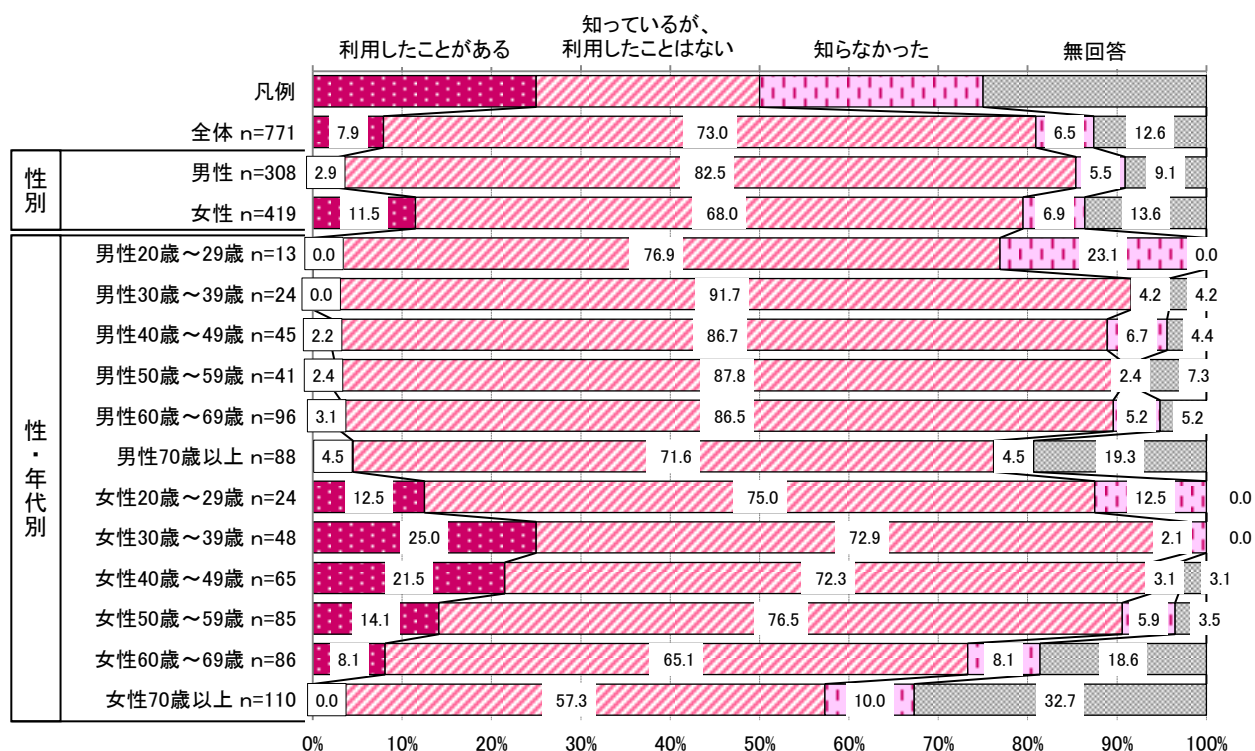
< 性別の値の比較 >

「利用したことがある」の回答は、男性2.9%、女性11.5%と女性が男性より8.6ポイント高い。

< 性・年代別の値の比較 >

「利用したことがある」の値は[女性30～39歳]が最も高く、ついで、[女性40～49歳]が高い。

■ 「育児休業」の認知・利用状況 -性別 / 性・年代別-



②「介護休業」の認知・利用状況

< 性別の値の比較 >

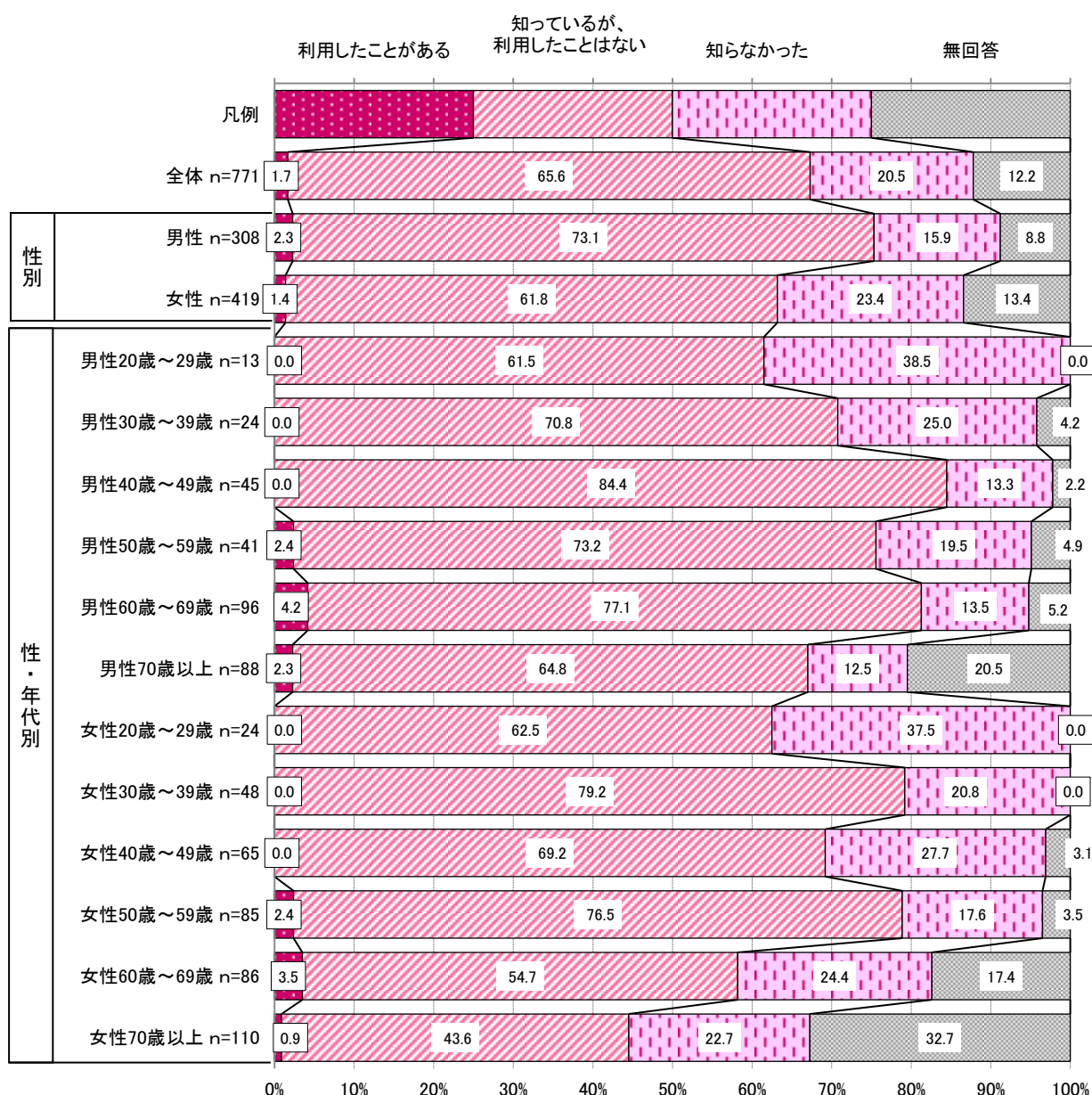
「利用したことがある」の回答は、男性2.3%、女性1.4%と男女とも低い。「知っているが、利用したことはない」の回答は、男性73.1%、女性61.8%と男性が女性より11.3ポイント高い。

< 性・年代別の値の比較 >

「知っているが、利用したことはない」の回答は、[男性40～49歳(84.4%)]が最も高く、『知っている(「利用したことがある」と「知っているが、利用したことはない」の合計)』の回答は、[女性70歳以上]を除く各性・年代で過半数を占めている。

「利用したことがある」の回答は、[男性60歳～69歳(4.2%)]が最も高く、全ての性・年代で非常に低くなっている。

■ 「介護休業」の認知・利用状況 -性別 / 性・年代別-



(4) 育児・介護休業を取得しなかった理由

問9で「知っているが利用したことがない」と答えた方におたずねします。

問9-1 あなたがこれらの休暇を取得しなかったのはどのような理由ですか。

取得しなかった休暇について、次の中から、あてはまるものすべてに○をつけてください。

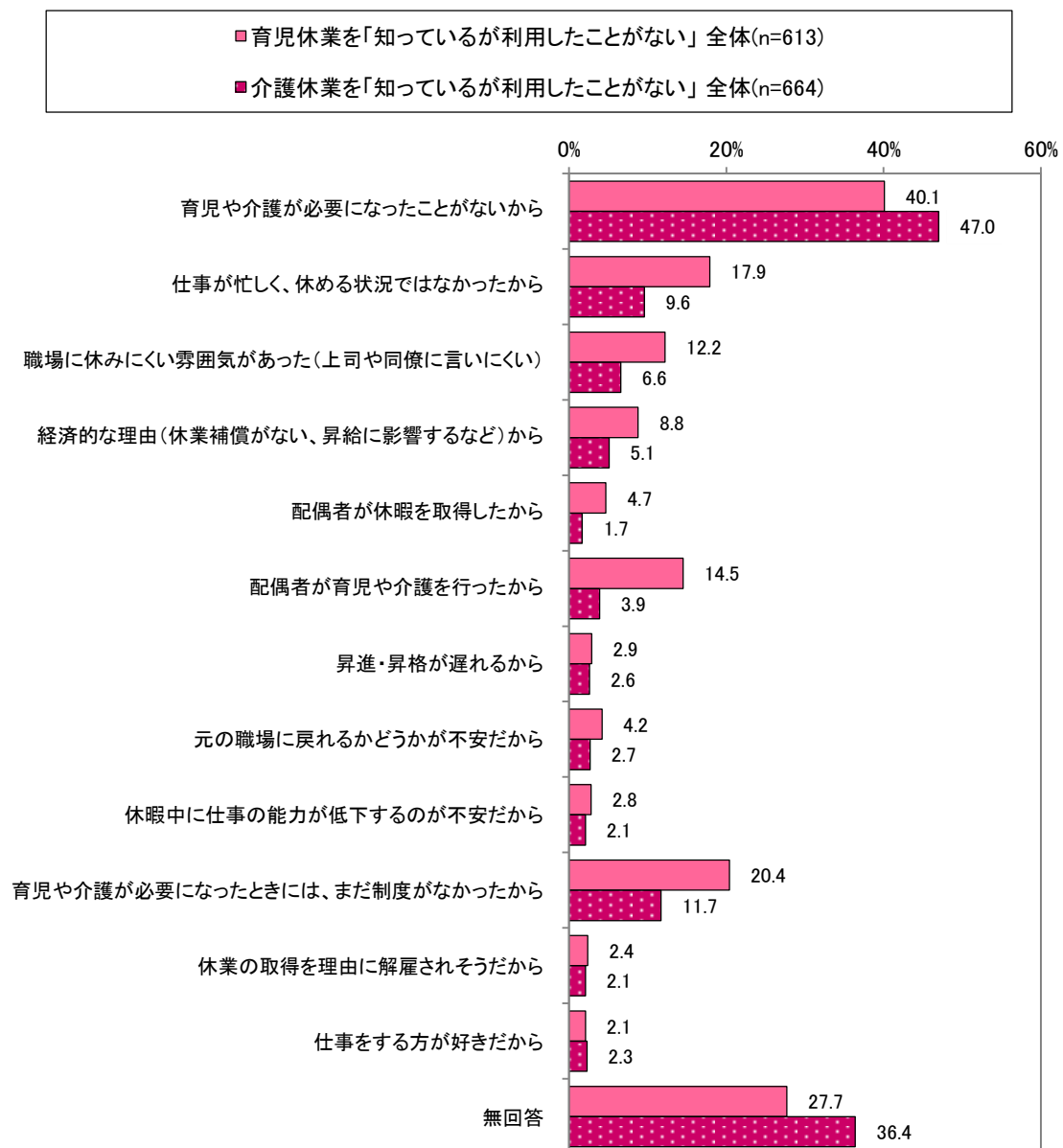
< 全体 >

育児・介護休業の休暇を取得しなかった理由について、[育児休業]、[介護休業]とも「育児や介護が必要になったことがないから」が最も高く、ついで「育児や介護が必要になったときには、まだ制度がなかったから」、「仕事が忙しく、休める状況ではなかったから」となっている。

休暇を取得しなかった理由として、「配偶者が育児や介護を行ったから」は[育児休業(14.5%)]が[介護休業(3.9%)]より10.6ポイントと高い。

■ 育児・介護休業を取得しなかった理由

単位：％ [複数回答]



①「育児休業」を取得しなかった理由

< 性別の値の比較 >

男女とも「育児や介護が必要になったことがないから」が最も高いが、「配偶者が育児や介護を行ったから」は男性が29.9%、女性が1.9%、「仕事が忙しく、休める状況ではなかったから」は男性が28.8%、女性が7.3%と男性の値が女性より著しく高い。

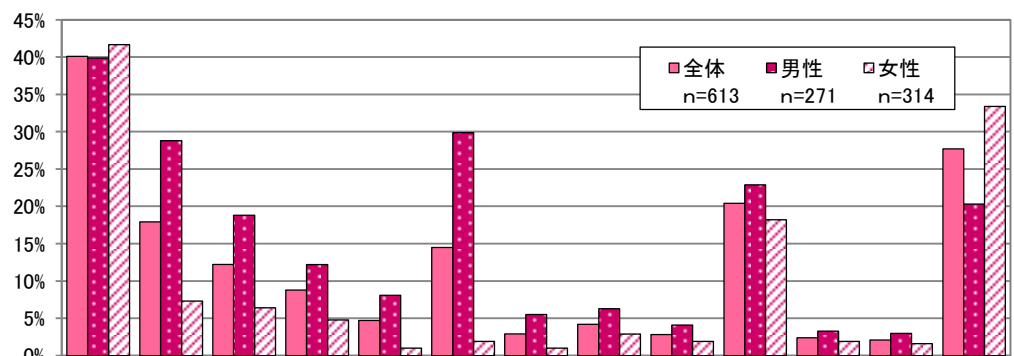
< 性・年代別の値の比較 >

「経済的な理由（休業補償がない、昇給に影響するなど）から」は、[男性40～49歳(21.4%)]、[男性50～59歳(18.9%)]で高く、「職場に休みにくい雰囲気があった（上司や同僚に言いにくい）」は、[男性40～49歳(31.0%)]、[男性60～69歳(23.9%)]で高くなっている。

■「育児休業」を取得しなかった理由 -性別 / 性・年代別-

※全体より10ポイント以上高い＝太字・塗潰し（赤）、全体より10ポイント以上低い＝白太字・下線・塗潰し（青）。ただし30サンプル未満の属性は除く。

単位：％ [複数回答]



			育児や介護が必要になった	仕事が忙しく、休める状況ではなかった	職場に休みにくい雰囲気があった	経済的な理由（休業補償がない、昇給に影響するなど）	配偶者が休暇を取得したから	配偶者が育児や介護を行ったから	昇進・昇格が遅れるから	不安だから	元の職場に戻れるかどうか	休暇中に仕事の能力が低下する	育児や介護が必要になったときに、まだ制度がなかったから	休業の取得を理由に解雇	仕事をする方が好きだから	無回答
全体			n=613	40.1	17.9	12.2	8.8	4.7	14.5	2.9	4.2	2.8	20.4	2.4	2.1	27.7
性	男性	n=271	39.9	28.8	18.8	12.2	8.1	29.9	5.5	6.3	4.1	22.9	3.3	3.0	20.3	
	女性	n=314	41.7	7.3	6.4	4.8	1.0	1.9	1.0	2.9	1.9	18.2	1.9	1.6	33.4	
性・年代	男性	20歳～29歳	n=13	30.8	7.7	7.7	15.4	7.7	7.7	7.7	-	-	-	-	-	46.2
		30歳～39歳	n=23	34.8	47.8	30.4	17.4	17.4	34.8	8.7	13.0	8.7	8.7	4.3	13.0	4.3
		40歳～49歳	n=42	33.3	40.5	31.0	21.4	14.3	40.5	7.1	4.8	2.4	2.4	7.1	2.4	26.2
		50歳～59歳	n=37	56.8	29.7	18.9	18.9	2.7	21.6	8.1	5.4	2.7	24.3	2.7	2.7	10.8
		60歳～69歳	n=88	37.5	29.5	23.9	10.2	6.8	33.0	4.5	8.0	4.5	37.5	2.3	1.1	18.2
		70歳以上	n=67	40.3	17.9	3.0	3.0	6.0	26.9	3.0	4.5	4.5	25.4	3.0	3.0	25.4
	女性	20歳～29歳	n=21	61.9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	38.1
		30歳～39歳	n=36	38.9	11.1	11.1	8.3	-	2.8	-	-	2.8	5.6	-	-	30.6
		40歳～49歳	n=49	49.0	8.2	10.2	4.1	-	-	-	-	-	6.1	4.1	2.0	30.6
		50歳～59歳	n=70	40.0	5.7	4.3	4.3	1.4	4.3	2.9	10.0	5.7	18.6	4.3	1.4	35.7
		60歳～69歳	n=63	41.3	6.3	6.3	3.2	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	25.4	1.6	1.6	34.9
		70歳以上	n=74	33.8	9.5	5.4	6.8	1.4	1.4	-	1.4	-	31.1	-	2.7	32.4

②「介護休業」を取得しなかった理由

< 性別の値の比較 >

男女とも「育児や介護が必要になったことがないから」が最も高いが、「仕事が忙しく、休める状況ではなかったから」は男性が14.6%、女性が5.6%、「配偶者が育児や介護を行ったから」は男性が8.4%、女性が0.8%と男性の値が女性より高い。

< 性・年代別の値の比較 >

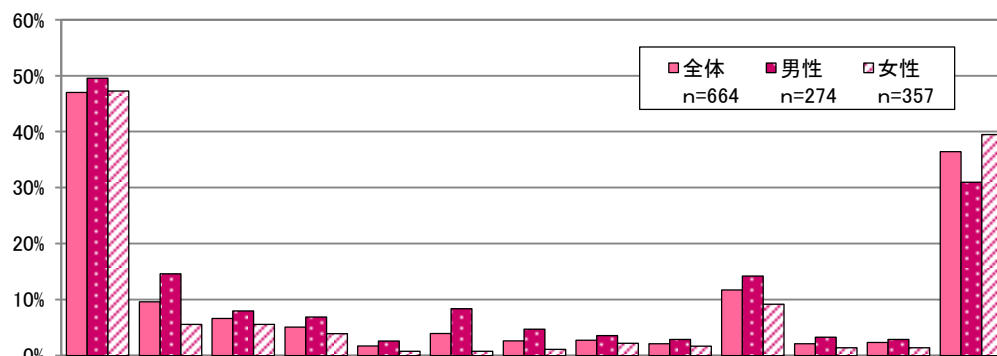
「育児や介護が必要になったことがないから」は、[男性50～59歳(63.2%)]、[女性30～39歳(62.5%)]、[男性40～49歳(59.1%)]で高い。

[男性40～49歳]は、「仕事が忙しく、休める状況ではなかったから(22.7%)」、「職場に休みにくい雰囲気があった(上司や同僚に言いにくい)(18.2%)」の値が高くなっている。

■「介護休業」を取得しなかった理由 -性別 / 性・年代別-

※全体より10ポイント以上高い＝太字・塗潰し(赤)、全体より10ポイント以上低い＝白太字・下線・塗潰し(青)。ただし30サンプル未満の属性は除く。

単位: % [複数回答]



			育児や介護が必要になったことがないから	仕事が終わる状況ではなかったから	職場に休みにくい雰囲気があった（上司や同僚に言いにくい）	経済的な理由（休業補償がない、昇給に影響するなど）から	配偶者が休暇を取得したから	配偶者が育児や介護を行ったから	昇進・昇格が遅れるから	元の職場に戻れるかどうか	休暇中に仕事の能力が低下する	育児や介護が必要になったときには、まだ制度がなかったから	休業の取得理由に解雇	仕事をする方が好きだから	無回答		
全体			n=664	47.0	9.6	6.6	5.1	1.7	3.9	2.6	2.7	2.1	11.7	2.1	2.3	36.4	
性	男性	n=274	49.6	14.6	8.0	6.9	2.6	8.4	4.7	3.6	2.9	14.2	3.3	2.9	31.0		
	女性	n=357	47.3	5.6	5.6	3.9	0.8	0.8	1.1	2.2	1.7	9.2	1.4	1.4	39.5		
性・年代	男性	20歳～29歳	n=13	38.5	-	7.7	7.7	-	-	-	-	-	-	-	-	53.8	
		30歳～39歳	n=23	52.2	17.4	17.4	8.7	4.3	4.3	13.0	4.3	13.0	4.3	4.3	4.3	39.1	
		40歳～49歳	n=44	59.1	22.7	18.2	13.6	4.5	4.5	9.1	9.1	4.5	6.8	11.4	6.8	25.0	
		50歳～59歳	n=38	63.2	7.9	2.6	7.9	-	2.6	5.3	-	-	7.9	-	2.6	23.7	
		60歳～69歳	n=87	46.0	19.5	8.0	6.9	2.3	16.1	2.3	3.4	2.3	19.5	2.3	2.3	26.4	
		70歳以上	n=68	41.2	8.8	1.5	1.5	2.9	7.4	2.9	2.9	1.5	22.1	1.5	1.5	38.2	
		20歳～29歳	n=24	58.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	41.7
	女性	30歳～39歳	n=48	62.5	-	2.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	37.5
		40歳～49歳	n=63	52.4	1.6	1.6	-	-	-	-	-	-	3.2	-	-	-	41.3
		50歳～59歳	n=80	48.8	8.8	11.3	6.3	1.3	1.3	2.5	5.0	5.0	10.0	1.3	3.8	30.0	
		60歳～69歳	n=68	42.6	8.8	8.8	8.8	1.5	1.5	1.5	2.9	1.5	10.3	4.4	1.5	39.7	
		70歳以上	n=73	31.5	8.2	4.1	4.1	1.4	1.4	1.4	2.7	1.4	21.9	1.4	1.4	49.3	

(5) 女性のリーダーが増えない原因

問10 あなたは、政治・経済・働く場などの各分野で女性のリーダーが増えない原因は何だと思いますか。
次の中からあてはまるものすべてを選んで○をつけてください。

< 全体 >

政治・経済・働く場などの各分野で女性のリーダーが増えない原因については、「保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと(47.2%)」が最も高い。

< 性別の値の比較 >

「保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと」、「長時間労働の改善が十分でないこと」、「上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと」は、それぞれ、女性の値が男性より10ポイント以上高く、男女差が大きい。

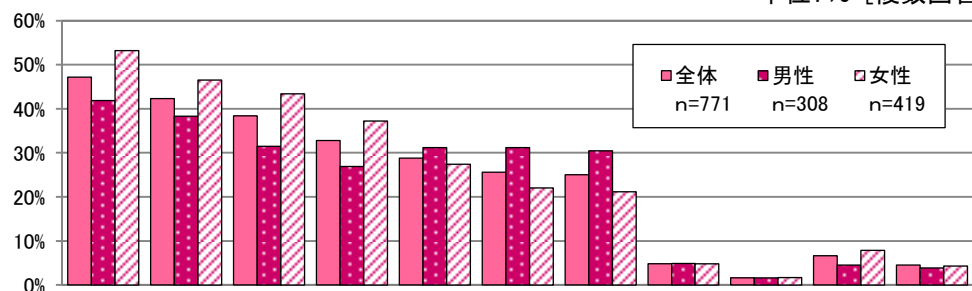
< 性・年代別の値の比較 >

「保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと」は[女性60～69歳]、「長時間労働の改善が十分でないこと」は[女性50～59歳]、[女性60～69歳]で特に高い。

■ 女性のリーダーが増えない原因 -性別 / 性・年代別-

※全体より10ポイント以上高い=太字・塗潰し(赤)、全体より10ポイント以上低い=白太字・下線・塗潰し(青)。ただし30サンプル未満の属性は除く。

単位:% [複数回答]



			十分でない家族の支援	長時間労働の改善	男性顧客の希望	上司・同僚・部下となる男性	企業などでの異動	など	現時点では女性が必要ない	女性自身希望しない	その他	特になし	わからない	無回答
全体			n=771	47.2	42.3	38.4	32.8	28.8	25.6	25.0	4.8	1.6	6.6	4.5
性	男性	n=308	41.9	38.3	31.5	26.9	31.2	31.2	30.5	4.9	1.6	4.5	3.9	
	女性	n=419	53.2	46.5	43.4	37.2	27.4	22.0	21.2	4.8	1.7	7.9	4.3	
性・年代	男性	20歳～29歳	n=13	23.1	15.4	30.8	30.8	7.7	30.8	30.8	7.7	-	15.4	-
		30歳～39歳	n=24	33.3	33.3	20.8	25.0	25.0	37.5	50.0	-	4.2	4.2	-
		40歳～49歳	n=45	51.1	42.2	40.0	33.3	31.1	13.3	24.4	8.9	2.2	4.4	2.2
		50歳～59歳	n=41	39.0	24.4	29.3	34.1	34.1	36.6	31.7	4.9	2.4	2.4	-
		60歳～69歳	n=96	46.9	46.9	30.2	30.2	36.5	32.3	35.4	5.2	2.1	4.2	3.1
		70歳以上	n=88	38.6	38.6	33.0	17.0	29.5	35.2	22.7	3.4	-	4.5	8.0
		20歳～29歳	n=24	50.0	66.7	41.7	50.0	12.5	12.5	16.7	4.2	4.2	4.2	4.2
	女性	30歳～39歳	n=48	66.7	47.9	39.6	45.8	29.2	16.7	31.3	8.3	-	10.4	-
		40歳～49歳	n=65	46.2	43.1	38.5	36.9	20.0	18.5	18.5	10.8	1.5	6.2	-
		50歳～59歳	n=85	58.8	51.8	51.8	40.0	34.1	24.7	35.3	2.4	1.2	3.5	1.2
		60歳～69歳	n=86	59.3	53.5	48.8	40.7	32.6	16.3	14.0	4.7	2.3	8.1	1.2
		70歳以上	n=110	42.7	34.5	37.3	25.5	25.5	30.9	14.5	1.8	1.8	11.8	13.6

(6) 管理職への昇進意向

現在仕事をしている方、または今後仕事をする見込みのある方におたずねします。

問11 あなたは、管理職に昇進したいと思いますか。次の中から1つ選んで○をつけてください。

< 全体 >

管理職への昇進意向について、『昇進したい※』は35.0%、『昇進したくない※』は49.8%であり、『昇進したくない』が『昇進したい』より14.8ポイント高くなっている。

< 性別の値の比較 >

『昇進したい』は男性41.3%、女性29.8%と男性が女性より11.5ポイント高く、管理職への昇進意向は男性の方が女性より高くなっている。

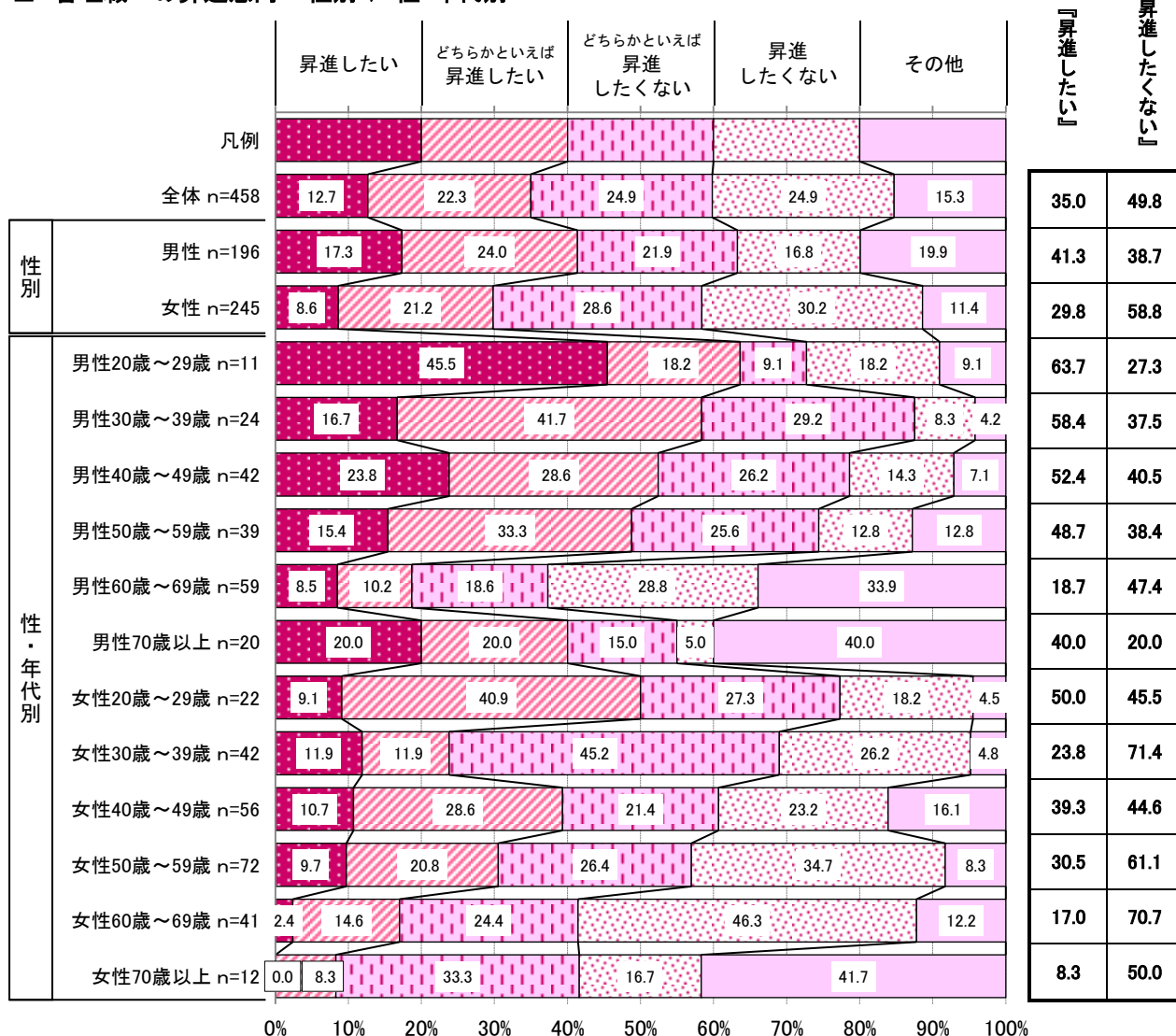
< 性・年代別の値の比較 >

『昇進したくない』は[女性30～39歳(71.4%)]で最も高くなっている。

※『昇進したい』は「昇進したい」と「どちらかといえば昇進したい」の合計

※『昇進したくない』は「昇進したくない」と「どちらかといえば昇進したくない」の合計

■ 管理職への昇進意向 -性別 / 性・年代別-



(7) 退職した女性が再び仕事をしやすくするために必要なこと

女性の方のみにおたずねします。

問12 あなたが、結婚、育児、介護などにより仕事をやめた場合、再び仕事をしやすくなるためにはどのようなことが必要だと思いますか。次の中から2つ以内で選んで○をつけてください。

< 性別(女性のみ) >

「企業が積極的に再就職しやすい職場風土をつくること(41.3%)」が最も高く、ついで「女性が働くことへの家族や周囲の理解・協力(27.2%)」、「短時間勤務制度や在宅勤務制度の充実(24.3%)」となっている。

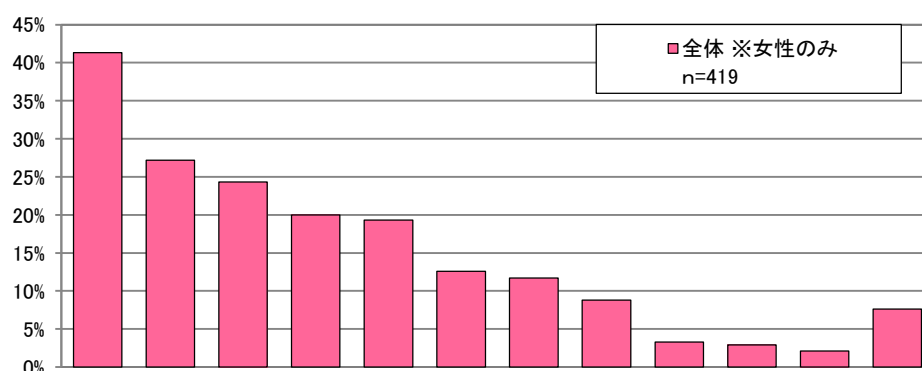
< 性・年代別(女性のみ) >

「短時間勤務制度や在宅勤務制度の充実」は、[女性30歳～39歳(41.7%)]で最も高く、[女性70歳以上(9.1%)]で最も低くなっている。

■ 退職した女性が再び仕事をしやすくするために必要なこと -女性 / 女性・年代別-

※全体より10ポイント以上高い=太字・塗潰し(赤)、全体より10ポイント以上低い=白太字・下線・塗潰し(青)。ただし30サンプル未満の属性は除く。

単位:% [複数回答]



			企業が積極的に再就職しやすい職場風土をつくること	女性が働くことへの家族や周囲の理解・協力	短時間勤務制度や在宅勤務制度の充実	家事・保育支援サービスの充実	女性の再就職を応援する社会全体の意識	介護サービスの充実	男女双方の長時間労働の改善	再就職の機会を充実	女性同士の情報交換や交流の場があること	趣味や家事スキルを生かせる仕事や創業に関するセミナーや情報の充実	その他	無回答	
全体 ※女性のみ			n=419	41.3	27.2	24.3	20.0	19.3	12.6	11.7	8.8	3.3	2.9	2.1	7.6
性・年代	女性	20歳～29歳	n=24	50.0	25.0	33.3	41.7	16.7	-	12.5	4.2	-	-	-	4.2
		30歳～39歳	n=48	37.5	25.0	41.7	29.2	16.7	8.3	20.8	6.3	4.2	-	2.1	-
		40歳～49歳	n=65	36.9	29.2	26.2	20.0	23.1	10.8	16.9	6.2	7.7	4.6	1.5	1.5
		50歳～59歳	n=85	41.2	30.6	29.4	15.3	20.0	20.0	10.6	12.9	-	4.7	3.5	1.2
		60歳～69歳	n=86	48.8	24.4	25.6	23.3	18.6	16.3	10.5	5.8	-	3.5	1.2	7.0
		70歳以上	n=110	37.3	27.3	9.1	12.7	18.2	10.0	6.4	11.8	6.4	1.8	2.7	20.9

4. 仕事と家庭、個人の生活のバランスについて

(1) 仕事と家庭、個人の生活のバランスについての希望

問13 あなたの希望に最も近いものを、次の中から1つ選んで○をつけてください。

< 全体 >

仕事と家庭、個人の生活のバランスの希望については、『「仕事」と「家庭や地域生活」と「個人の生活」の3つとも優先したい』が20.4%と最も高い。

< 性別の値の比較 >

『「仕事」と「家庭や地域生活」と「個人の生活」の3つとも優先したい』は男性18.2%、女性22.7%と男女共に最も高く、女性が男性より4.5ポイント高くなっている。

< 性・年代別の値の比較 >

『「家庭や地域生活」を優先したい』は[女性30歳～39歳]が27.1%と最も高い。

■ 仕事と家庭、個人の生活のバランスについての希望 -性別 / 性・年代別-



(2) 仕事と家庭、個人の生活のバランスについての現実

問14 あなたの現実(現状)に最も近いものを、次の中から1つ選んで○をつけてください。

< 全体 >

仕事と家庭、個人の生活のバランスの現実については、『「仕事」を優先している』が18.7%と最も高い。希望(問13)としては『「仕事」と「家庭や地域生活」と「個人の生活」の3つとも優先したい』が20.4%と高いが、現実として『「仕事」と「家庭や地域生活」と「個人の生活」の3つとも優先している』は6.6%と低い。

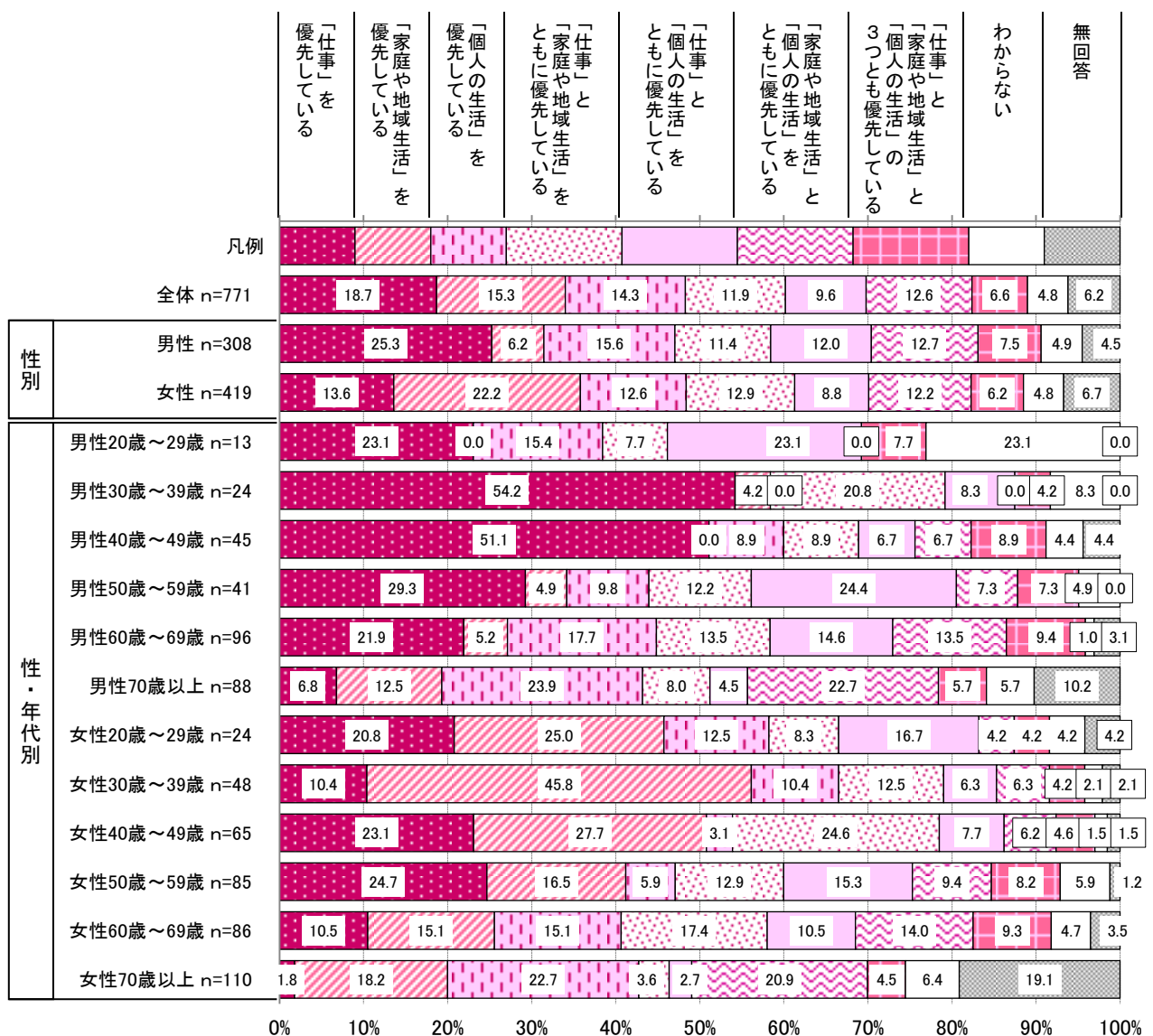
< 性別の値の比較 >

『「仕事」を優先している』は男性が女性より11.7ポイント高く、『「家庭や地域生活」を優先している』は女性が男性より16.0ポイント高い。

< 性・年代別の値の比較 >

『「仕事」を優先している』は[男性30歳～39歳]、[男性40歳～49歳]で約5割と高く、『「家庭や地域生活」を優先している』は[女性30歳～39歳]が45.8%と最も高くなっている。

■ 仕事と家庭、個人の生活のバランスについての現実 -性別 / 性・年代別-



(3) 仕事と家庭の両立のために必要なこと

問15 男女がともに、仕事と家庭を両立していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。
次の中からあてはまるものすべてを選んで○をつけてください。

< 全体 >

男女がともに、仕事と家庭を両立していくために必要なことについては、「有給休暇を取得しやすい企業風土をつくること(53.7%)」が最も高く、ついで「育児・介護のための休暇・休業を取りやすい職場環境(53.3%)」、「家族や配偶者の家事・子育て・介護への参加・協力(47.1%)」となっている。

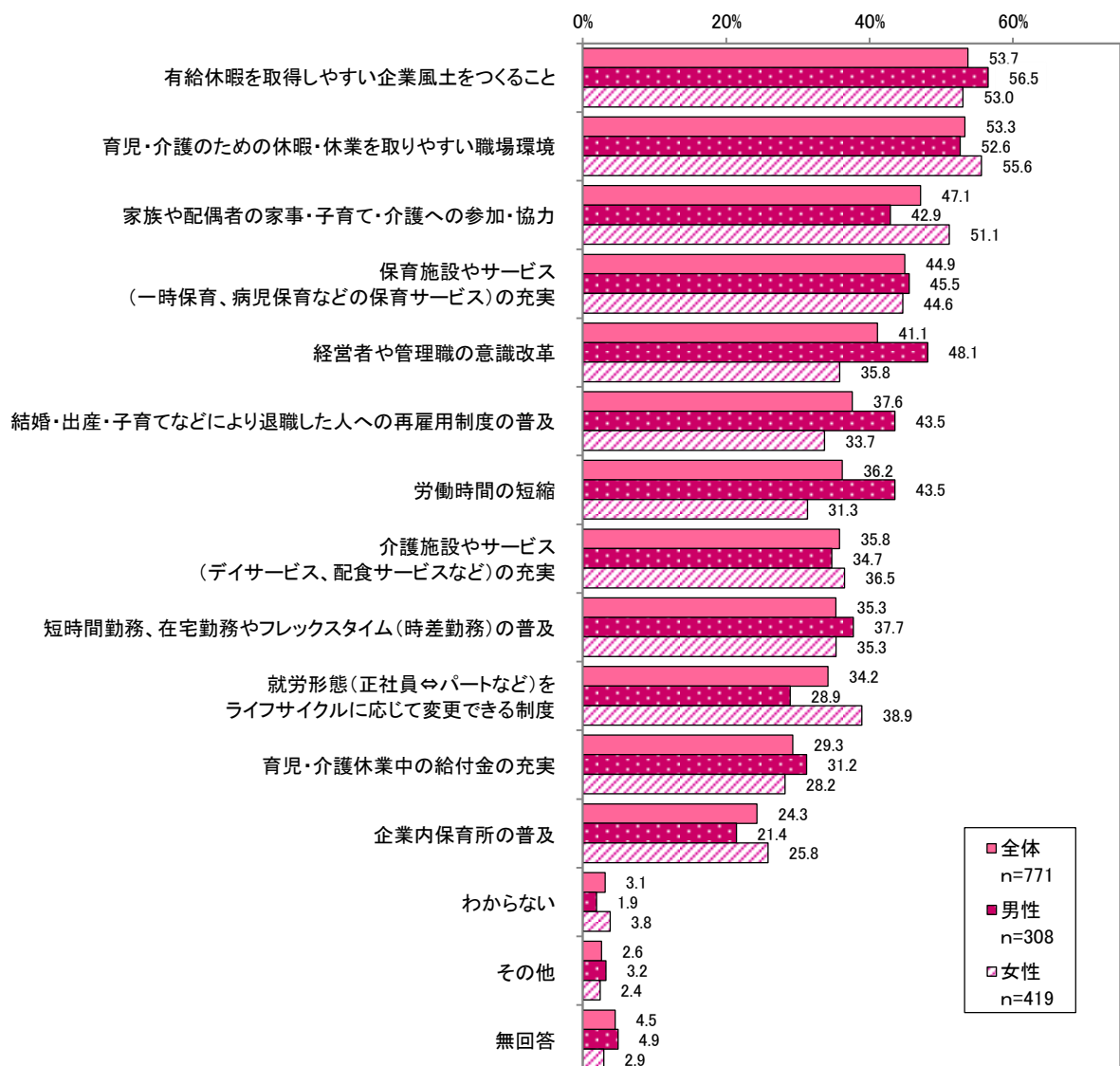
< 性別の値の比較 >

「経営者や管理職の意識改革」は、男性48.1%、女性35.8%と男性が女性より12.3ポイント高く、「労働時間の短縮」についても男性43.5%、女性31.3%と男性が女性より12.2ポイント高い。

「就労形態（正社員⇄パートなど）をライフサイクルに応じて変更できる制度」は男性28.9%、女性38.9%と女性が男性より10.0ポイント高くなっている。

■ 仕事と家庭の両立のために必要なこと -性別-

単位：% [複数回答]



< 性・年代別の値の比較 >

「有給休暇を取得しやすい企業風土をつくること」は、[女性20～29歳(70.8%、ただしサンプル数が少ないため参考値)]、[男性40～49歳(68.9%)]、[女性30～39歳(64.6%)]で高い。

また、「家族や配偶者の家事・子育て・介護への参加・協力」は、[女性30～39歳(72.9%)]、[女性40～49歳 (63.1%)]で高くなっている。

「経営者や管理職の意識改革」は、[男性30～39歳(66.7%、ただしサンプル数が少ないため参考値)]、[男性40～49歳(62.2%)]、[男性50～59歳 (51.2%)]で高くなっている。

「労働時間の短縮」は、40代以下の男性、および30代以下の女性で高い傾向が見られる。

その他の項目では、「就労形態（正社員⇄パートなど）をライフサイクルに応じて変更できる制度」は、[女性30～39歳(54.2%)]の値が特に高くなっている。

■ 仕事と家庭の両立のために必要なこと -性・年代別-

単位：%

※全体より10ポイント以上高い＝太字・塗潰し（赤）、全体より10ポイント以上低い＝白太字・下線・塗潰し（青）。ただし30サンプル未満の属性は除く。

			有給休暇を取得しやすい企業風土をつくること	育児・介護のための休暇・休業を取りやすい職場環境	家族や配偶者の家事・子育て・介護への参加・協力	保育施設やサービス（一時保育、病児保育などの保育サービス）の充実	経営者や管理職の意識改革	結婚・出産・子育てなどにより退職した人への再雇用制度の普及	労働時間の短縮	配食サービスなど）の充実	介護施設やサービス（デイサービス、配食サービスなど）の充実	短時間勤務、在宅勤務やフレックスタイム（時差勤務）の普及	就労形態（正社員やパートなど）を制度	育児・介護休業中の給付金の充実	企業内保育所の普及	わからない	その他	無回答
全体			n=771	53.7	53.3	47.1	44.9	41.1	37.6	36.2	35.8	35.3	34.2	29.3	24.3	3.1	2.6	4.5
性	男性	n=308	56.5	52.6	42.9	45.5	48.1	43.5	43.5	34.7	37.7	28.9	31.2	21.4	1.9	3.2	4.9	
	女性	n=419	53.0	55.6	51.1	44.6	35.8	33.7	31.3	36.5	35.3	38.9	28.2	25.8	3.8	2.4	2.9	
性・年代	男性	20歳～29歳	n=13	46.2	38.5	30.8	46.2	15.4	30.8	61.5	23.1	53.8	46.2	46.2	30.8	7.7	-	15.4
		30歳～39歳	n=24	50.0	58.3	41.7	54.2	66.7	33.3	66.7	25.0	45.8	41.7	45.8	20.8	4.2	4.2	-
		40歳～49歳	n=45	68.9	57.8	44.4	51.1	62.2	44.4	66.7	35.6	44.4	40.0	44.4	20.0	-	4.4	2.2
		50歳～59歳	n=41	61.0	43.9	34.1	34.1	51.2	26.8	48.8	29.3	24.4	19.5	29.3	17.1	-	7.3	2.4
		60歳～69歳	n=96	54.2	60.4	50.0	51.0	47.9	49.0	36.5	43.8	42.7	27.1	29.2	25.0	-	2.1	4.2
		70歳以上	n=88	53.4	46.6	40.9	38.6	39.8	48.9	28.4	30.7	30.7	23.9	21.6	19.3	4.5	2.3	8.0
		20歳～29歳	n=24	70.8	75.0	62.5	70.8	37.5	37.5	62.5	29.2	29.2	45.8	37.5	25.0	-	8.3	-
	女性	30歳～39歳	n=48	64.6	50.0	72.9	54.2	33.3	39.6	54.2	16.7	45.8	54.2	39.6	29.2	-	4.2	2.1
		40歳～49歳	n=65	49.2	58.5	63.1	38.5	38.5	29.2	24.6	36.9	44.6	41.5	33.8	16.9	3.1	1.5	-
		50歳～59歳	n=85	55.3	60.0	48.2	38.8	32.9	31.8	31.8	44.7	40.0	43.5	30.6	28.2	1.2	-	1.2
		60歳～69歳	n=86	53.5	60.5	46.5	48.8	33.7	33.7	20.9	41.9	38.4	40.7	16.3	27.9	5.8	2.3	4.7
		70歳以上	n=110	43.6	44.5	38.2	39.1	39.1	33.6	25.5	35.5	20.9	24.5	24.5	26.4	7.3	2.7	5.5

5. 地域活動について

(1) 地域活動の役員経験

問16 あなたは、町内会・自治会、コミュニティ、PTA活動などの地域活動の役員をしたことがありますか。
次の中から1つ選んで○をつけてください。

< 全体 >

町内会・自治会、コミュニティ、PTA活動などの地域活動の役員経験については、「したことがある」は62.6%、「したことがない」は32.7%となっている。

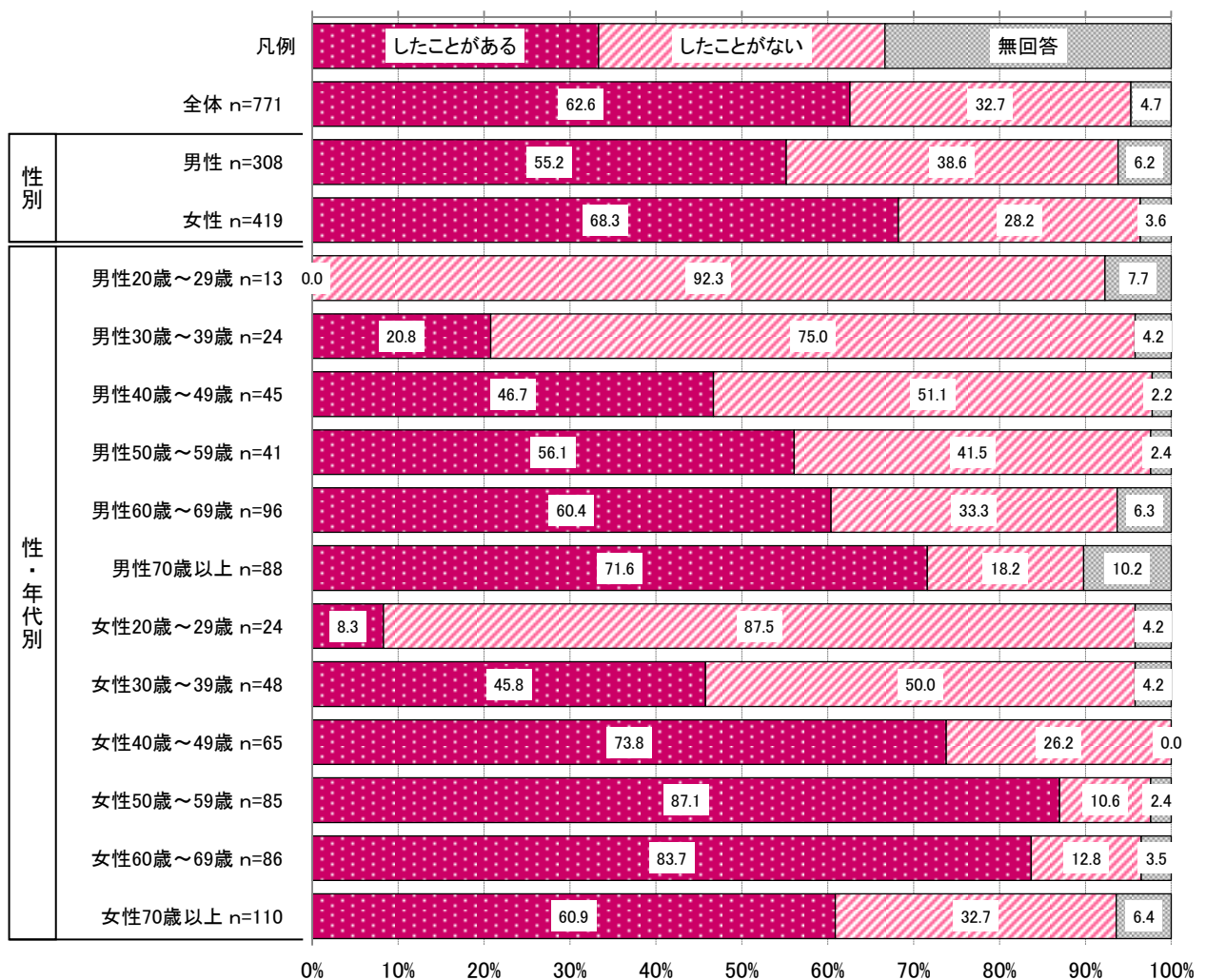
< 性別の値の比較 >

「したことがある」は女性が男性より13.1ポイント高い。

< 性・年代別の値の比較 >

男性は年代が上がるほど「したことがある」の値が高くなっているが、女性は[女性50歳～59歳]が87.1%と最も高く、[女性70歳以上]は60.9%と同年代の[男性70歳以上]の71.6%より10.7ポイント低くなっている。

■ 地域活動の役員経験



(2) 地域活動の実態について

問16で「したことがある」と答えた方におたずねします。

問16-1 あなたは、地域活動の実態についてどのように感じていますか。

次の中からあてはまるものすべてを選んで○をつけてください。

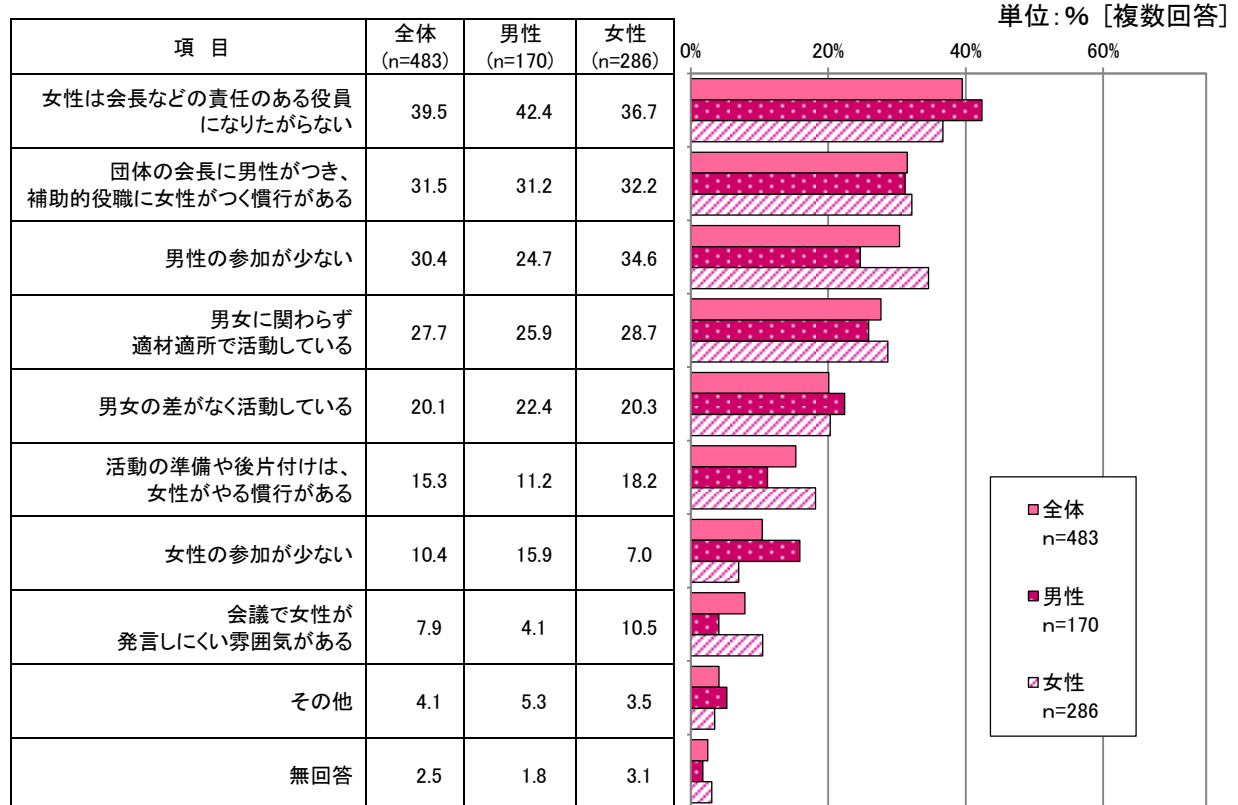
< 全体 >

地域活動の役員をしたことがある方が地域活動の実態について感じることにについては、「女性は会長などの責任のある役員になりたがらない」が39.5%と最も高く、ついで、「団体の会長に男性がつき、補助的役職に女性がつく慣行がある（31.5%）」、「男性の参加が少ない（30.4%）」となっている。

< 性別の値の比較 >

「女性の参加が少ない」は、男性が女性より8.9ポイント高く、「男性の参加が少ない」は女性が男性より9.9ポイント高く、男女それぞれが異性の参加が少ないと感じている。

■ 地域活動の実態について -全体・性別-



(3) 男女がともに地域活動に参画するために必要なこと

問17 あなたは、地域活動に男女がともに参画するためには、どのようなことが必要だと思いますか。
次の中からあてはまるものすべてを選んで○をつけてください。

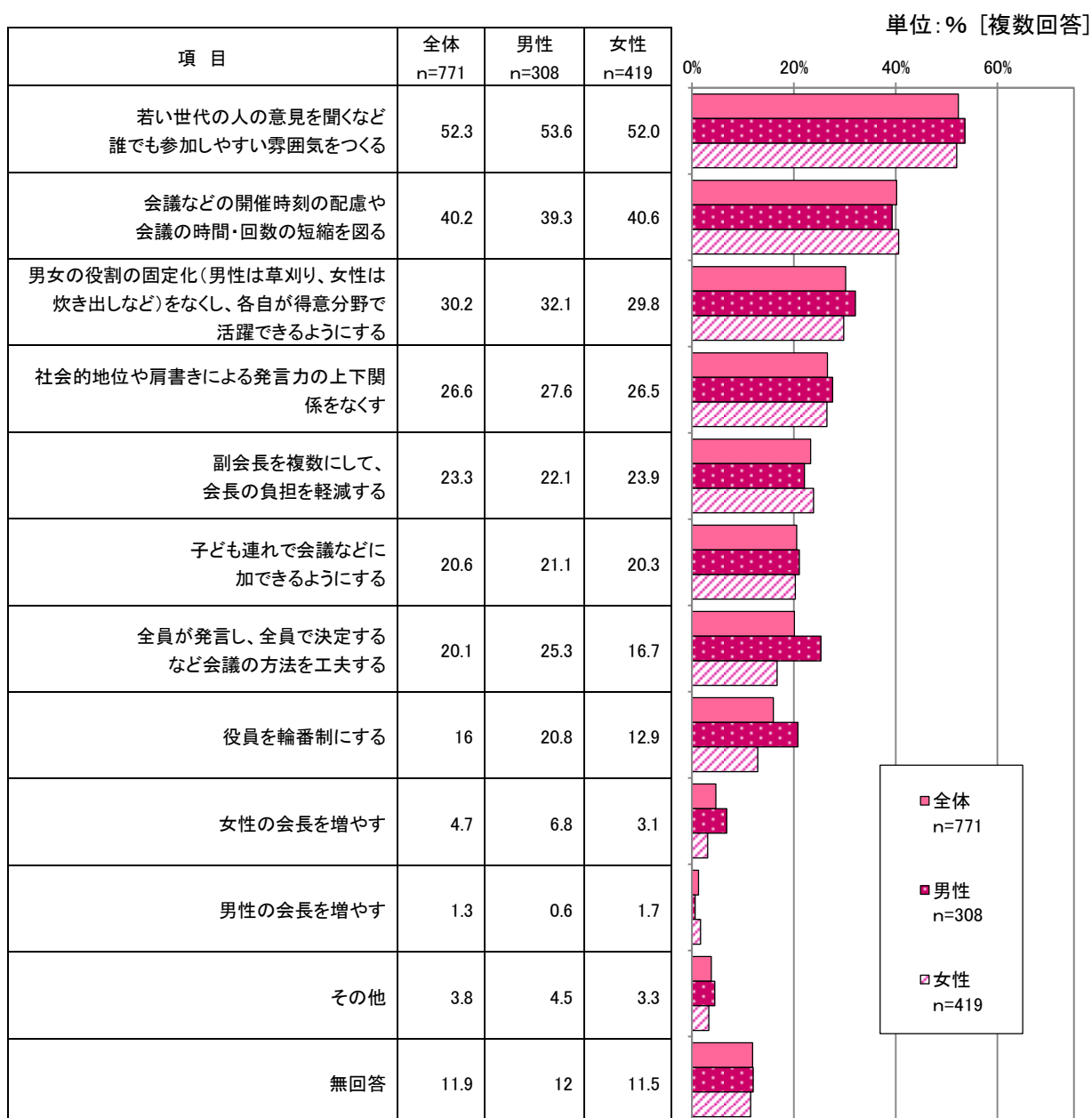
< 全体 >

男女がともに地域活動に参画するために必要なことについては、「若い世代の人の意見を聞くなど誰でも参加しやすい雰囲気をつくる」が52.3%と最も高く、ついで、「会議などの開催時刻の配慮や会議の時間・回数の短縮を図る(40.2%)」、「男女の役割の固定化(男性は草刈り、女性は炊き出しなど)をなくし、各自が得意分野で活躍できるようにする(30.2%)」となっている。

< 性別の値の比較 >

上位の3項目については男女で差はないが、「全員が発言し、全員で決定するなど会議の方法を工夫する」は、男性が女性より8.6ポイント高い。

■ 男女がともに地域活動に参画するために必要なこと -全体・性別-



6. ドメスティック・バイオレンス（DV）などについて

(1) ドメスティック・バイオレンス（DV）の経験

配偶者や恋人など、パートナーからの暴力(ドメスティック・バイオレンス)が社会問題になっています。
問18 あなたは、配偶者や恋人の間で行われる、次のような行為をしたこと、されたことがありますか。
①～⑧の項目について、それぞれ1つ選んで○をつけてください

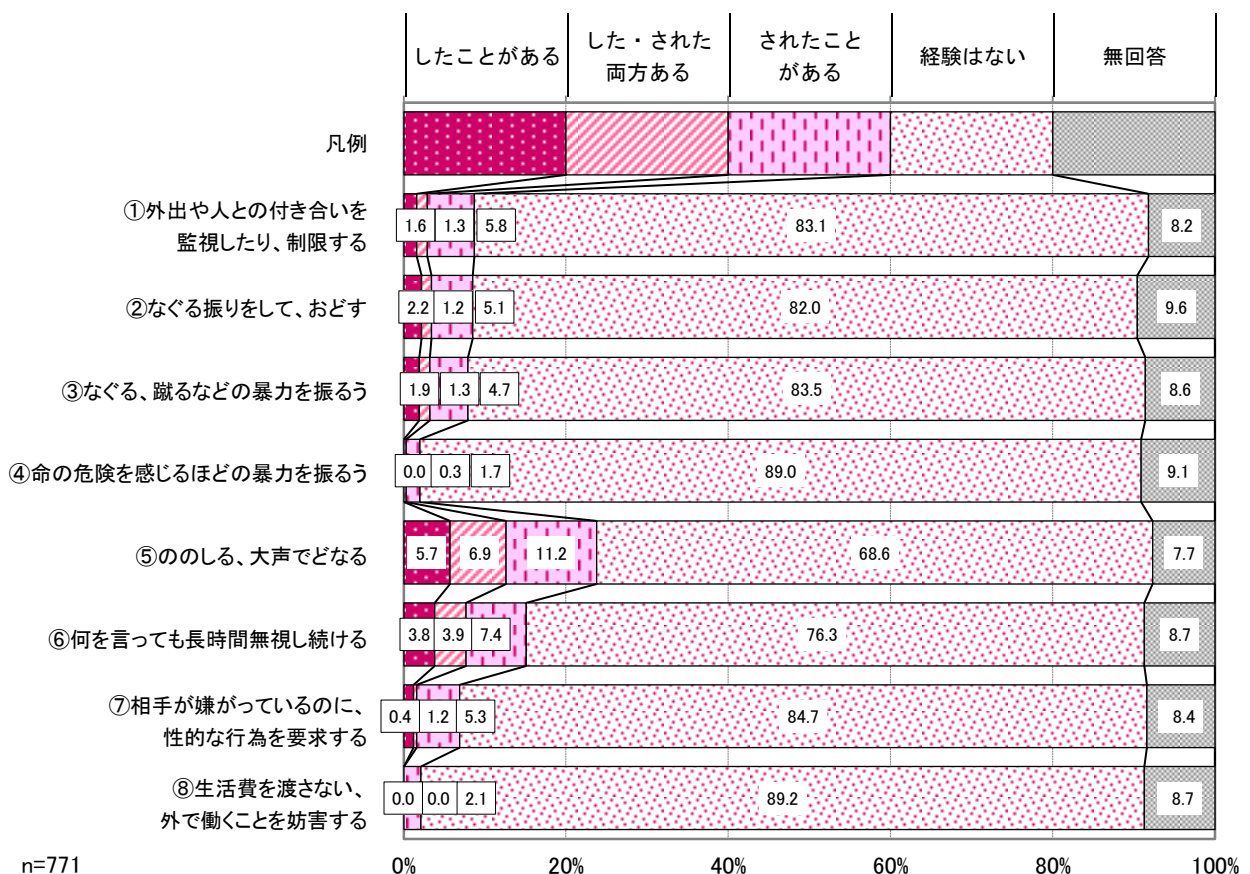
< 全体 >

ドメスティック・バイオレンス（DV）の経験については、[⑤ののしる、大声でどなる]は『したことがある※』が12.6%、『されたことがある※』が18.1%と、加害・被害とも最も高い。

※『したことがある』は「したことがある」「した・された両方ある」の合計

※『されたことがある』は「されたことがある」「した・された両方ある」の合計

■ ドメスティック・バイオレンス(DV)の経験	『したことがある』※	『されたことがある』※
① 外出や人との付き合いを監視したり、制限する.....	2.9%	7.1%
② なぐる振りをして、おどす.....	3.4%	6.3%
③ なぐる、蹴るなどの暴力を振るう.....	3.2%	6.0%
④ 命の危険を感じるほどの暴力を振るう.....	0.3%	2.0%
⑤ ののしる、大声でどなる.....	12.6%	18.1%
⑥ 何を言っても長時間無視し続ける.....	7.7%	11.3%
⑦ 相手が嫌がっているのに、性的な行為を要求する.....	1.6%	5.7%
⑧ 生活費を渡さない、外で働くことを妨害する.....	0.0%	2.1%



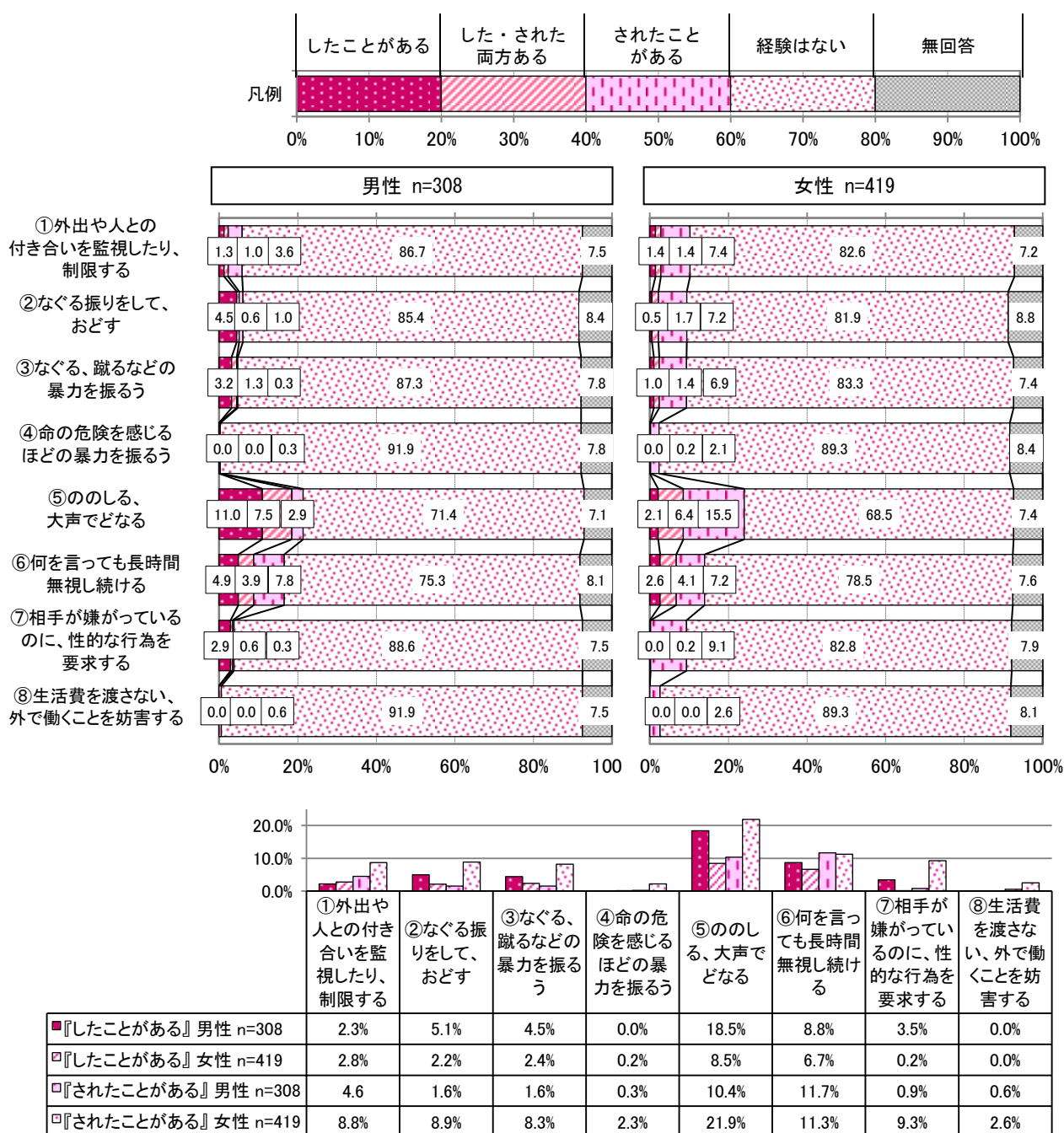
＜性別の値の比較＞

【⑤ののしる、大声でどなる】について「されたことがある」は、男性2.9%、女性15.5%と、女性が男性より12.6ポイント高く、「したことがある」は、男性11.0%、女性2.1%と、男性が女性より8.9ポイント高い。

『したことがある』、『されたことがある』の値は、男女とも、[⑤ののしる、大声でどなる]、[⑥何を言っても長時間無視し続ける]において他の項目より高い。

『されたことがある』の値が女性が男性より高い項目としては、[⑤ののしる、大声でどなる]は11.5ポイント、[⑦相手が嫌がっているのに、性的な行為を要求する]は8.4ポイント、[②なぐる振りをして、おどす]は7.3ポイント、[③なぐる、蹴などの暴力を振るう]は6.7ポイント、それぞれ女性が男性より高くなっている。

■ ドメスティック・バイオレンス(DV)の経験 -性別-



(2) 配偶者や恋人から受けた暴力などについての相談状況

問18でひとつでも「2 した・された両方ある」、「3 されたことがある」と答えた方におたずねします。

問18-1 あなたは、これまで配偶者や恋人から受けた暴力などについて、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。次の中からあてはまるものすべてを選んで○をつけてください。

< 全体 >

配偶者や恋人から受けた暴力などについて、だれかに打ち明けたり、相談したりしたかについては、「どこ(だれ)にも相談しなかった(60.3%)」が最も高く、暴力などを『されたことがある』方の約6割が相談をしていない。

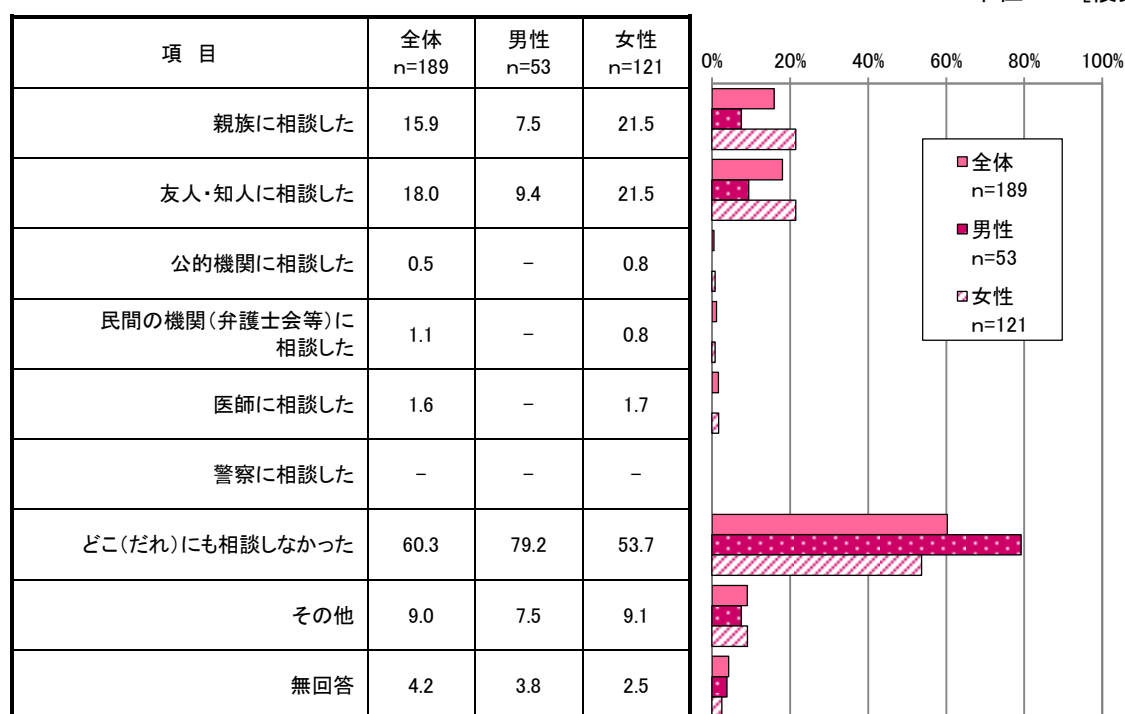
相談した方の相談先は、「友人・知人に相談した(18.0%)」、「親族に相談した(15.9%)」が高くなっている。

< 性別の値の比較 >

「どこ(だれ)にも相談しなかった」は、男性79.2%、女性53.7%と男性が女性より25.5ポイント高い。一方、「友人・知人に相談した」は男性9.4%、女性21.5%、「親族に相談した」は男性7.5%、女性21.5%とそれぞれ女性が男性より10ポイント以上高く、女性の方が男性よりも何らかの相談している割合が高くなっている。

■ 配偶者や恋人から受けた暴力などについての相談状況 -性別-

単位: % [複数回答]



(3) セクシュアル・ハラスメントの経験

問19 あなたの身近なところ(職場・学校・地域)でセクシュアル・ハラスメント(相手の意に反する性的な言動)を見たり、聞いたりしたことはありますか。次の中から1つ選んで○をつけてください。

< 全体 >

身近なところ(職場・学校・地域)でセクシュアル・ハラスメント(相手の意に反する性的な言動)を見たり、聞いたりしたことがあるかについては、「ない(53.2%)」が過半数を占めているが、「自分に身近な女性が受けたことがある」が10.2%、「自分自身が受けたことがある」が8.9%となっている。

< 性別の値の比較 >

「自分自身が受けたことがある」は、男性3.2%、女性13.6%と女性が男性より10.4ポイント高い。また「自分に身近な女性が受けたことがある」についても男性11.0%、女性9.8%と男女とも約1割が回答しており、女性の被害が多い。

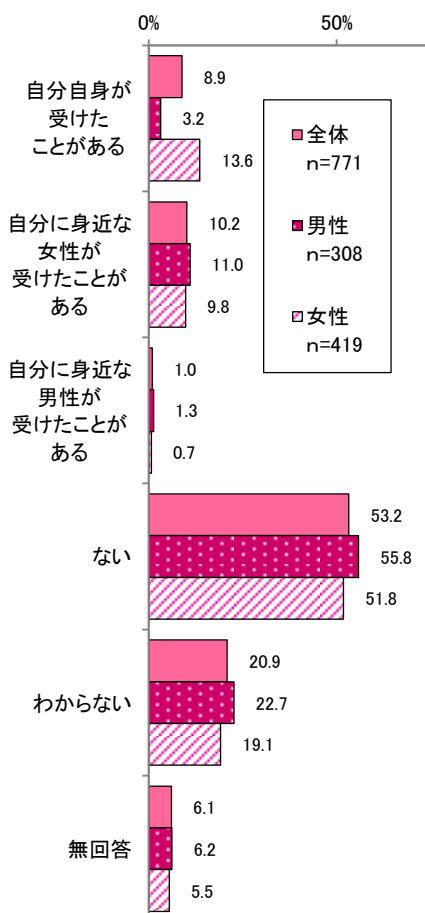
< 性・年代別の値の比較 >

「自分自身が受けたことがある」は、[女性30歳～39歳]が最も高く、ついで[女性50歳～59歳]が高い。「ない」は、[男性50歳～59歳]、[男性70歳以上]で高いが、同年代の[女性50歳～59歳]、[女性70歳以上]の値との差が大きい。

■ 配偶者や恋人から受けた暴力などについての相談状況 -性別 / 性・年代別-

単位: % [複数回答]

※全体より10ポイント以上高い=太字・塗潰し(赤)、全体より10ポイント以上低い=白太字・下線・塗潰し(青)。ただし30サンプル未満の属性は除く。



			自分自身が受けたことがある	自分に身近な女性がある	自分に身近な男性がある	ない	わからない	無回答	
全体			n=771	8.9	10.2	1.0	53.2	20.9	6.1
性	男性	n=308	3.2	11.0	1.3	55.8	22.7	6.2	
	女性	n=419	13.6	9.8	0.7	51.8	19.1	5.5	
性・年代	男性	20歳～29歳	n=13	23.1	23.1	7.7	30.8	7.7	7.7
		30歳～39歳	n=24	-	12.5	-	58.3	25.0	4.2
		40歳～49歳	n=45	6.7	13.3	-	46.7	33.3	-
		50歳～59歳	n=41	-	7.3	2.4	63.4	22.0	4.9
		60歳～69歳	n=96	4.2	14.6	1.0	52.1	20.8	8.3
		70歳以上	n=88	-	5.7	1.1	63.6	21.6	8.0
	女性	20歳～29歳	n=24	8.3	16.7	-	45.8	29.2	-
		30歳～39歳	n=48	29.2	14.6	2.1	41.7	10.4	4.2
		40歳～49歳	n=65	15.4	9.2	-	50.8	23.1	3.1
		50歳～59歳	n=85	21.2	5.9	1.2	55.3	15.3	1.2
		60歳～69歳	n=86	7.0	12.8	1.2	53.5	19.8	5.8
		70歳以上	n=110	6.4	7.3	-	53.6	20.9	11.8

7. 男女共同参画社会実現への取組について

(1)これから重点的に取り組むべきこと

問20 「男女共同参画社会」を実現していくために、今後、どのようなことに力を入れて取り組むべきだと思いますか。次の中から3つ以内で選んで○をつけてください。

< 全体 >

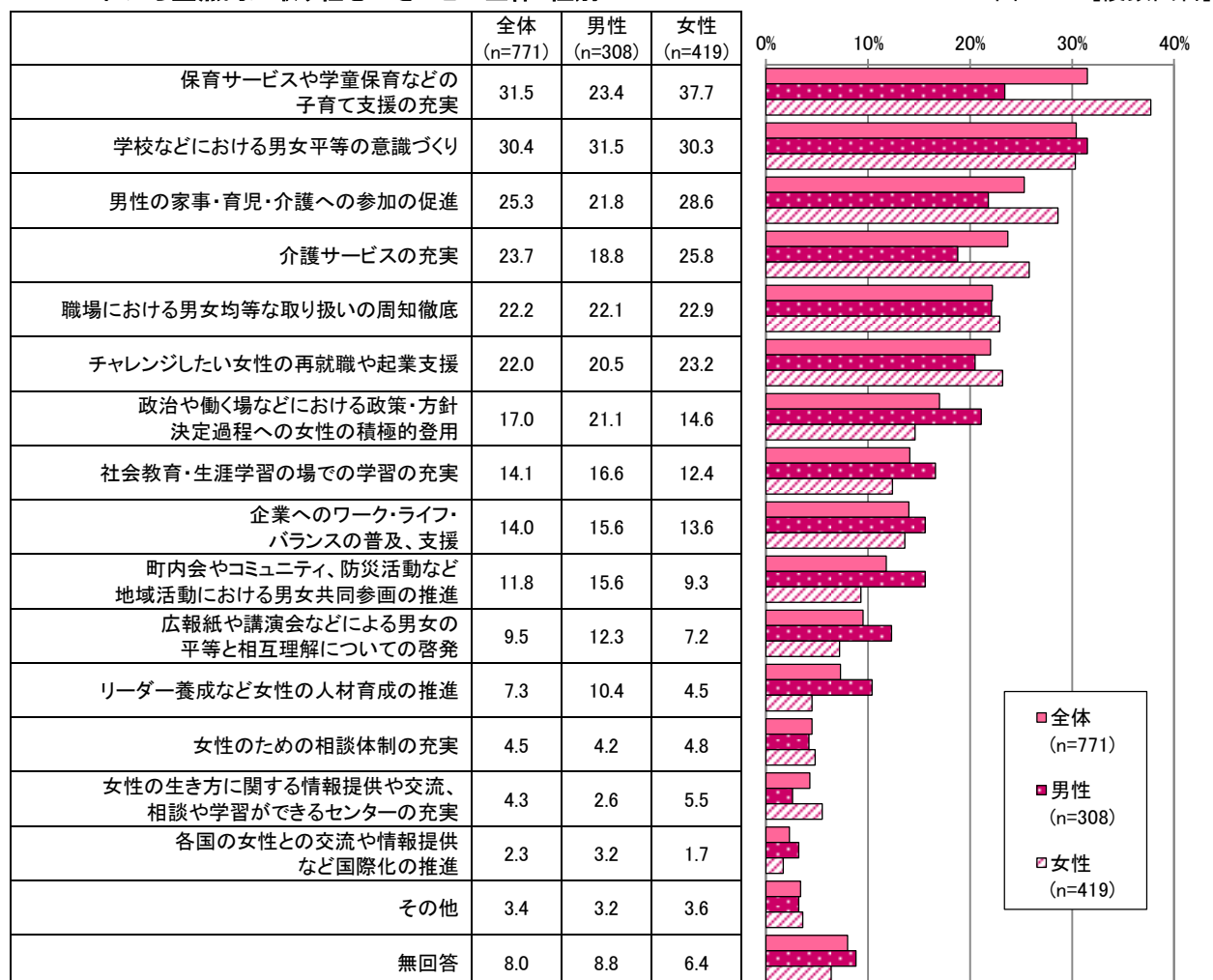
これから重点的に取り組むべきことについては、「保育サービスや学童保育などの子育て支援の充実(31.5%)」が最も高く、ついで、「学校などにおける男女平等の意識づくり(30.4%)」、「男性の家事・育児・介護への参加の促進(25.3%)」となっている。

< 性別の値の比較 >

「保育サービスや学童保育などの子育て支援の充実(男性23.4%、女性37.7%)」は、女性が男性より14.3ポイント高く、また「男性の家事・育児・介護への参加の促進」、「介護サービスの充実」についても女性が男性より5ポイント以上高い。

反対に、「政治や働く場などにおける政策・方針決定過程への女性の積極的登用」、「町内会やコミュニティ、防災活動など地域活動における男女共同参画の推進」、「広報紙や講演会などによる男女の平等と相互理解についての啓発」、「リーダー養成など女性の人材育成の推進」は、それぞれ男性が女性より5ポイント以上高くなっている。

■ これから重点的に取り組むべきこと -全体・性別-



< 性・年代別の値の比較 >

男性の特定の年代が高い項目は、「企業へのワーク・ライフ・バランスの普及、支援」は、[男性40歳～49歳(28.9%)]で高く、また、「政治や働く場などにおける政策・方針決定過程への女性の積極的登用」、「町内会やコミュニティ、防災活動など地域活動における男女共同参画の推進」、「広報紙や講演会などによる男女の平等と相互理解についての啓発」は、[男性70歳以上]が各性・年代の中で最も高くなっている。

女性の特定の年代が高い項目は、「保育サービスや学童保育などの子育て支援の充実」は、[女性20歳～29歳(58.3%、ただしサンプル数が少ないため参考値)]、[女性30歳～39歳(54.2%)]で高い。また、「チャレンジしたい女性の再就職や起業支援」は、[女性20歳～29歳(37.5%、ただしサンプル数が少ないため参考値)]、[女性50歳～59歳(32.9%)]で高くなっている。

■ これから重点的に取り組むべきこと(※上位項目のみ抜粋) -性・年代別-

単位: % [複数回答]

※全体より10ポイント以上高い=太字・塗潰し(赤)、全体より10ポイント以上低い=白太字・下線・塗潰し(青)。ただし30サンプル未満の属性は除く。

				子育てサービスの充実	学校などにおける男女平等の意識づくり	男性の家事・育児・介護への参加の促進	介護サービスの充実	職場における男女均等な取り扱いの周知徹底	チャレンジしたい女性の再就職や起業支援	政治過程への女性の積極的登用・方針決定	社会教育・生涯学習の場での学習の充実	企業へのワーク・ライフ・バランスの普及、支援	町内会やコミュニティ、防災活動など地域活動における男女共同参画の推進	広報紙や講演会などによる男女の平等と相互理解についての啓発	リーダー養成など女性の人材育成の推進
全体		n=771	31.5	30.4	25.3	23.7	22.2	22.0	17.0	14.1	14.0	11.8	9.5	7.3	
性・年代	男性	20歳～29歳	n=13	30.8	38.5	15.4	7.7	15.4	30.8	15.4	15.4	23.1	-	7.7	-
		30歳～39歳	n=24	45.8	29.2	29.2	12.5	4.2	25.0	8.3	16.7	25.0	-	4.2	4.2
		40歳～49歳	n=45	33.3	31.1	24.4	15.6	24.4	28.9	13.3	22.2	28.9	11.1	4.4	13.3
		50歳～59歳	n=41	14.6	34.1	17.1	12.2	26.8	19.5	22.0	17.1	22.0	17.1	4.9	22.0
		60歳～69歳	n=96	26.0	29.2	25.0	27.1	25.0	22.9	20.8	16.7	12.5	13.5	13.5	5.2
		70歳以上	n=88	11.4	33.0	18.2	17.0	21.6	11.4	29.5	13.6	5.7	26.1	20.5	12.5
	女性	20歳～29歳	n=24	58.3	41.7	37.5	16.7	25.0	37.5	8.3	12.5	16.7	-	-	-
		30歳～39歳	n=48	54.2	27.1	33.3	8.3	12.5	29.2	2.1	8.3	20.8	4.2	-	6.3
		40歳～49歳	n=65	38.5	32.3	29.2	18.5	30.8	21.5	15.4	9.2	15.4	6.2	7.7	4.6
		50歳～59歳	n=85	34.1	32.9	24.7	32.9	20.0	32.9	20.0	14.1	22.4	10.6	8.2	7.1
		60歳～69歳	n=86	44.2	33.7	32.6	32.6	23.3	22.1	15.1	11.6	14.0	9.3	1.2	3.5
		70歳以上	n=110	22.7	23.6	24.5	28.2	24.5	10.9	16.4	15.5	1.8	14.5	15.5	3.6

(2) 男女共同参画などに関する項目の認知度

問21 あなたは、次にあげる男女共同参画などに関する項目を知っていますか。

①～⑧それぞれの項目について、1つを選んで○をつけてください。

< 全体 >

男女共同参画などに関する項目の認知度について、各項目の『知っている※』の値は、[⑤男女雇用機会均等法(82.4%)]が最も高く、ついで、[⑥配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律(DV防止法)(79.5%)]、[①男女共同参画社会(64.7%)]が高くなっている。

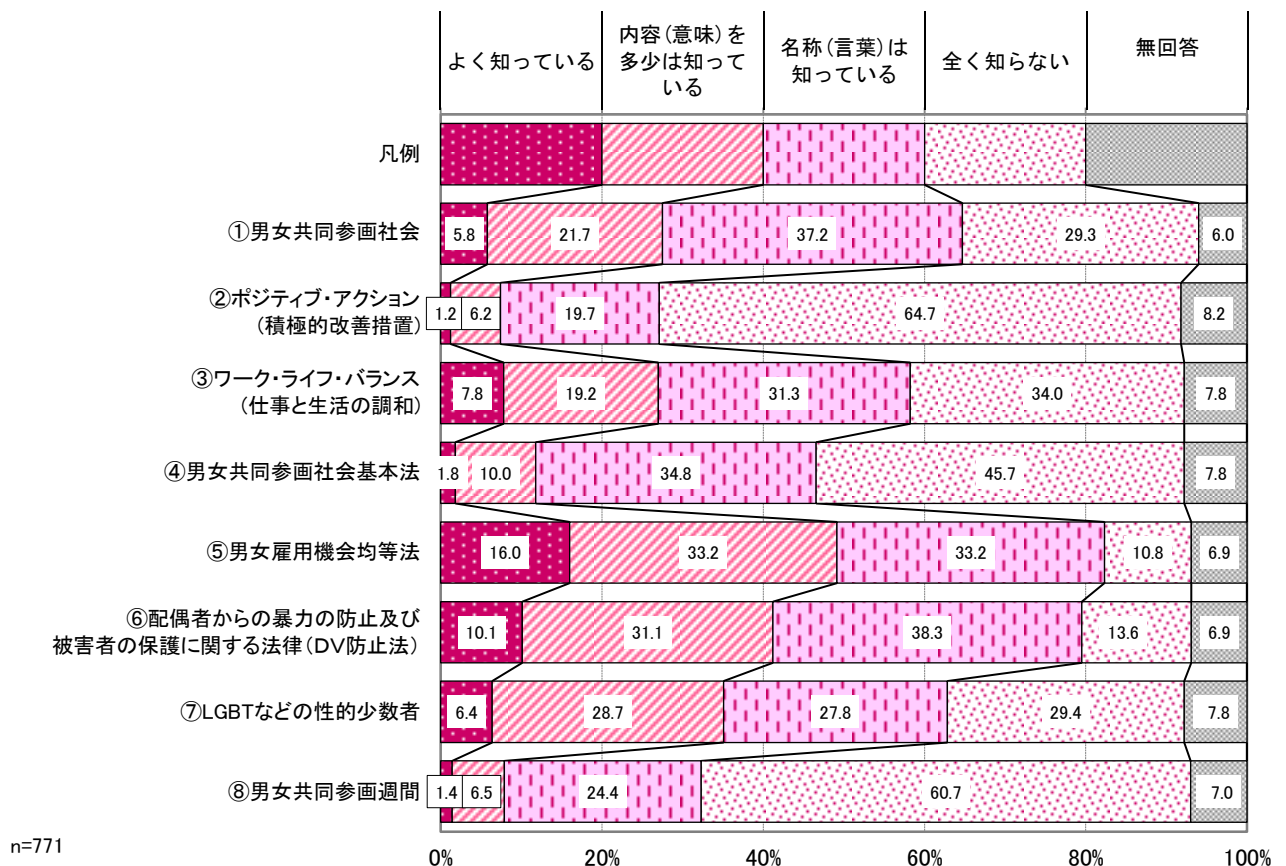
「全く知らない」は、[②ポジティブ・アクション(積極的改善措置)(64.7%)]、[⑧男女共同参画週間(60.7%)]で約6割と高い。

※『知っている』は「よく知っている」、「内容(意味)を多少は知っている」、「名称(言葉)は知っている」の合計

■ 男女共同参画などに関する項目の認知度

『知っている』※

① 男女共同参画社会	64.7%
② ポジティブ・アクション(積極的改善措置)	27.1%
③ ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)	58.3%
④ 男女共同参画社会基本法	46.6%
⑤ 男女雇用機会均等法	82.4%
⑥ 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律(DV防止法)	79.5%
⑦ LGBTなどの性的少数者	62.9%
⑧ 男女共同参画週間	32.3%

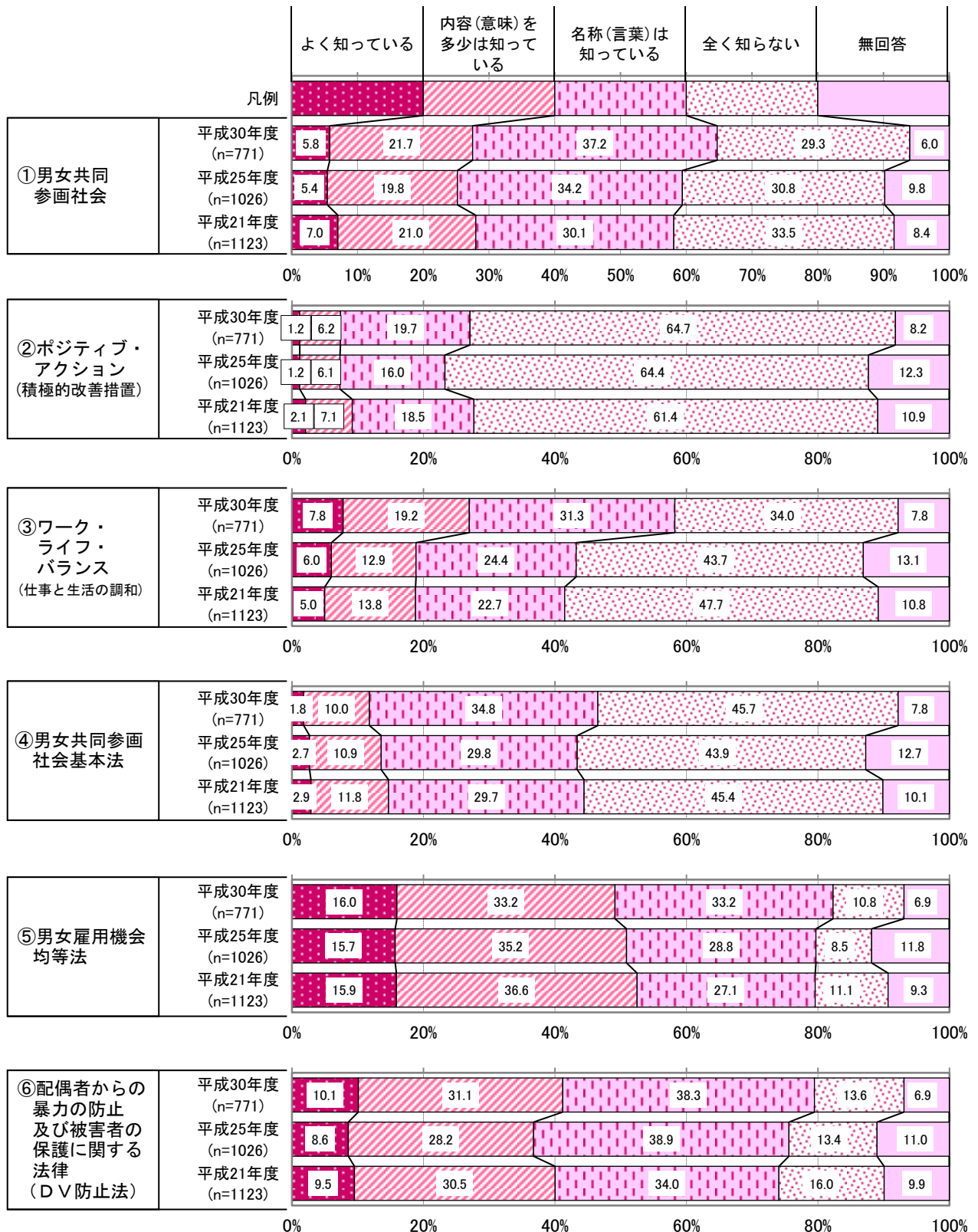


< 前回調査結果との比較 >

経年比較では、[③ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)]において『知っている』の値は、前回調査の43.3%から58.3%と15.0ポイント増加した。

※[⑦LGBTなどの性的少数者]、[⑧男女共同参画週間]については前回調査の設問にないため、分析対象外。

■ 男女共同参画などに関する項目の認知度 -経年比較-



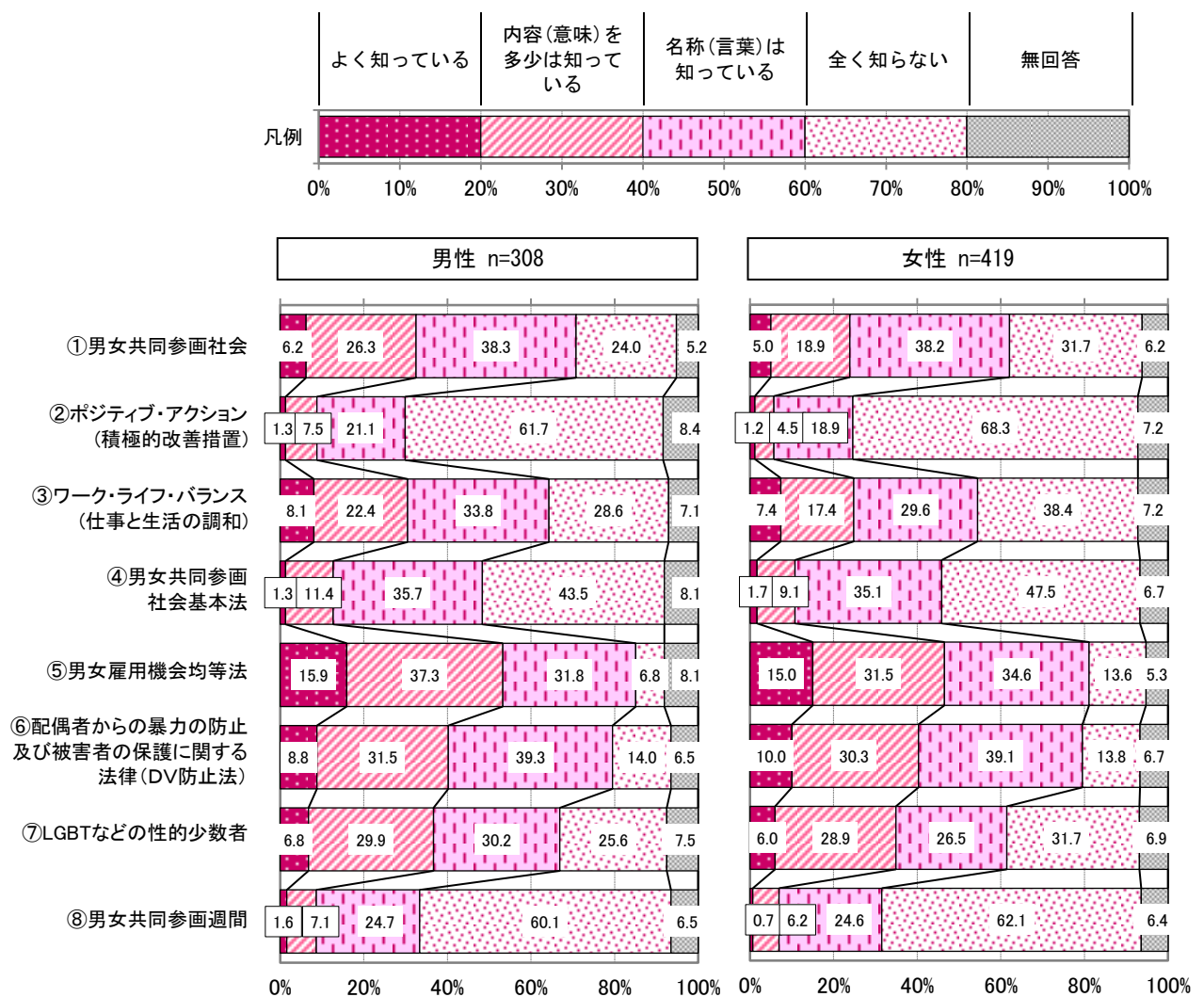
< 性別の値の比較 >

男女共同参画などに関する項目の認知度について、性別で見ると、各項目における「知っている」の値には男女で顕著な差は見られない。「内容（意味）を多少は知っている」は、[①男女共同参画社会]が男性26.3%、女性18.9%と男性が女性より7.4ポイント高い。

『知っている※』の値については、[③ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)]が男性64.3%、女性54.4%(9.9ポイント差)、[①男女共同参画社会]が男性70.8%、女性62.1%(8.7ポイント差)と、それぞれ男性が女性より高くなっている。

※『知っている』は「よく知っている」、「内容(意味)を多少は知っている」、「名称(言葉)は知っている」の合計

■ 男女共同参画などに関する項目の認知度 -性別-



項目	『知っている』※			『知っている』※	
	男性	女性		男性	女性
①男女共同参画社会	70.8%	62.1%	⑤男女雇用機会均等法	85.0%	81.1%
②ポジティブ・アクション(積極的改善措置)	29.9%	24.6%	⑥配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律(DV防止法)	79.6%	79.4%
③ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)	64.3%	54.4%	⑦LGBTなどの性的少数者	66.9%	61.4%
④男女共同参画社会基本法	48.4%	45.9%	⑧男女共同参画週間	33.4%	31.5%

IV 自由意見

「男女共同参画社会」を実現していくまちづくりについて、ご意見、ご要望、あなたが経験されたこと、感じていることなど、なんでも結構ですので自由に記入してください。

< 自由回答の記入状況 >

「男女共同参画社会」を実現していくまちづくりについて、意見・要望などを自由に記入してもらったところ、全部で156人から177件の意見が寄せられた。

内容別に整理・分類し、これらの中から代表的な意見を紹介する。

※複数の内容を含む意見があるため、意見の合計件数と内容別件数は一致しない。

■ 自由意見の分類

① 男女平等について.....	41件	② 家庭生活について.....	12件
③ 就労について.....	44件	④ 教育について.....	9件
⑤ 地域活動等について.....	15件	⑥ 女性の活躍推進について.....	11件
⑦ 人権・性の尊重・DV等について....	5件	⑧ 行政の取組等について.....	17件
⑨ その他.....	23件		

① 男女平等について

- 働き方や子育てはそれぞれの家庭で考え方が大きく異なると思う。こうあるべきということはないので、それぞれが自由に考えてよいと思う。自分の子供たちには、なるべく男でも女でも仕事や家庭を大事にできるよう育ててほしい。(女性・30歳～39歳)
- 独身の女性なら男性と平等に扱われるべきだと思うが、子供が産まれたら、育児はやはり母親がしないとおけない部分が多い(授乳など)ので、男性と平等に扱われる必要はないと思う。女性と男性は体も心も違うので、むしろ母親が子育てに専念できる環境にして、より教育をしてやりたい。(親子のコミュニケーション含めて)(女性・40歳～49歳)
- 高圧的な社会(広い、せまい)をなくし、誰もが自分の意見が言えるようになるといいなと思います。自分の意志に反し自分の仕事をやめて、家業の手伝いや家事、育児などなど今、少し後悔しています。(女性・60歳～69歳)
- 基本的に男と女とは違うので何もかも同じ様にとするのはどうかと思います。適材適所であると思います。(女性・70歳以上)
- 女性優先すれば男女平等につながるという言い方には違和感がある。同じ条件ではないのに、結果だけ平等にするとと言われても納得できない男性は多い。男性側への配慮も必要。(男性・50歳～59歳)
- 男女共に今までの固定観念を変えて意識改革をする必要があると思う。家のことを女性に押しつける風潮は改めるべき。(男性・60歳～69歳)
- 「平等」ということを全ての基本にすえる、あらゆる行動・言動の礎として取り組みを考え進めていく。(男性・70歳以上)

② 家庭生活について

- 女性が男性と家事育児を分担し、仕事を両立していく上で、男性の意識改革だけでなく、高齢世代の若者世代への理解も必要だと思います。(女性・20歳～29歳)
- 手作りの料理とか乳児は家庭でという観念にしばられているように思う。(女性・50歳～59歳)
- 家庭生活の中ではどちらかと言えば若い人の方が男性が協力的。(女性・70歳以上)

- 妊娠、出産、育児という大事業をいかにして全社会で協力して成し遂げていくかという観点から検討すべきと思う。(男性・70歳以上)

③ 就労について

- 産後働くトキに時短になり給料がへるのに保育料は高く、なんのために働くのか分からない。(女性・20歳～29歳)
- 日本は女性が働きにくい国です。子供が小さいころパートで働いている時、よく思っていました。今もそうです。子供があまり手がかからない分、お金がかかります。たくさん働きたいが、103万、130万のかべで悩んでいます。フルで働いてもいいですが、その分家庭がおろそかになるので、むずかしいところです。主人は協力的ですが、子供はまだ母親が1番です。(女性・40歳～49歳)
- まずは男性が参加しやすい職場や社会環境を作らなければ、意味がないので、ワーク・ライフ・バランスを積極的に全国(まち、国)で行う必要があるのではないのでしょうか。その体制が整わないことには、家庭でどんなに話し合ったり、協力すると言っても、女性が平等に働くことは難しいと思います。子育てしている時にそういう時代ではなかったもので、次世代の人が働きやすい、暮らしやすい環境になることを希望します。(女性・40歳～49歳)
- 以前働いていた学習塾で自分は新入社員であるにも関わらず教室長のポジションを任せられそうになり、女性の先輩社員はベテランなのに役職を持ってなかった。それは顧客(生徒の保護者)から見て男性の教室長の方が良い印象(安心感、仕事ができそう)を与えるだろうという社長の考えに基づいた采配であり、職場での男女不平等は根深いと思った。納得がいけない。(男性・20歳～29歳)
- 男女共に労働時間短縮、経済的なゆとりが増えないと難しいと思う。(男性・40歳～49歳)
- 気持ちだけでなく、経済的な側面(給与)や時間的な側面(育休、産休など)を充実させ、かつ企業(会社)側も、今後、復職できる文化を作っていくことが必要だと思います。(男性・50歳～59歳)

④ 教育について

- 今生きて、生活している人を変えていくのはできなくはないけど本当にむずかしい。だから、これからもっと先の未来のことを見すえて、これからを創っていく子ども達、若い子達に男女平等を伝えていくことが必要だと思います。(女性・20歳～29歳)
- 頭の中では理解していても、なかなか動けない。人の目を気にするところもある。子供の頃からの習慣や刷り込みが抜けない。親や学校の先生が子供に見せるところから始めなければうまくいかないのかもしれない。(男性・50歳～59歳)

⑤ 地域活動等について

- 子供会の役員は女性ばかりで、行事に父親が参加するのは珍しいくらいで…。平日に準備するので仕方ないかもしれませんが日本人はやはり働きすぎのような気がします。ある程度で切り上げて、夕方からは地域のことに父親も参加できるような環境になればいいなと思います。(女性・30歳～39歳)
- 実際に自分の住んでいる場所でのまちづくりを把握できていない。市外へ勤めているため、早朝から夜遅く帰宅する生活状況ではなかなか実感できないのが現実です。近所の人との会話も日々できていない生活です。(女性・60歳～69歳)
- 町内の役員会や総会等で、「女性は控えめな発言が美德」だと思っている女性が多いように思う。(男性・50歳～59歳)

⑥ 女性の活躍推進について

- 国会においても地方議員も女性の数が数ない。政治の場に出産子育て経験の議員が増える事を望む。日本は遅れている。男女が役割分担意識にとらわれず、様々な場所で活動が出来る社会になる必要がある。(女性・50歳～59歳)
- 共働きだろうと専業主婦であろうと、夫婦がよければそれで良いのではないか。(男性・60歳～69歳)

- 今後、人口減少していくと言われている中、女性の社会への参加がしやすい仕組みづくりが大切。時間外労働が通例になると、一方に片よることになり、バランスはとれなくなる。社会全体、特に自治体は民間の手本になること。(男性・60歳～69歳)

⑦ 人権・性の尊重等について

- 女性だけでなく、LGBTに対する差別、偏見をなくす取り組みをすすめてほしい。(無回答・50歳～59歳)
- 人権(差別)の問題としての視点を鮮明にしてあらゆる差別を許さないところに普遍化させていくことが必要だと考える。(男性・50歳～59歳)

⑧ 行政の取組等について

- 男女共同参画社会の実現にむけて第2次廿日市市男女共同参画プランを策定しさまざまな施策を実施していますとのことですが具体的に何がおこなわれているかわかりません。どうすればわかりますか?(女性・50歳～59歳)
- 政策と現状のミスマッチがあると思う。夢物語りではなく、実態を正確に把握し、すぐ出来る事はすぐ行い、時間が必要なものはじっくりと土台を築いて行けば良いと思う。(男性・40歳～49歳)
- 男女共同参画社会ということは、大切なことと思うが、行政として具体的にどんなことをしているのか、よくわからない。男女共同参画社会の意味が、抽象的なので行政的にその意識を高めるための啓蒙活動を進めるべきと思う。(男性・70歳以上)

2章 男女共同参画に関する事業所アンケート調査結果

I 調査の概要

1. 調査の目的

本アンケート調査は、男女共同参画に関する意識の変化を経年比較し、平成27年3月に策定した「第2次廿日市市男女共同参画プラン」の後期5年(平成32年度～)の実施計画策定に向けて、施策への反映、改善に役立てることを目的として実施した。

2. 調査の設計

- (1) 調査地域 廿日市市全域
- (2) 調査対象 市内に事業所を置く事務所
- (3) 標 本 数 129事務所（無作為抽出）
- (4) 調査方法 郵送配付・郵送回収によるアンケート調査
- (5) 調査期間 平成30（2018）年11月12日（月）～12月10日（月）

3. 調査項目

- (1) 雇用管理について
- (2) ポジティブ・アクション（積極的改善措置）について
- (3) ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について
- (4) 女性の活躍の推進について
- (5) セクシュアル・ハラスメントの防止について
- (6) 市として重点的に取り組むべきことについて

4. 回収結果

- (1) 標 本 数 129事務所 （廿日市地域：72 佐伯地域：10 吉和地域：2
大野地域：27 宮島地域：18）
- (2) 有効回収数 38事務所 （廿日市地域：23 佐伯地域：4 吉和地域：0
大野地域：8 宮島地域：2 無回答：1）
- (3) 有効回収率 29.5% ※参考 前回平成25（2013）年調査の有効回収率：37.0%

5. 報告書の見方

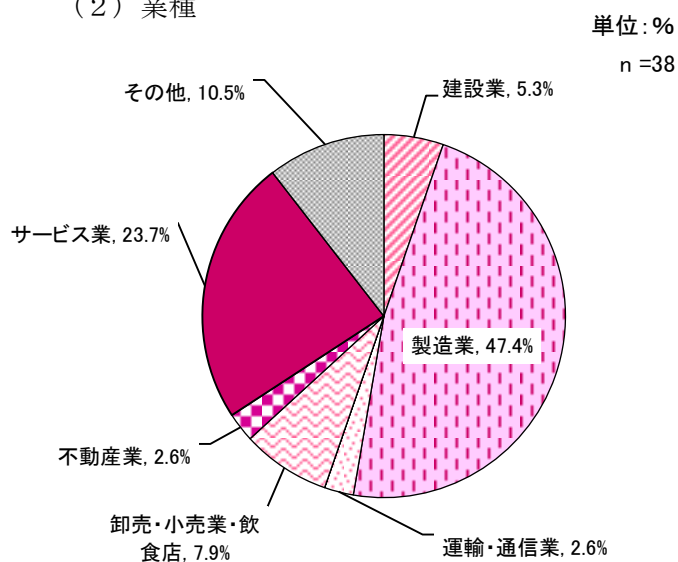
- (1) 図表中に示すnは、回答数総数を示す。
- (2) 回答比率（%）は、その設問の回答者数を基軸として算出し、小数点以下第2位を四捨五入した。このため、比率の合計が100.0%を上下する場合がある。
- (3) 回答が2つ以上ありうる複数回答は、比率の合計は100.0%を超える場合がある。
- (4) 表・グラフの属性別データは、無回答を除いて掲載しているため、回答数総数と属性別の回答者数の合計は一致しない場合がある。

Ⅱ 調査回答者の属性

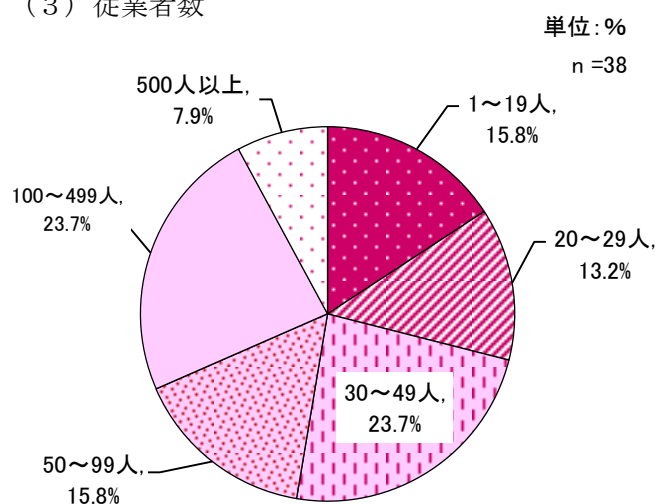
問1 次の(1)～(7)の項目について、それぞれお答えください。

(1) 名称、所在地、電話番号 (掲載省略)

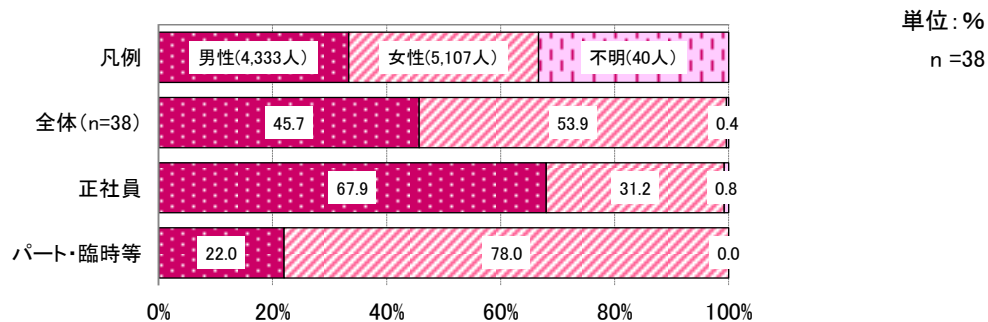
(2) 業種



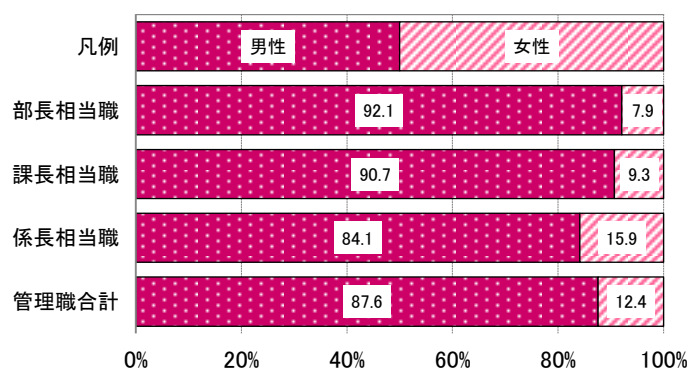
(3) 従業員数



■ 正社員、パート・臨時従業員の性別割合(38事業所 合計9,480人)

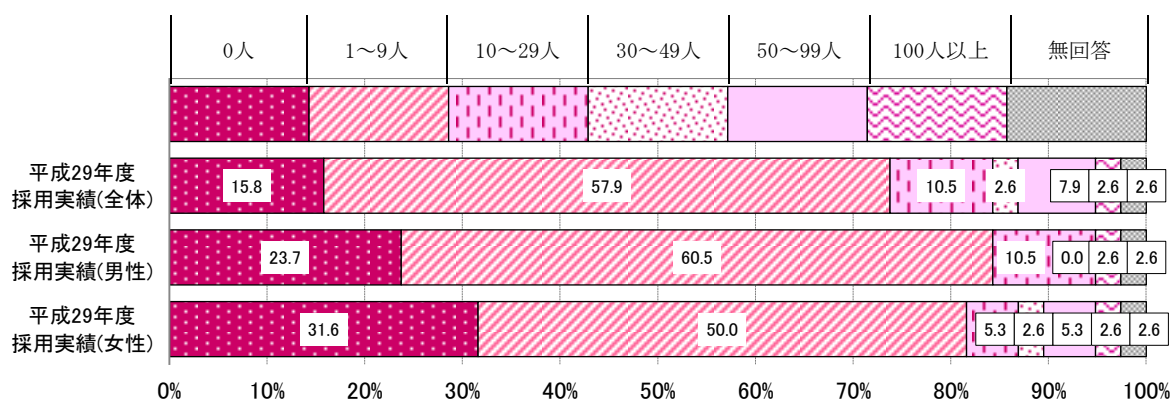


(4) 管理職人数 (38事務所 合計1,059人)

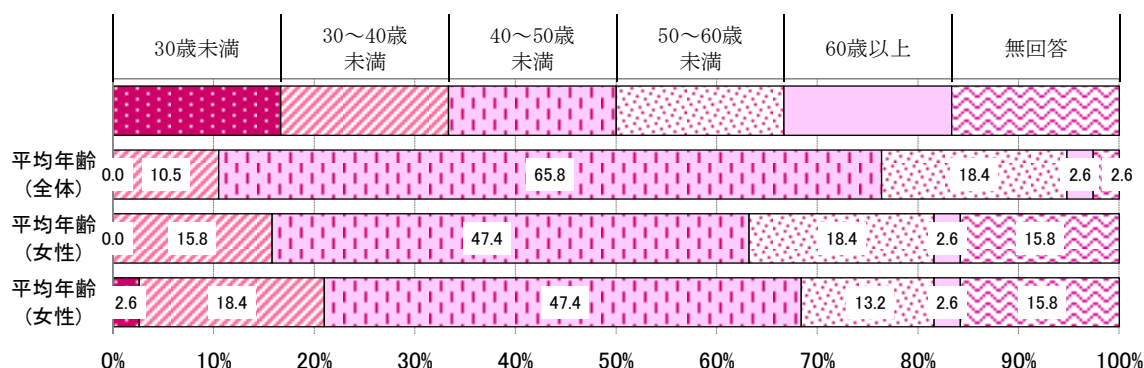


項目	合計	男性	女性
部長相当職	140 人	129 人	11 人
課長相当職	397 人	360 人	37 人
係長相当職	522 人	439 人	83 人
管理職合計	1,059 人	928 人	131 人

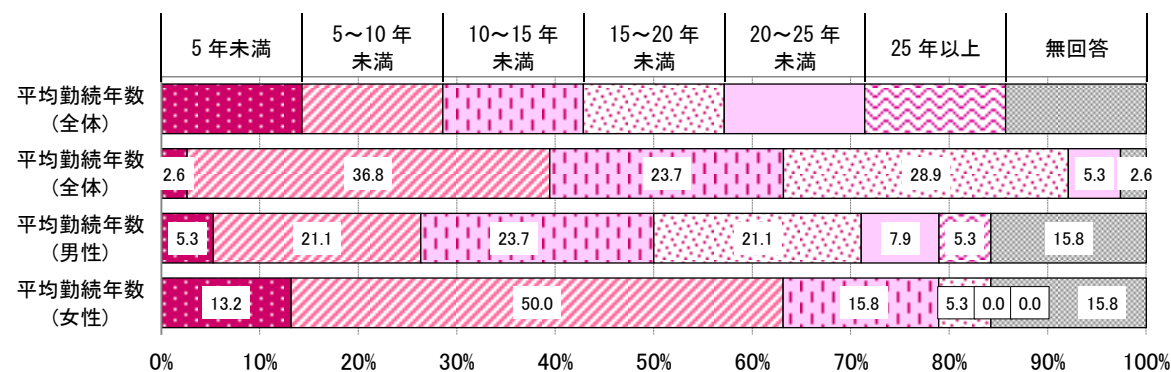
(5) 平成29年度採用実績



(6) 平均年齢



(7) 平均勤続年数



Ⅲ 調査結果

1. 雇用管理について

(1) 事業所における男女の扱い

問2 現在、あなたの事業所では、男女の扱いについて、平等になっていると思いますか。

①～⑩の項目について、それぞれ1つを選んで○をしてください。

< 全体 >

事業所における男女の地位の平等感について、全ての項目で「平等になっている」が最も高い。

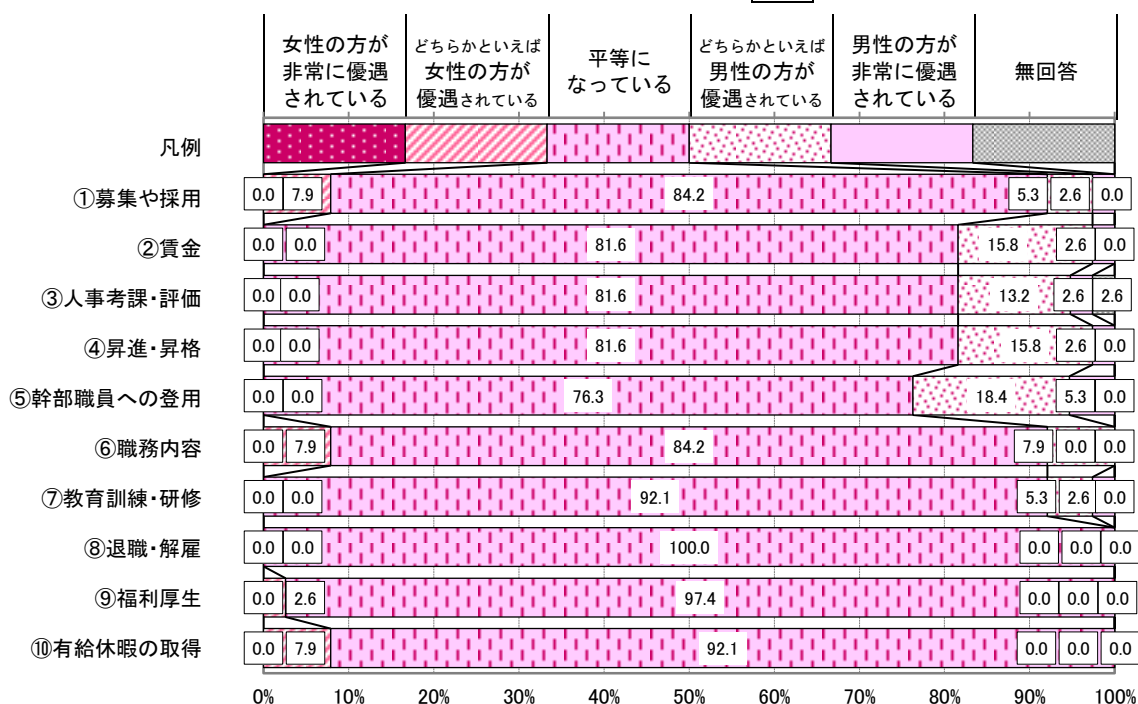
[⑤幹部職員への登用]は、「平等になっている(76.3%)」の値が他の項目より低く、『男性優遇※(23.7%)』の値が他の項目より高い。また[②賃金]、[③人事考課・評価]、[④昇進・昇格]についても『男性優遇※』の値が他の項目より高くなっている。

※『男性優遇』は「男性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計

※『女性優遇』は「女性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の合計

■ 事業所における男女の扱い

	『女性優遇』※	「平等になっている」	『男性優遇』※
① 募集や採用	7.9%	84.2%	7.9%
② 賃金	0.0%	81.6%	18.4%
③ 人事考課・評価	0.0%	81.6%	15.8%
④ 昇進・昇格	0.0%	81.6%	18.4%
⑤ 幹部職員への登用	0.0%	76.3%	23.7%
⑥ 職務内容	7.9%	84.2%	7.9%
⑦ 教育訓練・研修	0.0%	92.1%	7.9%
⑧ 退職・解雇	0.0%	100.0%	0.0%
⑨ 福利厚生	2.6%	97.4%	0.0%
⑩ 有給休暇の取得	7.9%	92.1%	0.0%



n=38

< 従業員数別の値の比較 >

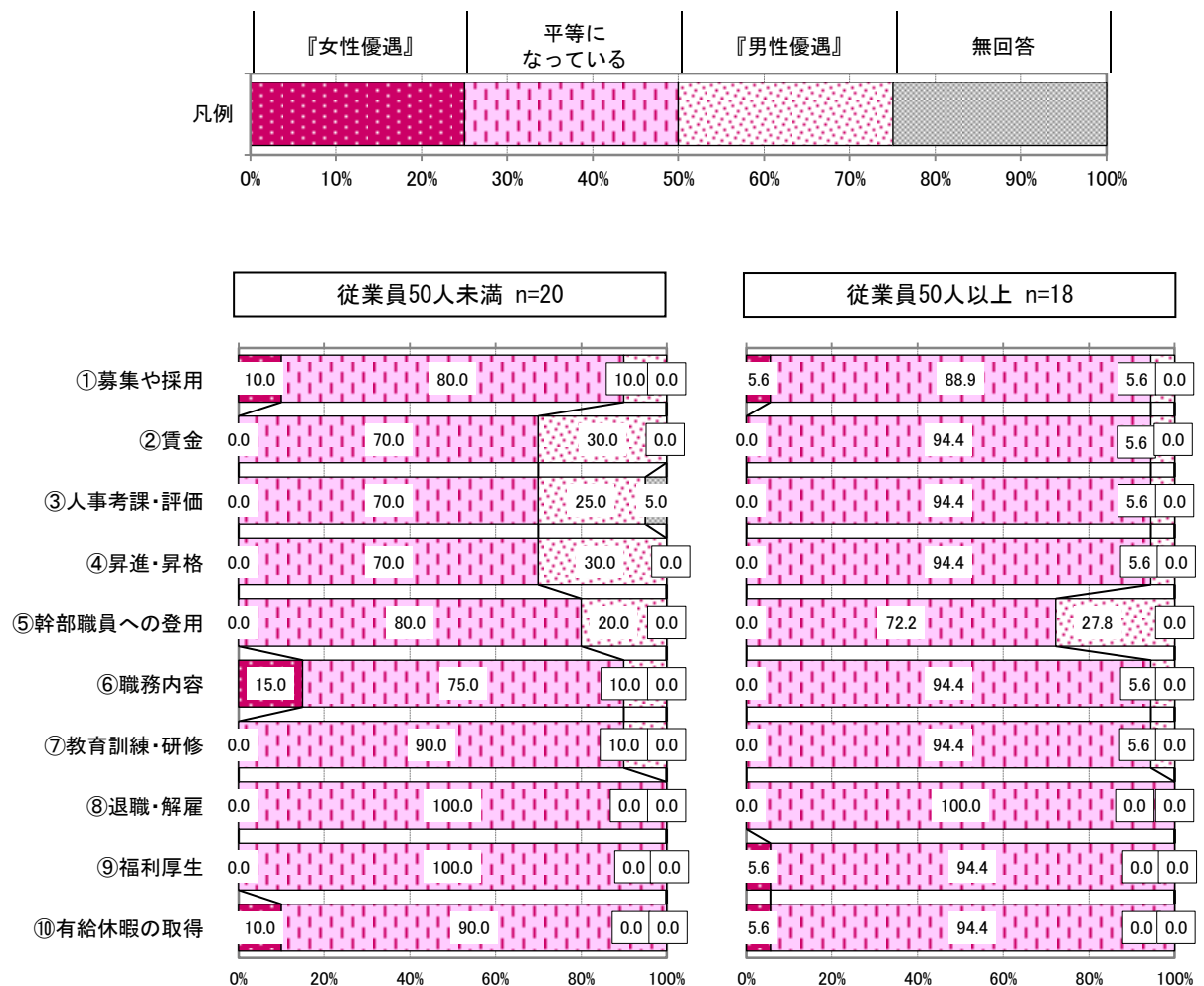
職場での男女の扱いについて、[従業員50人以上]が[従業員50人未満]より「平等になっている」の値が高くなっている項目としては、差が大きい順に[②賃金(24.4ポイント差)]、[③人事考課・評価(24.4ポイント差)]、[④昇進・昇格(24.4ポイント差)]、[⑥職務内容(19.4ポイント差)]、[①募集や採用(8.9ポイント差)]となっている。

[③職務内容]の『女性優遇』の値は、[従業員50人未満]が15.0%、[従業員50人以上]が0.0%と[従業員50人未満]の方が15ポイント高くなっている。

※『男性優遇』は「男性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計

※『女性優遇』は「女性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の合計

■ 事業所における男女の扱い -従業員数別-



2. ポジティブ・アクション（積極的改善措置）について

（1）ポジティブ・アクションの取組状況

問3 あなたの事業所では、男女間の格差を解消するためにポジティブ・アクション（積極的改善措置）を何か行っていますか。次の中から1つを選んで○をしてください

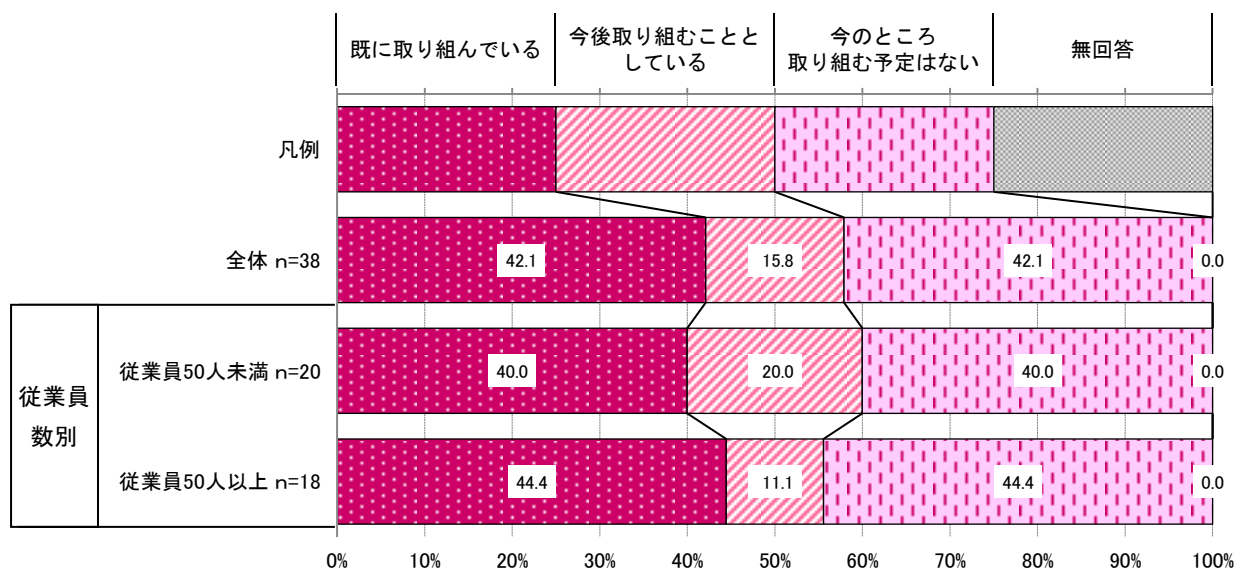
< 全体 >

ポジティブ・アクションの取組状況については、「既に取り組んでいる(42.1%)」、「今後取り組むこととしている(15.8%)」、「今のところ取り組む予定はない(42.1%)」となっている。

< 従業員数別の値の比較 >

「今後取り組むこととしている」は、[従業員50人未満]が[従業員50人以上]より8.9ポイント高い。

■ ポジティブ・アクションの取組状況 -従業員数別-



(2) ポジティブ・アクションの取組内容

問3で「1 既に取り組んでいる」と答えた方におたずねします。

問4 その取組はどのような内容のものですか。

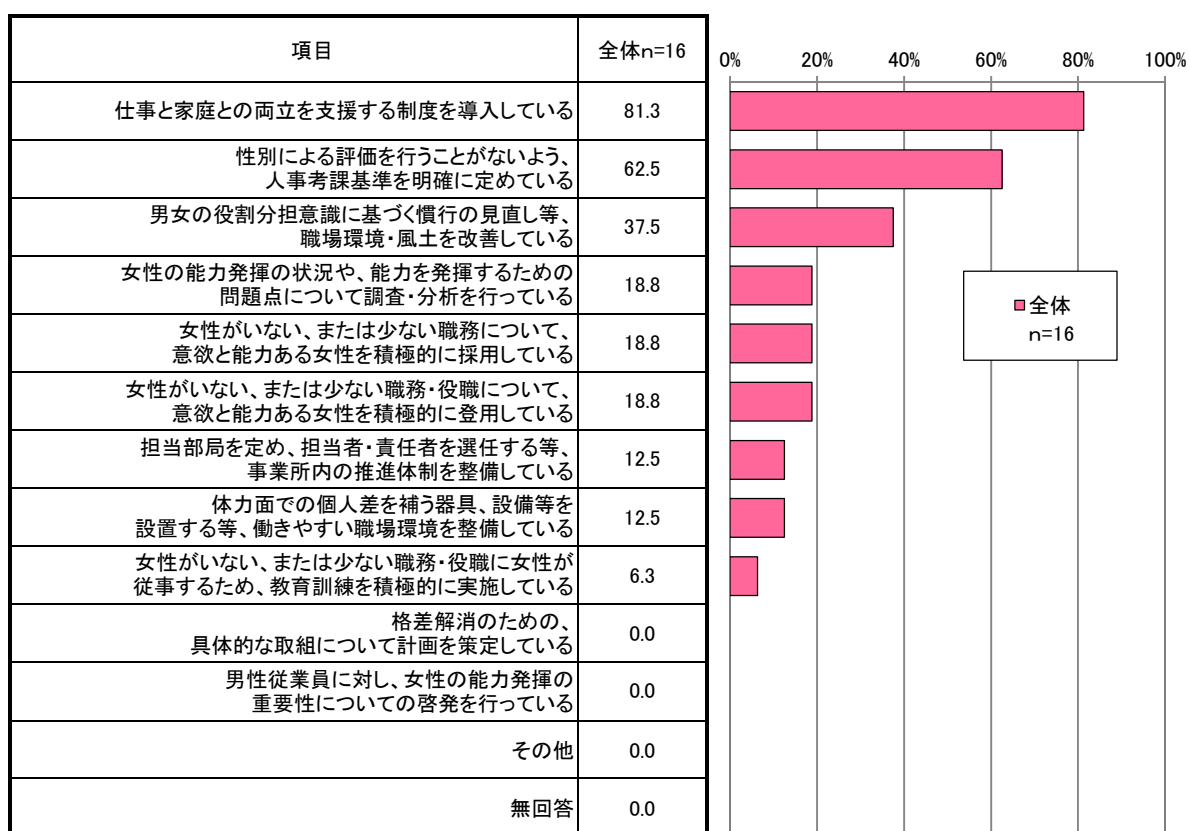
次の中からあてはまるものすべてを選んで○をしてください。

< 全体 >

ポジティブ・アクション(積極的改善措置)に既に取り組んでいる事業所の取組の中では、「仕事と家庭との両立を支援する制度を導入している(81.3%)」が最も高く、ついで、「性別による評価を行うことがないよう、人事考課基準を明確に定めている(62.5%)」、「男女の役割分担意識に基づく慣行の見直し等、職場環境・風土を改善している(37.5%)」が高くなっている。

■ ポジティブ・アクションの取組内容

単位: % [複数回答]



(3) ポジティブ・アクションに取り組んでいない理由

問3で、「2 今後取り組むこととしている」、または「3 今のところ取り組む予定はない」と答えた方におたずねします。

問5 現在取り組んでいないのはどのような理由からですか。

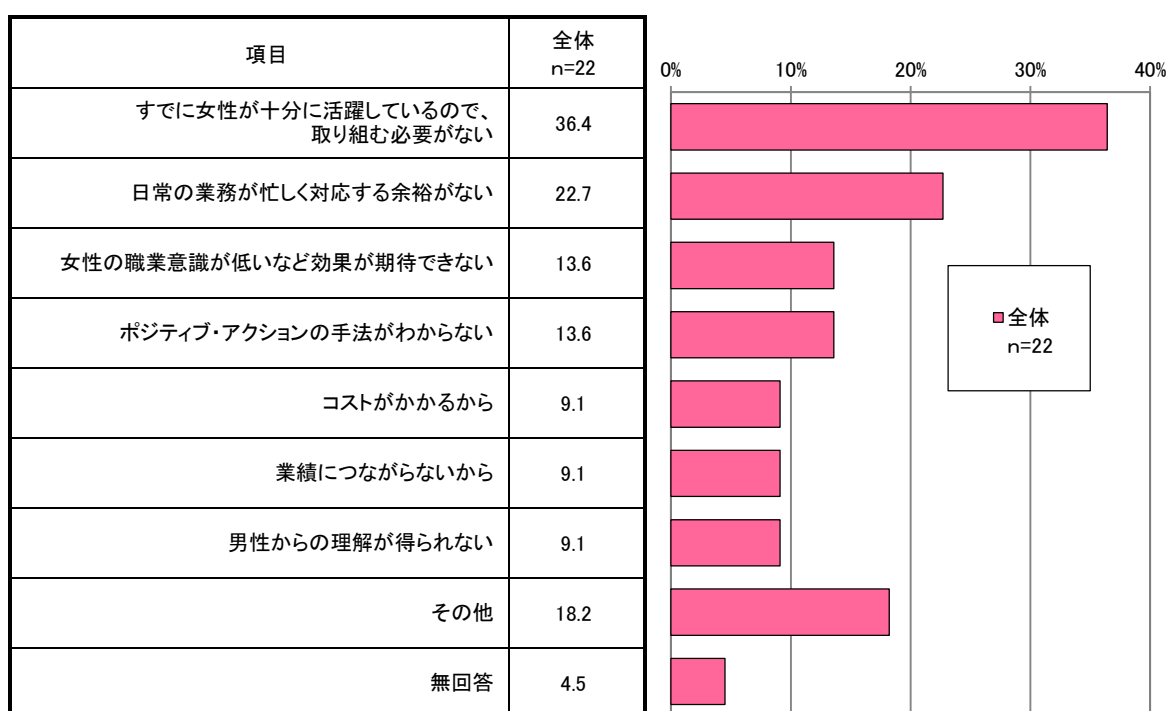
次の中からあてはまるものすべてを選んで○をしてください。

< 全体 >

ポジティブ・アクションに取り組んでいない事業所が取組んでいない理由については、「すでに女性が十分に活躍しているので、取り組む必要がない(36.4%)」が最も高く、ついで、「日常の業務が忙しく対応する余裕がない(22.7%)」、「女性の職業意識が低いなど効果が期待できない(13.6%)」、「ポジティブ・アクションの手法がわからない(13.6%)」が高くなっている。

■ ポジティブ・アクションに取り組んでいない理由

単位: % [複数回答]



3. ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について

(1) ワーク・ライフ・バランスの認知度

問6 ワーク・ライフ・バランスについて知っていますか。次の中から1つを選んで○をしてください。

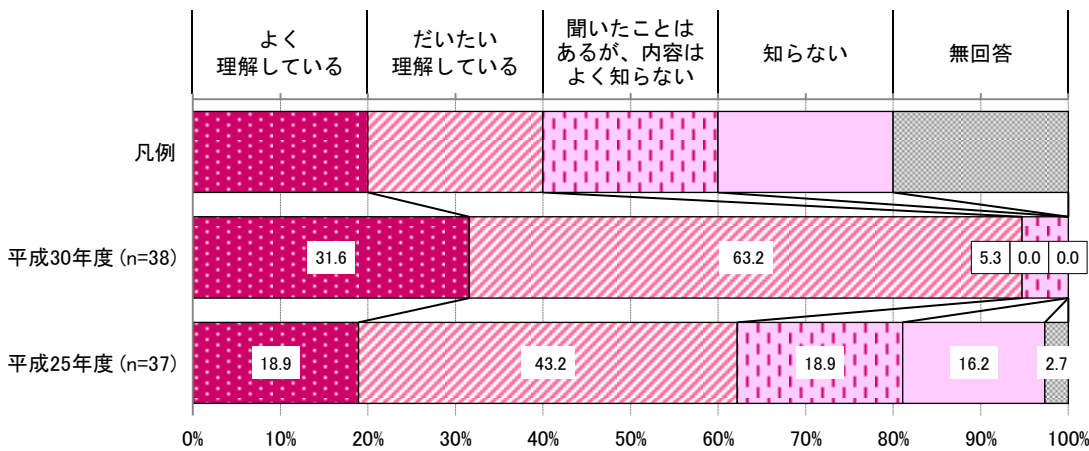
< 全体 >

ワーク・ライフ・バランスの認知度については、「よく理解している(31.6%)」と「だいたい理解している(63.2%)」を合わせた『理解している』の値は94.8%となっている。

< 前回調査結果との比較 >

経年比較では、「よく理解している(31.6%)」の値は前回調査(18.9%)から12.7ポイント、だいたい理解している(63.2%)の値は、前回調査(43.2%)から20ポイント高くなっている。

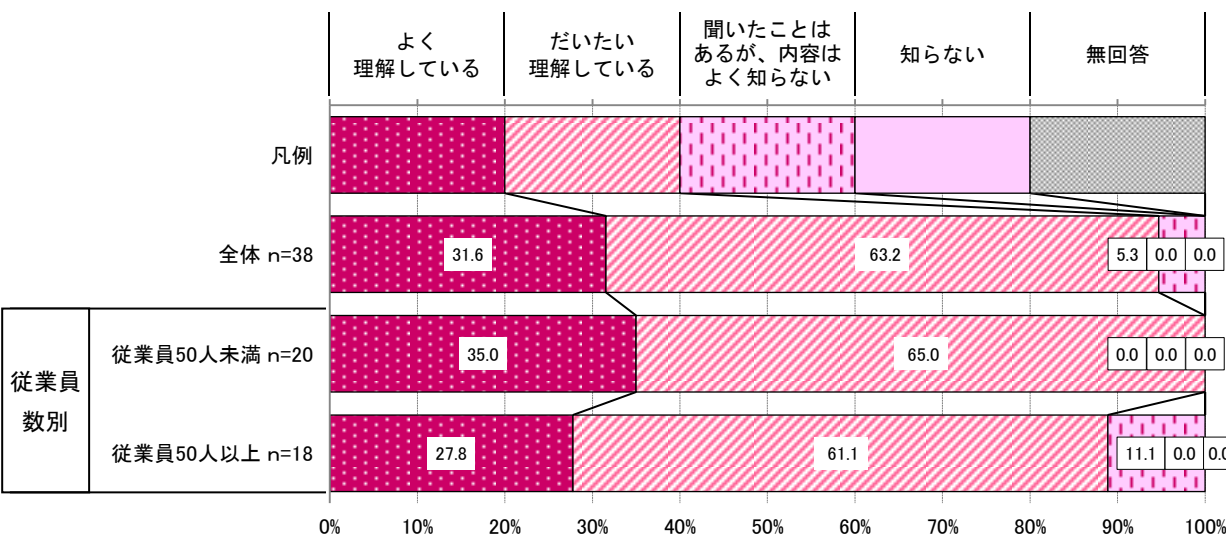
■ ワーク・ライフ・バランスの認知度 -経年比較-



< 従業員数別の値の比較 >

「よく理解している」の値は、[従業員50人未満(35.0%)]が[従業員50人以上(27.8%)]より7.2ポイント高い。

ワーク・ライフ・バランスの認知度 -従業員数別-



(2) ワーク・ライフ・バランスの推進に対する考え

問7 ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)を事業所で推進していくことについて
どのようにお考えですか。次の中から1つを選んで○をしてください。

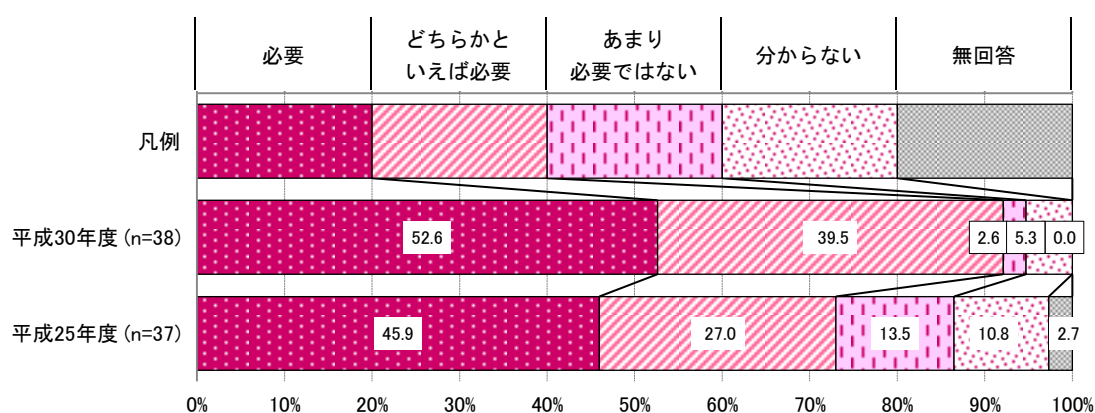
< 全体 >

ワーク・ライフ・バランスの推進に対する考えについては、「必要(52.6%)」と「どちらかといえば必要(39.5%)」を合わせた『必要』は92.1%となっている。

< 前回調査結果との比較 >

経年比較では、「どちらかといえば必要(39.5%)」の値は前回調査(27.0%)から12.5ポイント高くなっており、『必要』の値は、前回調査(72.9%)から19.2ポイント高くなっている。

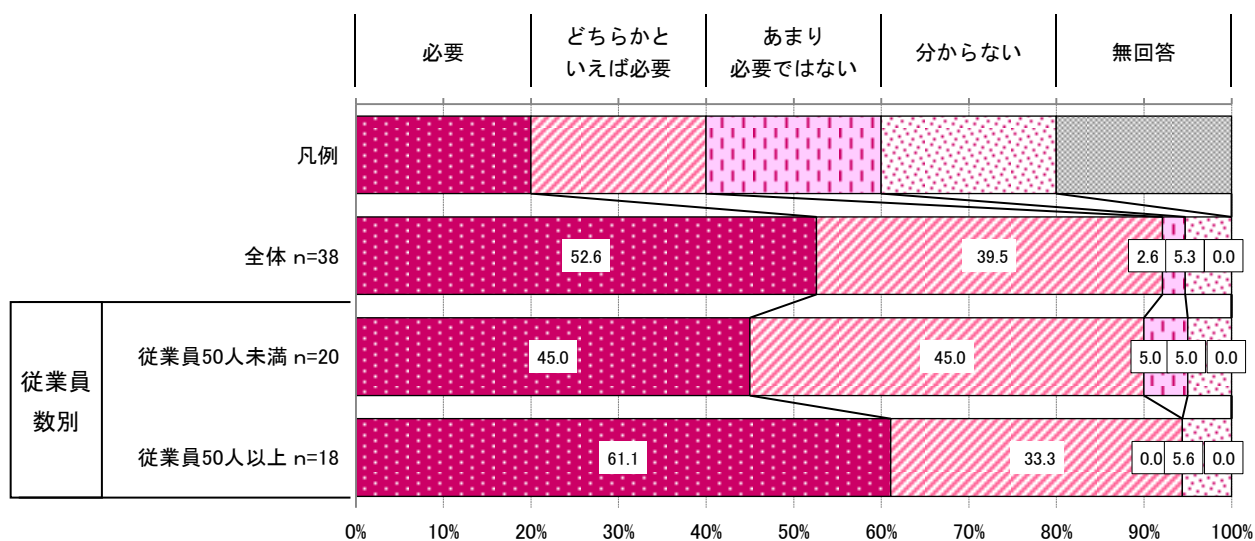
■ ワーク・ライフ・バランスの推進に対する考え -経年比較-



< 従業員数別の値の比較 >

「必要」は、[従業員50人以上(61.1%)]が[従業員50人未満(45.0%)]より16.1ポイント高い。

■ ワーク・ライフ・バランスの推進に対する考え -従業員数別-



(3) 育児休業の取得状況

問8 過去5年間の育児休業の取得状況についてお聞きします。

< 全体・性別の値の比較 >

育児休業の取得状況について、総従業員数(38事業所、9,491人)に対する育児休業取得者の比率(下表④)は、全体2.2%、男性0.3%、女性3.9%、育児休業対象者数(38事業所、492人)に対する育児休業取得者の比率(下表⑤)は全体42.7%、男性4.2%、女性94.7%であり、ともに女性の値が男性より高い。

< 従業員数別の値の比較 >

育児休業対象者数に対する育児休業取得者の比率(下表⑤)について、男性の値を見ると、[従業員50人以上]は3.8%、[従業員50人未満]は9.5%と[従業員50人以上]の方が5.7ポイント高くなっている。

■ 育児休業の取得状況 -従業員数別-

	①総従業員数 (※問1より、対象 38 事業所)			②育児休業対象者数			③育児休業取得者数		
	全体	男性	女性	全体	男性	女性	全体	男性	女性
従業員 50 人以上 n=18	8,953 人	3,973 人	4,929 人	462 人	262 人	200 人	199 人	10 人	189 人
従業員 50 人未満 n=20	538 人	360 人	178 人	30 人	21 人	9 人	11 人	2 人	9 人
全体 n=38	9,491 人	4,333 人	5,107 人	492 人	283 人	209 人	210 人	12 人	198 人

	④総従業員数に対する 育児休業取得者の比率 (※②÷①*100)			⑤育児休業対象者数に対する 育児休業取得者の比率 (※③÷②*100)		
	全体	男性	女性	全体	男性	女性
従業員 50 人以上 n=18	2.2%	0.3%	3.8%	43.1%	3.8%	94.5%
従業員 50 人未満 n=20	2.0%	0.6%	5.1%	36.7%	9.5%	100.0%
全体 n=38	2.2%	0.3%	3.9%	42.7%	4.2%	94.7%

(4) 介護を理由とした休業や退職状況

問9 過去5年間で、介護を理由に休業や退職した人の状況についてお聞きます。

< 全体・性別の値の比較 >

介護を理由とした休業や退職の状況について、総従業員数(38事業所、9,491人)に対する介護休業者の比率(下表④)は、全体0.2%、男性0.1%、女性0.3%、総従業員数に対する介護退職者の比率(下表⑤)は全体0.6%、男性0.3%、女性0.8%であり、ともに女性の値が男性より高い。

< 従業員数別の値の比較 >

総従業員数に対する介護休業者の比率(下表④)および総従業員数に対する介護退職者の比率(下表⑤)について、従業員数別の値を比較すると、[従業員50人未満]の値が[従業員50人以上]より高い傾向が見られる。

■ 介護を理由とした休業や退職状況 -従業員数別-

	①総従業員数 (※問1より、対象 38 事業所)			②介護休業者数			③介護退職者数		
	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性
従業員 50 人以上 n=18	8,953 人	3,973 人	4,929 人	17 人	5 人	12 人	49 人	13 人	36 人
従業員 50 人未満 n=20	538 人	360 人	178 人	2 人	1 人	1 人	4 人	1 人	3 人
全体 n=38	9,491 人	4,333 人	5,107 人	19 人	6 人	13 人	53 人	14 人	39 人

	④総従業員数に対する 介護休業者の比率 (※②÷①*100)			⑤総従業員数に対する 介護退職者の比率 (※③÷①*100)		
	合計	男性	女性	合計	男性	女性
従業員 50 人以上 n=18	0.2%	0.1%	0.2%	0.5%	0.3%	0.7%
従業員 50 人未満 n=20	0.4%	0.3%	0.6%	0.7%	0.3%	1.7%
全体 n=38	0.2%	0.1%	0.3%	0.6%	0.3%	0.8%

(3) ワーク・ライフ・バランス推進のための制度の整備状況

問10 あなたの事業所では次の制度がありますか。あてはまるものすべてに○をしてください。

< 全体 >

ワーク・ライフ・バランス推進のための制度の整備については、「産前、産後休暇制度(81.6%)」の値が最も高く、ついで「再雇用制度(73.7%)」、「短時間勤務制度(57.9%)」が高い。

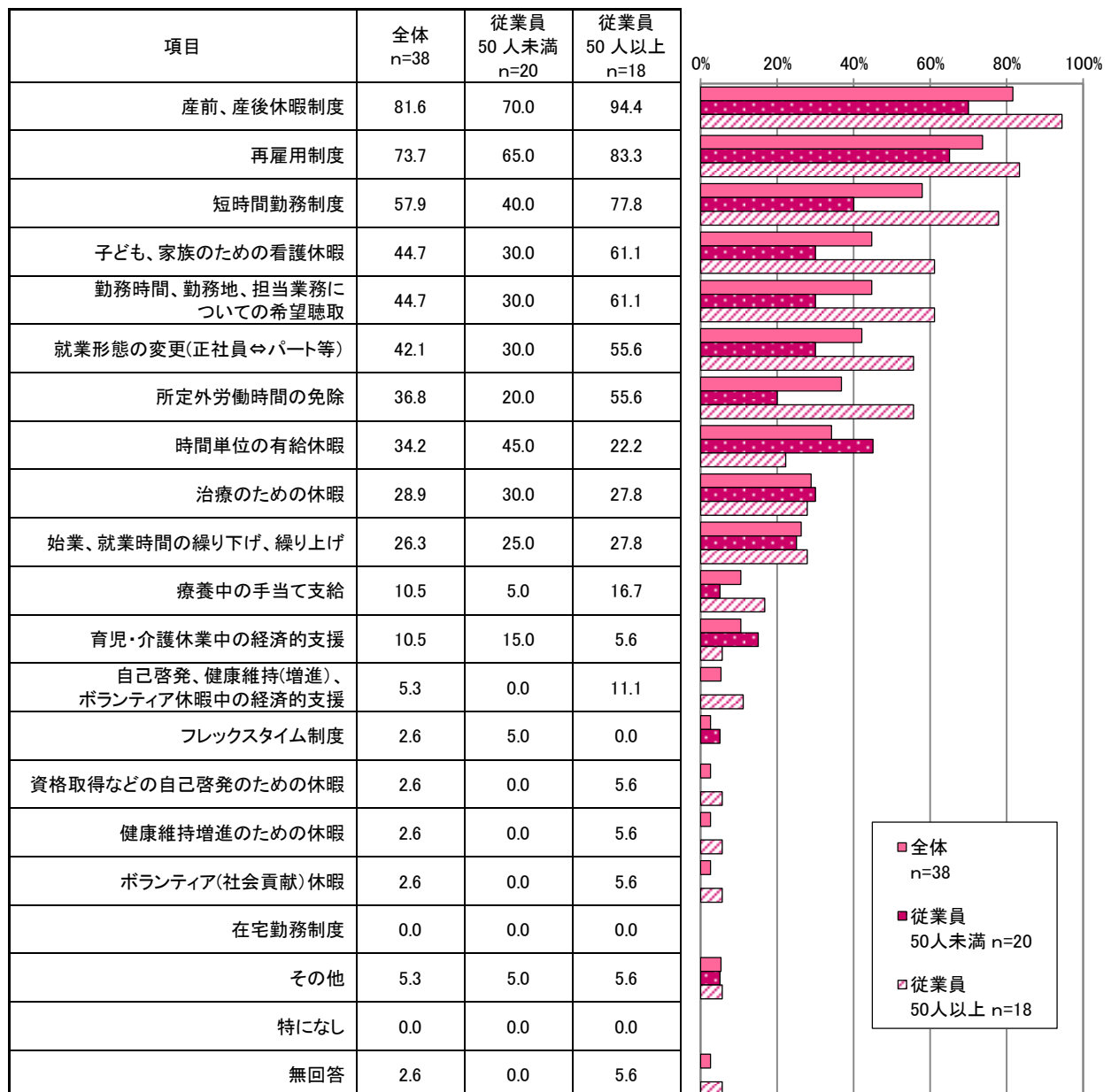
< 従業員数別の値の比較 >

「短時間勤務制度」、「子ども、家族のための看護休暇」、「勤務時間、勤務地、担当業務についての希望聴取」、「所定外労働時間の免除」は[従業員50人未満]より[従業員50人以上]の値が30ポイント以上高く、特に差が大きい。

「時間単位の有給休暇」は、[従業員50人未満(45.0%)]が[従業員50人以上(22.2%)]より22.8ポイント高い。

■ ワーク・ライフ・バランス推進のための制度の整備状況 -従業員数別-

単位: % [複数回答]



(4) ワーク・ライフ・バランス推進のために実施している取組

問11 あなたの事業所では、次の項目の中で実施しているものがありますか。
あてはまるものすべてに○をしてください。

< 全体 >

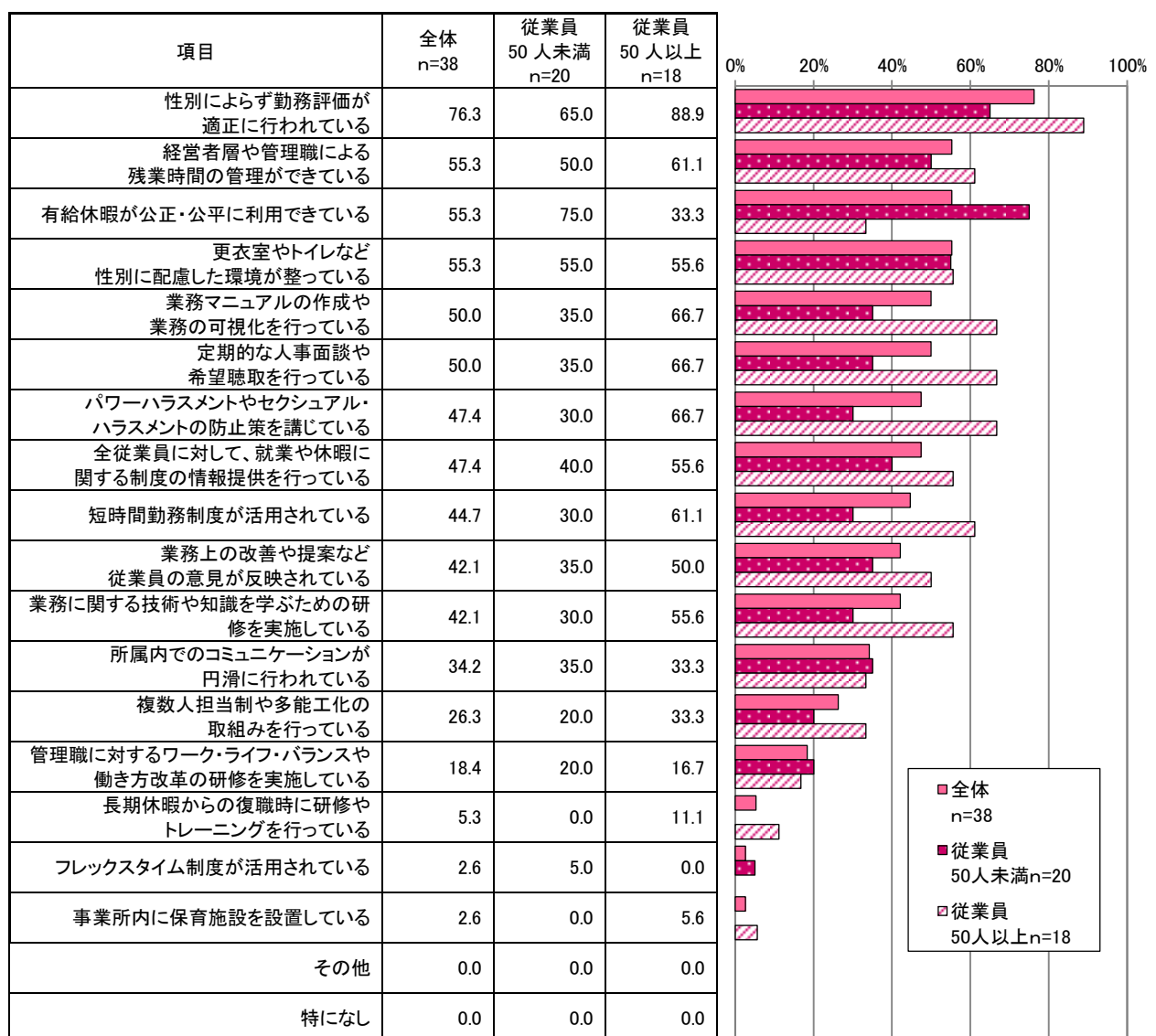
ワーク・ライフ・バランス推進のために実施している取組については、「性別によらず勤務評価が適正に行われている(76.3%)」の値が最も高く、ついで「経営者層や管理職による残業時間の管理ができている(55.3%)」「有給休暇が公正・公平に利用できている(55.3%)」「更衣室やトイレなど性別に配慮した環境が整っている(55.3%)」が高い。

< 従業員数別の値の比較 >

[従業員50人未満]は「有給休暇が公正・公平に利用できている(75.0%)」が最も高く、[従業員50人以上]は「性別によらず勤務評価が適正に行われている(88.9%)」の値が最も高い。

■ ワーク・ライフ・バランス推進のために実施している取組 -従業員数別-

単位: % [複数回答]



(7) 育児休業制度、介護休業制度の定着に必要な取組

問12 あなたの事業所で、育児休業制度、介護休業制度を定着させるためには、今後どのような取組が必要だと思いますか。
次の中からあてはまるものすべてを選んで○をしてください。

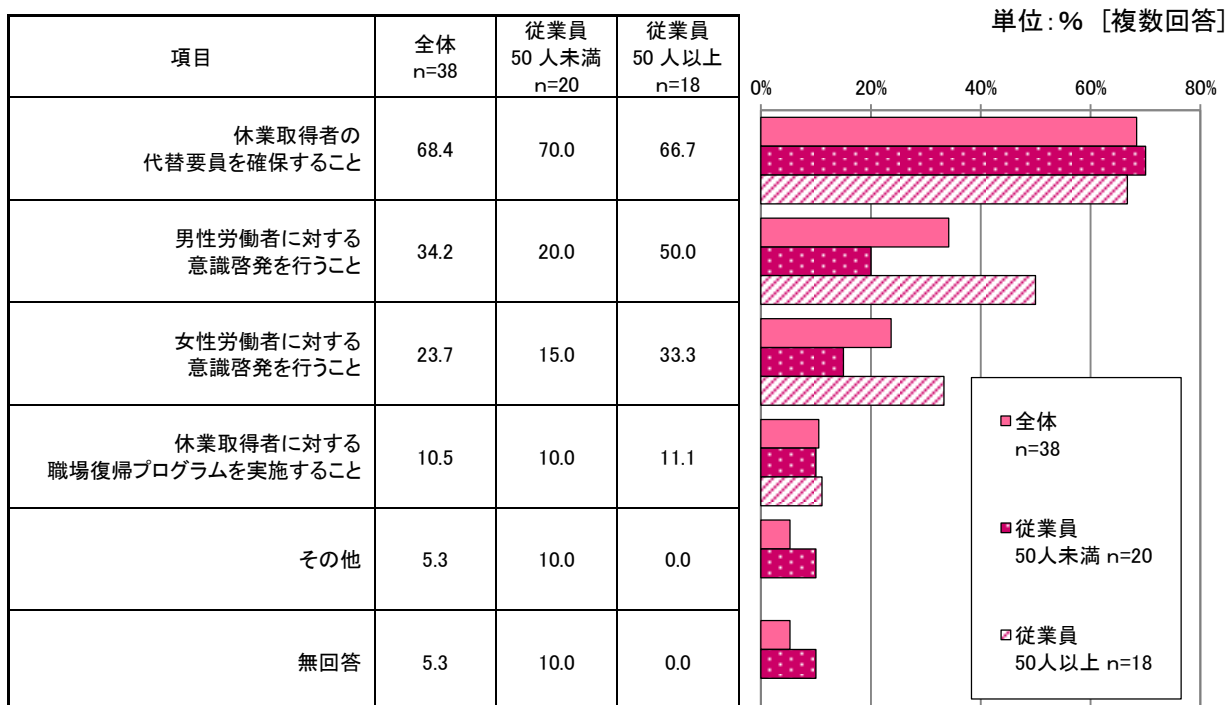
< 全体 >

育児休業制度、介護休業制度の定着に必要な取組については、「休業取得者の代替要員を確保すること(68.4%)」が最も高く、「男性労働者に対する意識啓発を行うこと(34.2%)」、「女性労働者に対する意識啓発を行うこと(23.7%)」となっている。

< 従業員数別の値の比較 >

「男性労働者に対する意識啓発を行うこと」は、[従業員50人以上(50.0%)]が[従業員50人未満(20.0%)]より30.0ポイント高い。

■ 育児休業制度、介護休業制度の定着に必要な取組 -従業員数別-



4. 女性の活躍の推進について

(1) 管理職や役員への女性登用意向

問13 あなたの事業所では、現在と比べて、管理職や役員に女性を登用しようと思いますか。
次の中から1つを選んで○をしてください。

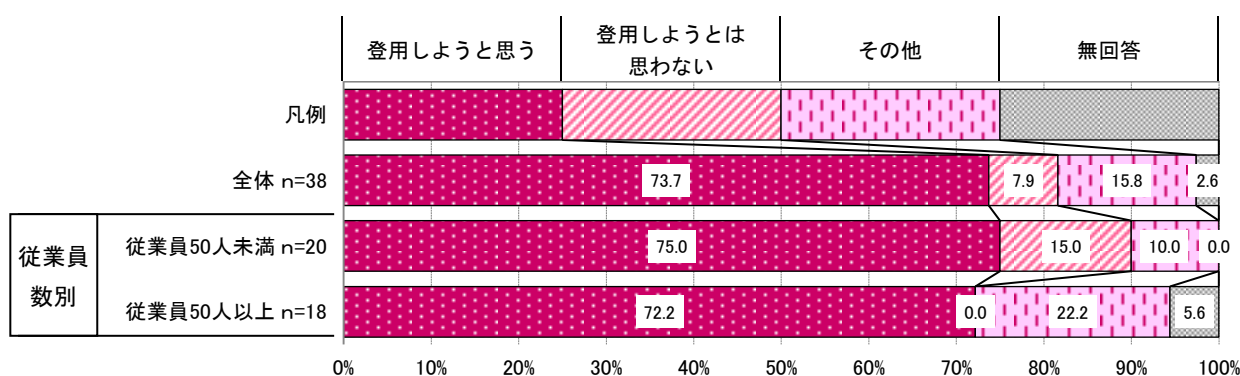
< 全体 >

管理職や役員への女性登用意向については、「登用しようと思う」は73.7%となっている。

< 従業員数別の値の比較 >

「登用しようとは思わない」は、[従業員50人以上]が0.0%に対し、[従業員50人未満]では15.0%を占めている。

■ 管理職や役員への女性登用意向 -従業員数別-



(2) 女性の採用意向

問14 あなたの事業所では、現在と比べて、女性を採用しようと思いますか。
次の中から1つを選んで○をしてください。

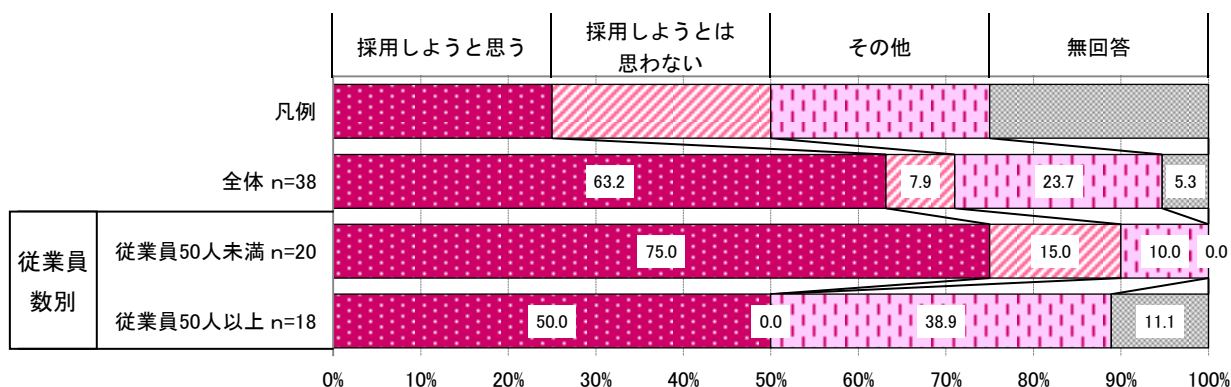
< 全体 >

現在と比べて、女性を採用しようと思うかについては、「採用しようと思う」は63.2%である。

< 従業員数別の値の比較 >

「採用しようと思う」は、[従業員50人未満(75.0%)]が[従業員50人以上(50.0%)]より25.0ポイント高い。

■ 女性の採用意向 -従業員数別-



(3) 女性活躍推進のメリット

問15 女性の活躍を推進するとどのようなメリットがあると思いますか。
次の中からあてはまるものすべてを選んで○をしてください。

< 全体 >

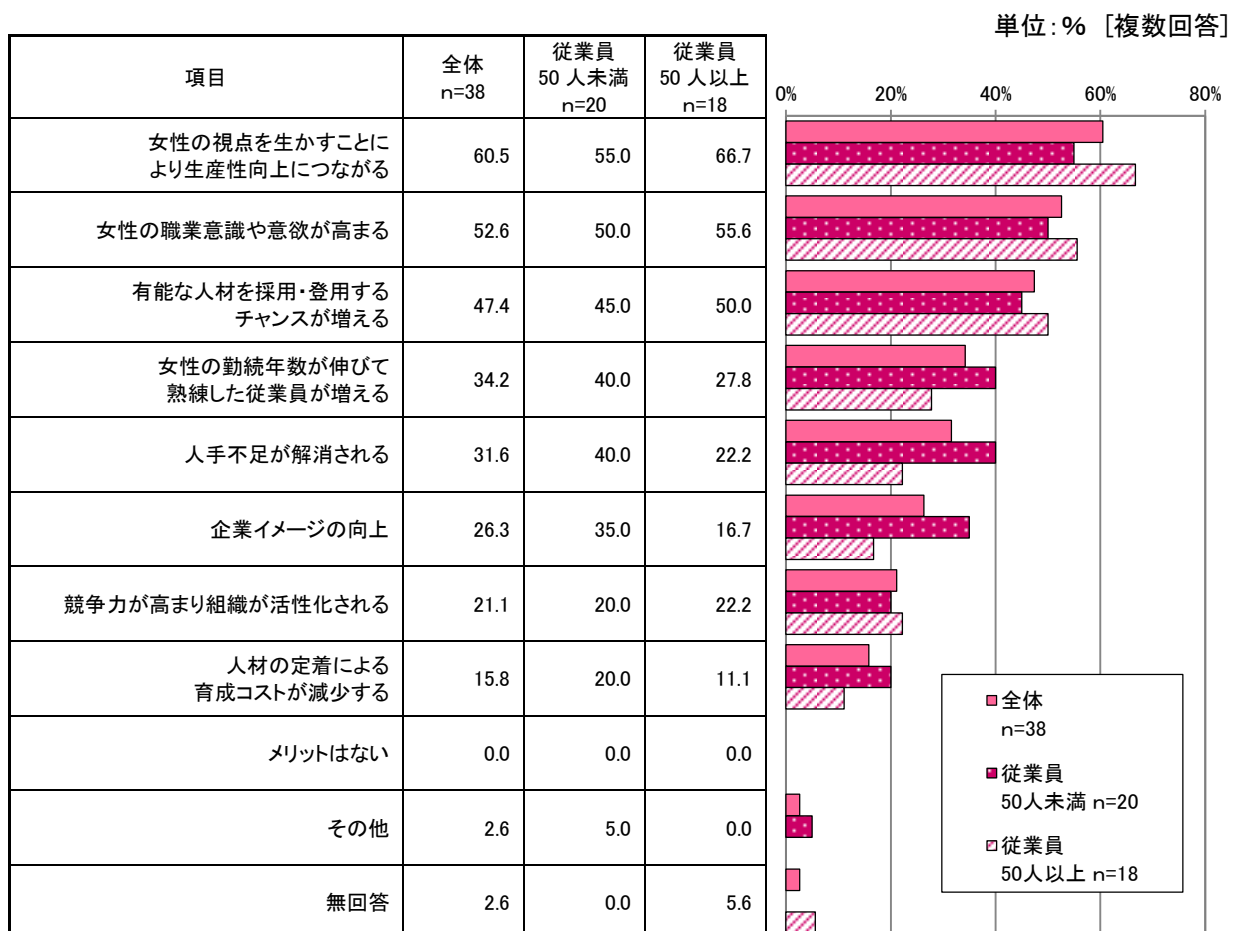
女性活躍推進のメリットについては、「女性の視点を生かすことにより生産性向上につながる(60.5%)」が最も高く、ついで、「女性の職業意識や意欲が高まる(52.6%)」、「有能な人材を採用・登用するチャンスが増える(47.4%)」が高くなっている。

< 従業員数別の値の比較 >

「女性の視点を生かすことにより生産性向上につながる」は、[従業員50人以上(66.7%)]が[従業員50人未満(55.0%)]より11.7ポイント高い。

[従業員50人未満]が[従業員50人以上]より高い項目は、差が大きい順に「企業イメージの向上(18.3ポイント差)」、「人手不足が解消される(17.8ポイント差)」、「女性の勤続年数が伸びて熟練した従業員が増える(12.2ポイント差)」となっている。

■ 女性活躍推進のメリット -従業員数別-



5. セクシュアル・ハラスメントの防止について

(1) セクシュアル・ハラスメント防止のための取組状況

問16 あなたの事業所では、セクシュアル・ハラスメントの防止のための取組を何か行っていますか。
次の中から1つを選んで○をしてください。

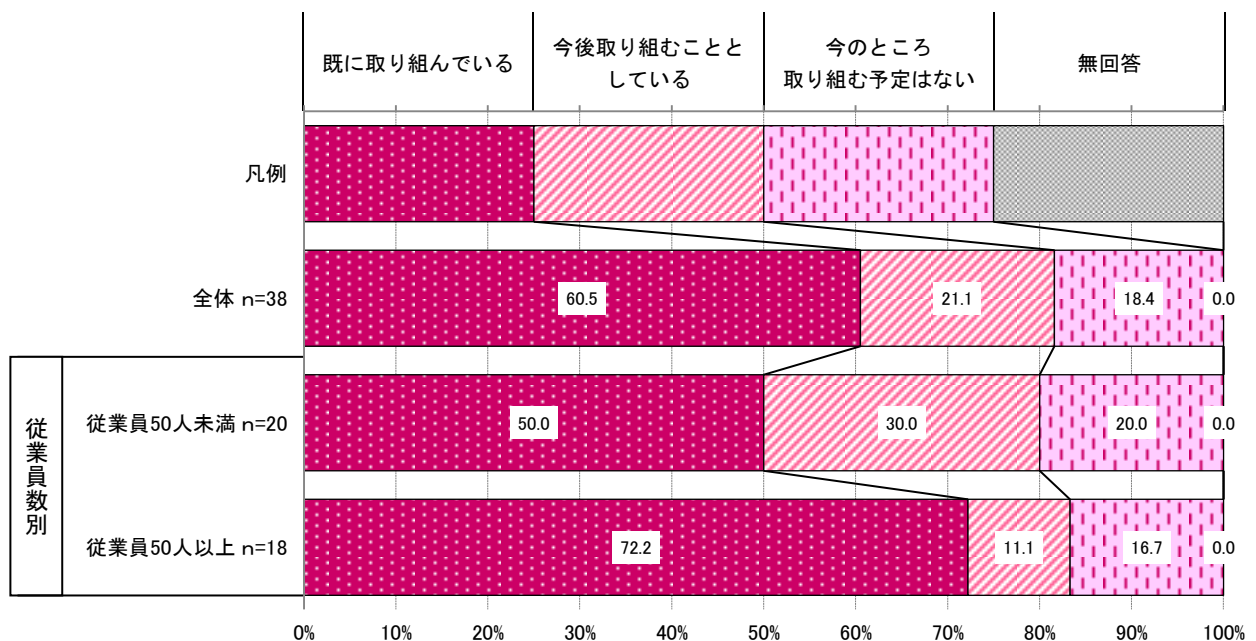
< 全体 >

セクシュアル・ハラスメント防止のための取組状況は、「既に取り組んでいる(60.5%)」、「今後取り組むこととしている(21.1%)」、「今のところ取り組む予定はない(18.4%)」となっている。

< 従業員数別の値の比較 >

「既に取り組んでいる」は、[従業員50人以上]が[従業員50人未満]より22.2ポイント高く、
「今後取り組むこととしている」は、[従業員50人未満]が[従業員50人以上]より18.9ポイント高い。

■ セクシュアル・ハラスメント防止のための取組状況 -従業員数別-



(2) セクシュアル・ハラスメント防止のための取組内容

問16で「1 既に取り組んでいる。」と答えた方におたずねします。

問17 その取組はどのような内容のものですか。

次の中からあてはまるものすべてを選んで○をしてください。

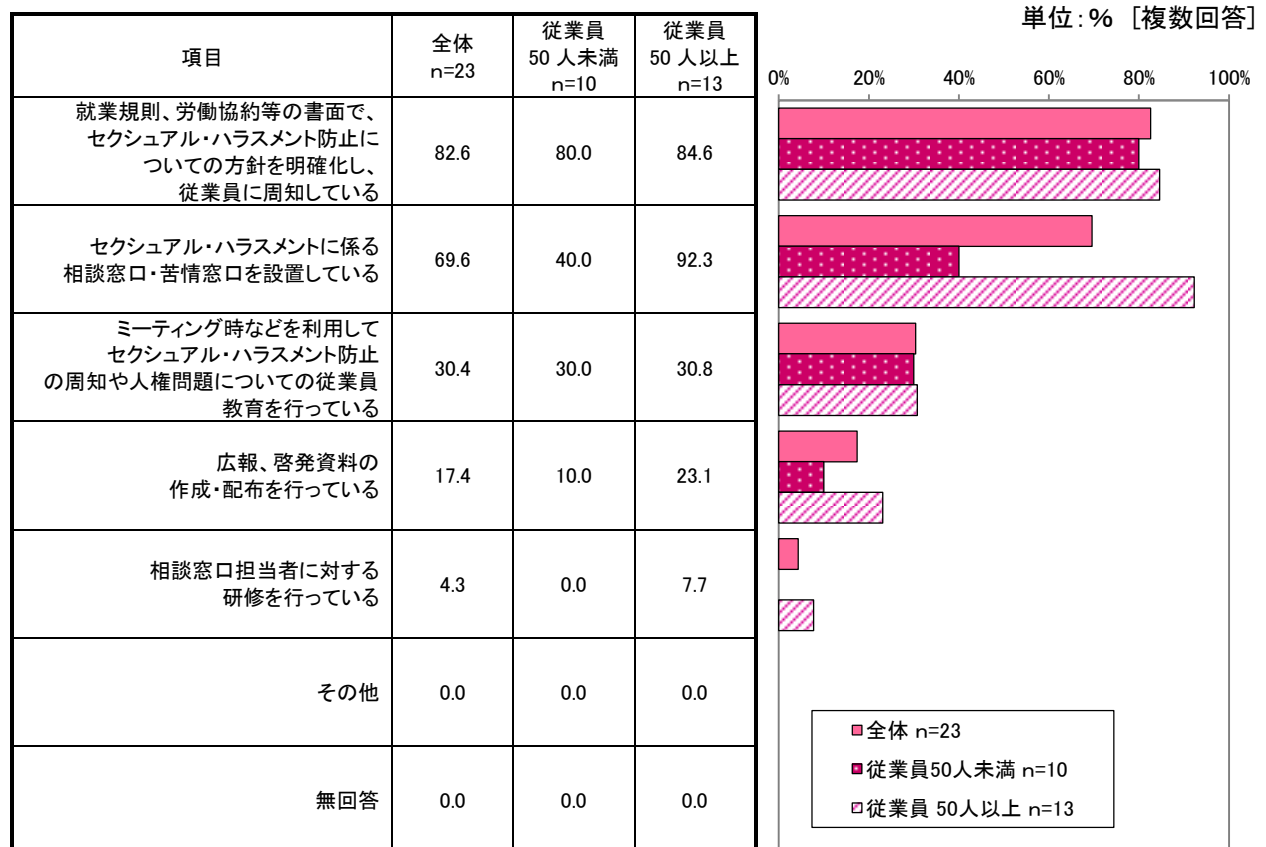
< 全体 >

セクシュアル・ハラスメント防止のための取組内容については、「就業規則、労働協約等の書面で、セクシュアル・ハラスメント防止についての方針を明確化し、従業員に周知している(82.6%)」が最も高く、ついで「セクシュアル・ハラスメントに係る相談窓口・苦情窓口を設置している(69.6%)」、「ミーティング時などを利用してセクシュアル・ハラスメント防止の周知や人権問題についての従業員教育を行っている(30.4%)」となっている。

< 従業員数別の値の比較 >

サンプル数が少ないため、参考値となるが、「セクシュアル・ハラスメントに係る相談窓口・苦情窓口を設置している」については、[従業員50人以上]は92.3%、[従業員50人未満]は40.0%と、[従業員50人以上]の方が52.3ポイント高くなっている。

■ セクシュアル・ハラスメント防止のための取組内容



6. 市として重点的に取り組むべきことについて

(1) 市として重点的に取り組むべきこと

問18 今後、働く場の「男女共同参画」を実現していくために、市はどのようなことに重点的に取り組むべきだと思いますか。次の中から3つ以内で選んで○をしてください。

< 全体 >

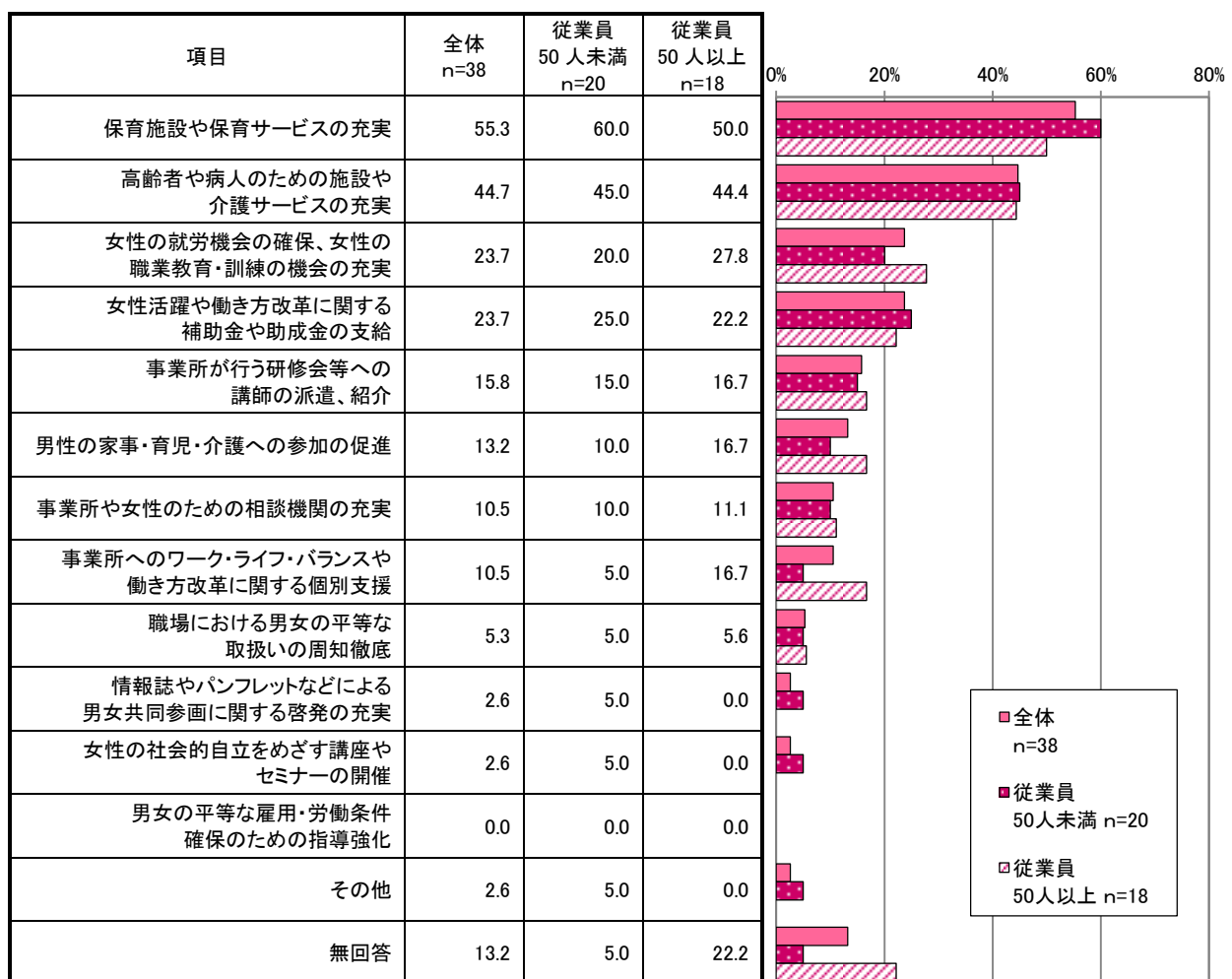
市として重点的に取り組むべきことについては、「保育施設や保育サービスの充実(55.3%)」が最も高く、ついで「高齢者や病人のための施設や介護サービスの充実(44.7%)」、「女性の就労機会の確保、女性の職業教育・訓練の機会の充実(23.7%)」、「女性活躍や働き方改革に関する補助金や助成金の(23.7%)」が高くなっている

< 従業員数別の値の比較 >

「保育施設や保育サービスの充実」については、[従業員50人未満]が[従業員50人以上]より10.0ポイント高く、反対に「事業所へのワーク・ライフ・バランスや働き方改革に関する個別支援」については、[従業員50人以上]が[従業員50人未満]より11.7ポイント高く、差が大きい。

■ 市として重点的に取り組むべきこと -従業員数別-

単位: % [複数回答]



Ⅳ 自由意見

「男女共同参画社会」を実現していくまちづくりについて、ご意見・ご要望などがありましたら、自由に記入してください。

< 自由意見の記入状況 >

「男女共同参画社会」を実現していくまちづくりについて、意見・要望などを自由に記入してもらったところ、全部で3件の意見が寄せられた。

- 女性の社会進出、昇進などが進まない主要因が、会社側が長期的に育成プランを描けない(描き難い)状況にあるからだと思います。私たちのようなギリギリの人数で行っている会社にとって、育てていた人財の喪失は大きなダメージです。
現時点では、寿退社や、出産・育児休暇により長期的に離脱されてしまうのは、経済的にも仕事的にも大きな負担となっています。市や県などの自治体が男女共同参画を推進したいのは分かりますが、様々な負担を企業側に押し付け、言い放しなのは筋違いだと思っています。積極的な支援よろしく願いいたします。
- 単純な男女という観点ではない。働き方改革により、働く人々の質の向上を図り、向上した部分について適正な報酬提供のしくみ作りが必要だと考えます。
- 独身女性が増えている。

3章 男女共同参画に関する中学生・高校生アンケート調査結果

I 調査の概要

1. 調査の目的

本アンケート調査は、男女共同参画に関する意識の変化を経年比較し、平成27年3月に策定した「第2次廿日市市男女共同参画プラン」の後期5年(平成32年度～)の実施計画策定に向けて、施策への反映、改善に役立てることを目的として実施した。

2. 調査の設計

- (1) 調査地域 廿日市市全域
- (2) 調査対象 市内の学校に通学する中学2年生および高校2年生
- (3) 標本数 1,881人 (中学2年生:942人 高校2年生:939人)
- (4) 調査方法 各学校に調査票を配付し、学校ごとに実施
- (6) 調査期間 平成30(2018)年11月12日(月)～11月30日(金)

3. 調査項目

- (1) 男女平等について
- (2) 家庭での家事などの分担について
- (3) 将来のことなどについて
- (4) デートDVについて
- (5) 男女共同参画社会を実現するために必要なことについて

4. 回収結果

- (1) 標本数 1,881人 (中学2年生:942人 高校2年生:939人)
- (2) 有効回収数 1,782人 (男子:870人 女子:896人 無回答:16人)
(中学2年生:882人 高校2年生:900人)
- (3) 有効回収率 94.7% ※参考 前回平成25(2013)年調査の有効回収率:94.8%

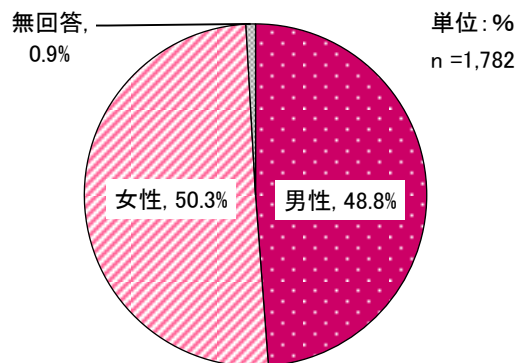
5. 報告書の見方

- (1) 図表中に示すnは、回答数総数を示す。
- (2) 回答比率(%)は、その設問の回答者数を基軸として算出し、小数点以下第2位を四捨五入した。このため、比率の合計が100.0%を上下する場合がある。
- (3) 回答が2つ以上ありうる複数回答は、比率の合計は100.0%を超える場合がある。
- (4) 表・グラフの属性別データは、無回答を除いて掲載しているため、回答数総数と属性別の回答者数の合計は一致しない場合がある。

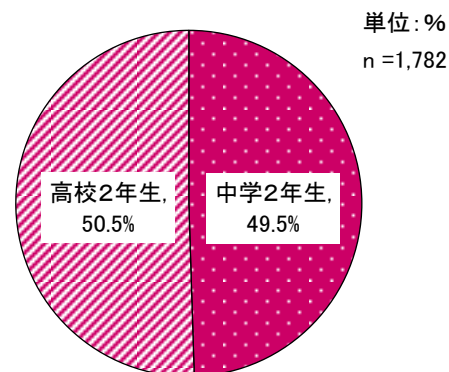
Ⅱ 調査回答者の属性

問1 次の(1)～(4)のことについて、あなた自身にあてはまるものを、それぞれ1つ選んで○をつけてください。

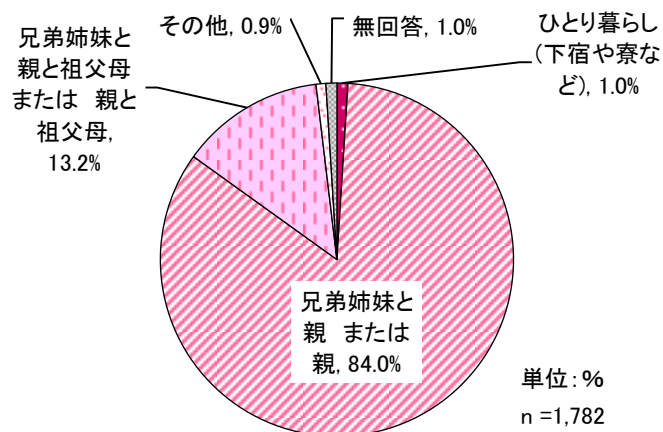
(1) 性別



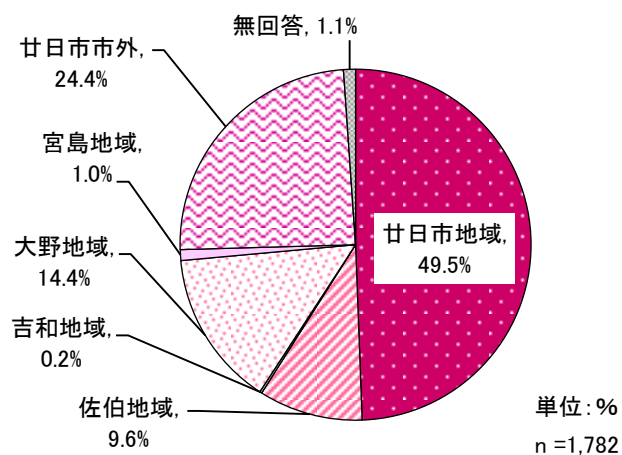
(2) 学年



(3) 家族構成



(4) 居住地



Ⅲ 調査結果

1. 男女平等について

(1) 男女の地位

問2 あなたは、次にあげる分野で、男女は平等になっていると思いますか。

①～⑥について、それぞれ1つを選んで○をつけてください。

< 全体 >

男女の地位の平等感について、「平等になっている」の値が最も高い項目は、[①家庭の中で]の59.8%であり、ついで[②学校の中で]の50.6%となっている。ただし、[②学校の中で]については、『女性優遇』の値が28.3%と他の項目と比較して最も高くなっている。

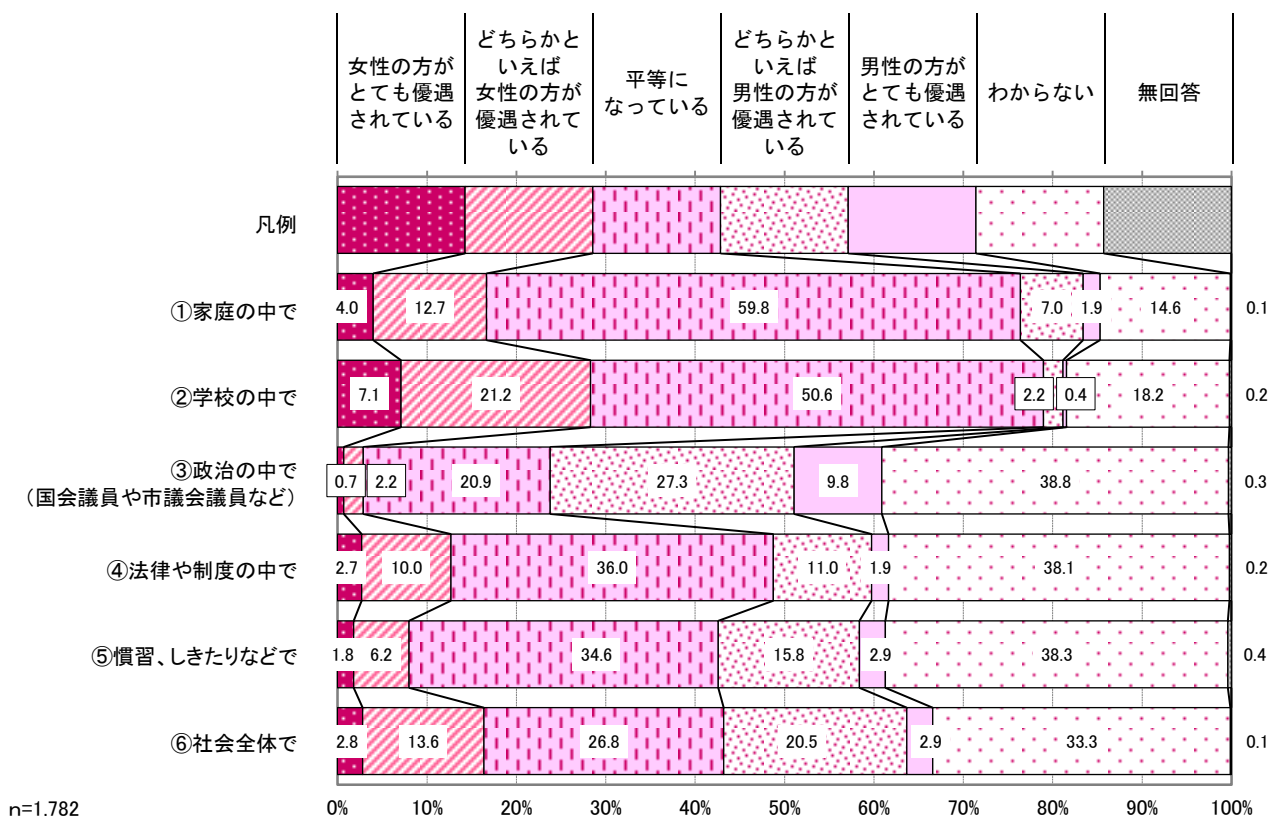
[③政治の中で（国会議員や市議会議員など）]は、「平等になっている」の値が20.9%と他の項目と比較して最も低く、『男性優遇(37.1%)』の値が最も高い。

※『男性優遇』は「男性の方がとても優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計

※『女性優遇』は「女性の方がとても優遇されている」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の合計

■ 男女の地位

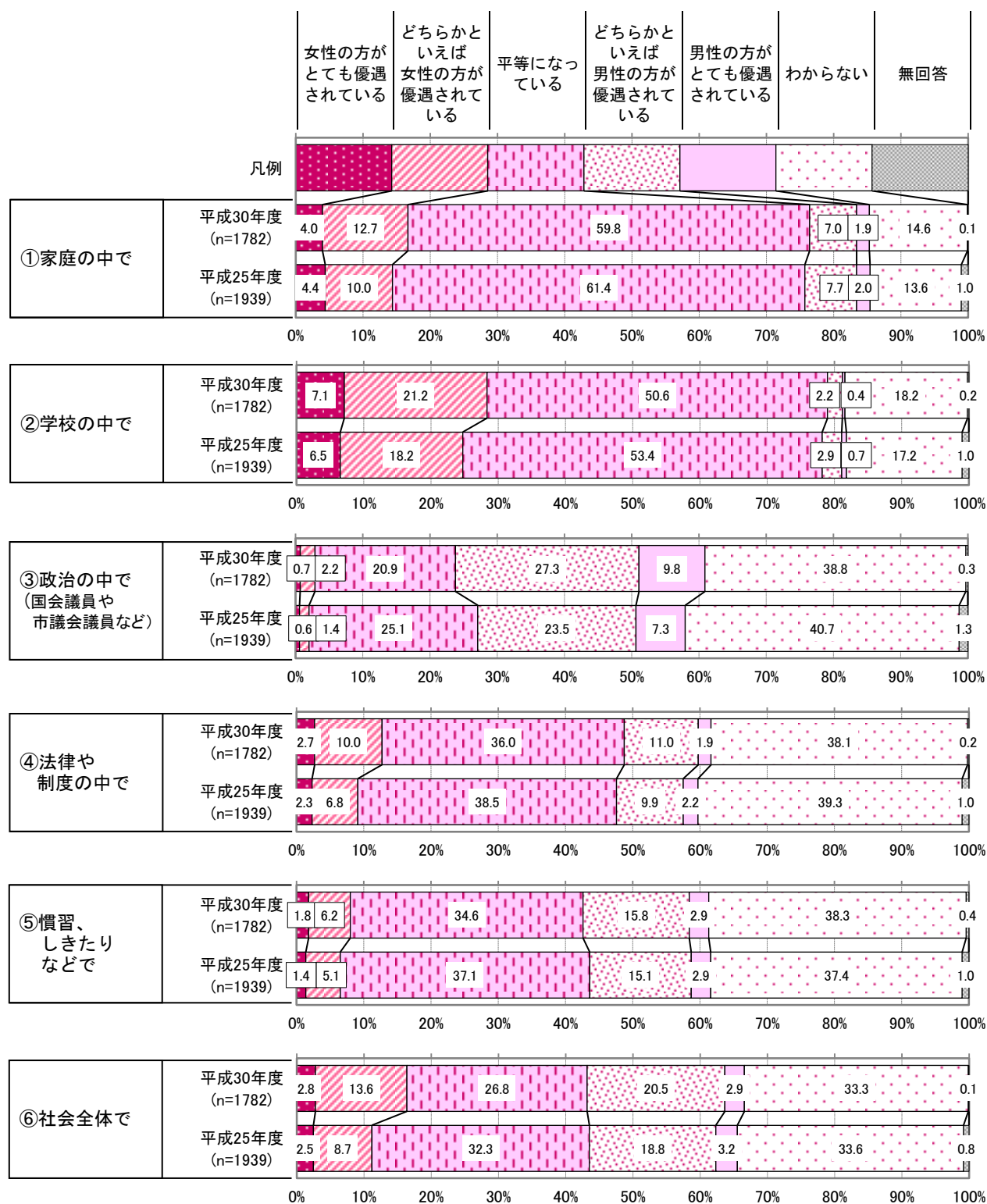
	『女性優遇』※	「平等になっている」	『男性優遇』※
① 家庭の中で.....	16.7%	59.8%	8.9%
② 学校の中で.....	28.3%	50.6%	2.6%
③ 政治の中で(国会議員や市議会議員など)	2.9%	20.9%	37.1%
④ 法律や制度の中で.....	12.7%	36.0%	12.9%
⑤ 慣習、しきたりなどで.....	8.0%	34.6%	18.7%
⑥ 社会全体で.....	16.4%	26.8%	23.4%



< 前回調査結果との比較 >

経年比較では、[③政治の中で(国会議員や市議会議員など)]において、『男性優遇』の値が37.1%と、前回調査(30.8%)から6.3ポイント高くなり、「平等になっている」の値は前回調査(25.1%)から4.2ポイント低くなっている。また、[⑥社会全体で]についても、『女性優遇』の値が16.4%と前回調査(11.2%)から5.2ポイント高くなり、「平等になっている」の値は前回調査(32.3%)から5.5ポイント低くなっている。

■ 男女の地位 ー経年比較ー



(2) 学校生活での男女の扱い

問3 あなたは、次にあげるような学校生活の場面の中で、男女は平等になっていると思いますか。
①～④について、それぞれ1つを選んで○をつけてください。

< 全体 >

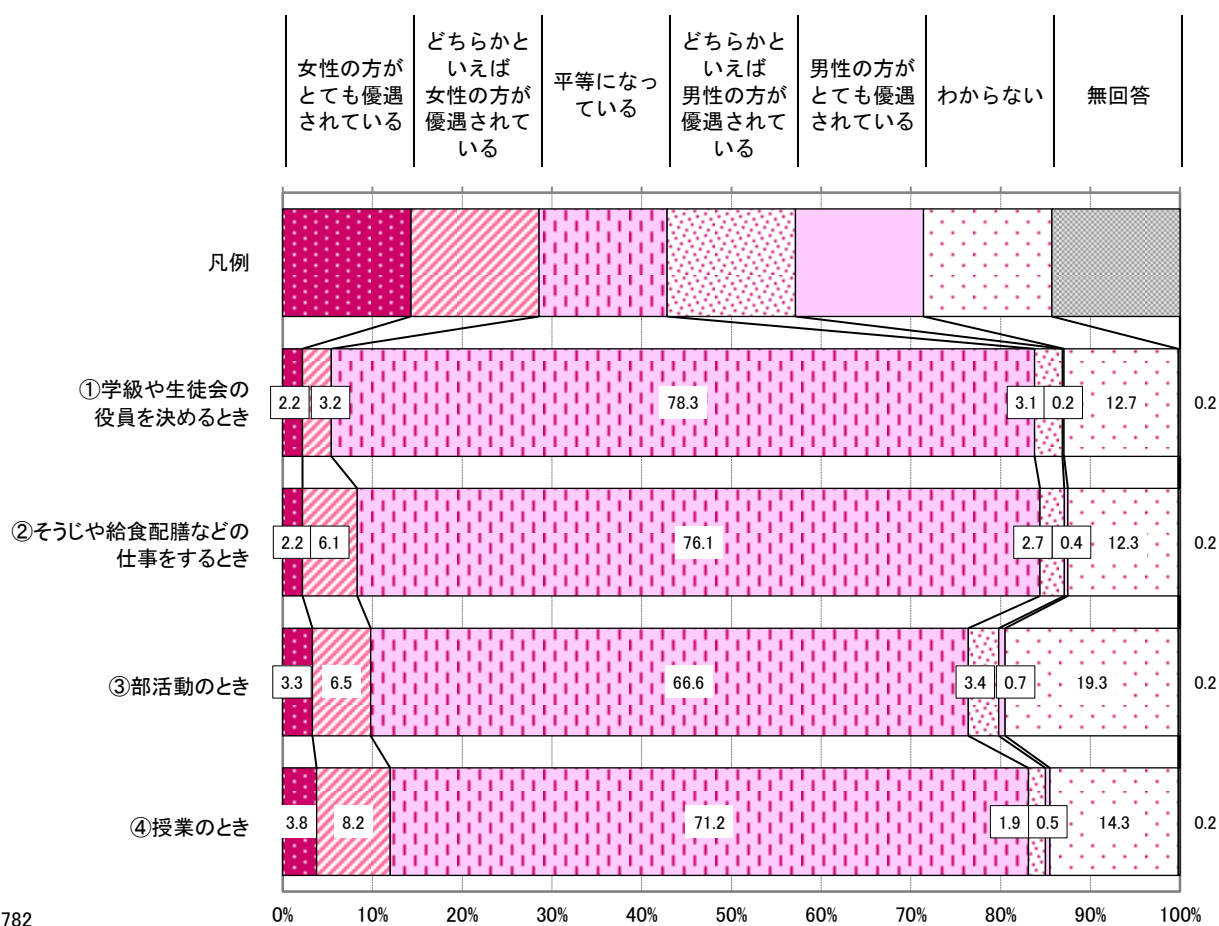
学校生活における男女の扱いについては、「平等になっている」の値は、[①学級や生徒会の役員を決めるとき]が78.3%と最も高く、ついで[②そうじや給食配膳などの仕事をするとき(76.1%)]、[④授業のとき(71.2%)]、[③部活動のとき(66.36%)]となっており、全ての項目で「平等になっている」が最も高い。

※『男性優遇』は「男性の方がとても優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計
※『女性優遇』は「女性の方がとても優遇されている」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の合計

■ 学校生活での男女の扱い

『女性優遇』※ 「平等になっている」 『男性優遇』※

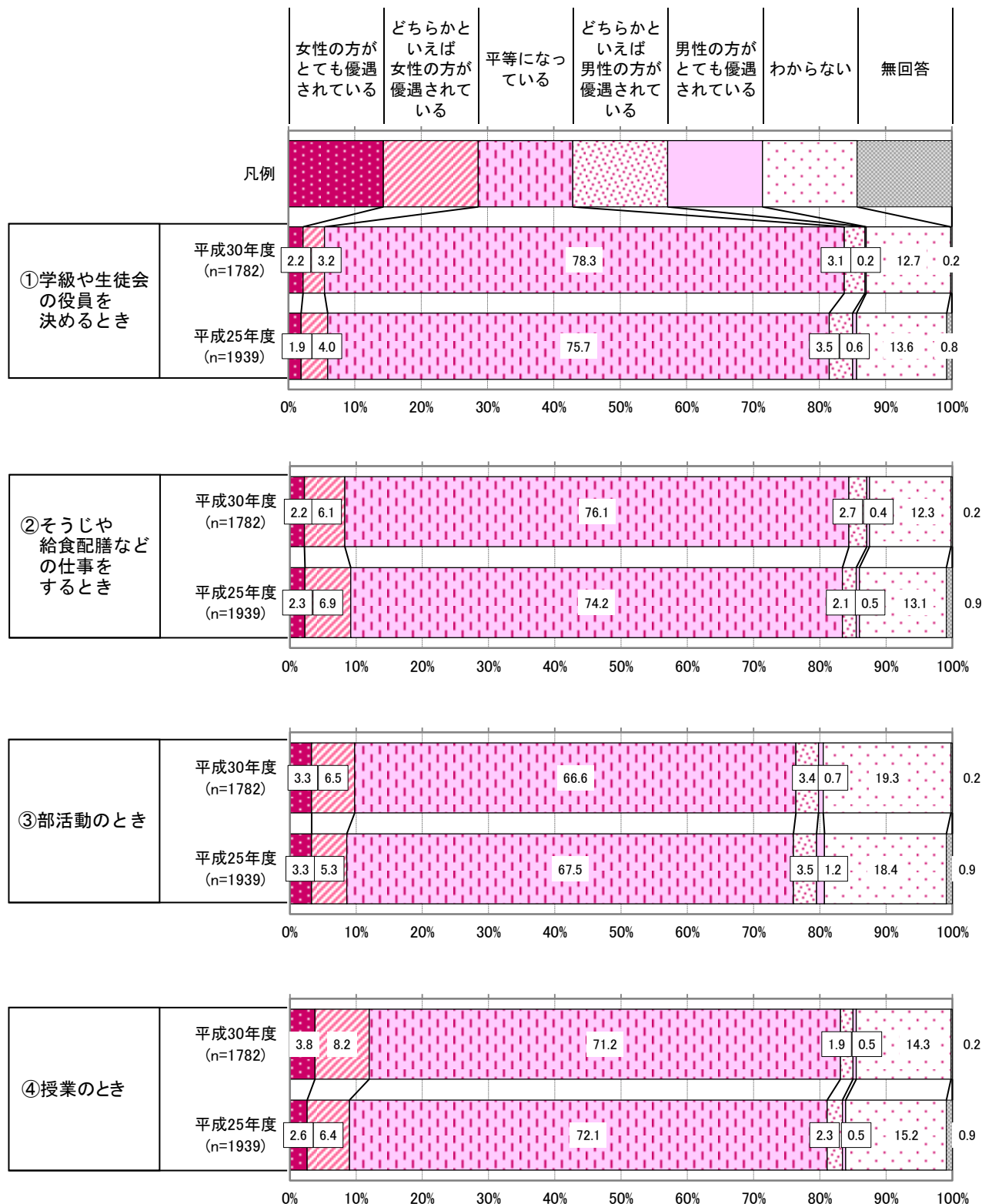
① 学級や生徒会の役員を決めるとき	5.4%	78.3%	3.3%
② そうじや給食配膳などの仕事をするとき	8.3%	76.1%	3.1%
③ 部活動のとき	9.8%	66.6%	4.1%
④ 授業のとき	12.0%	71.2%	2.4%



< 前回調査結果との比較 >

経年比較では、[①学級や生徒会の役員を決めるとき]において、「平等になっている」の値が78.3%と、前回調査(75.7%)から2.6ポイント高くなっている。一方、[④授業のとき]において、『女性優遇』の値が12.0%と前回調査(9.0%)から3.0ポイント高くなっている。

■ 学校生活での男女の扱い -経年比較-



2. 家庭での家事などの分担について

(1) 家庭での家事などの分担

問4 あなたの家庭では、次の家事などは主にだれの役割ですか。

①～⑪について、それぞれ1つを選んで○をつけてください。

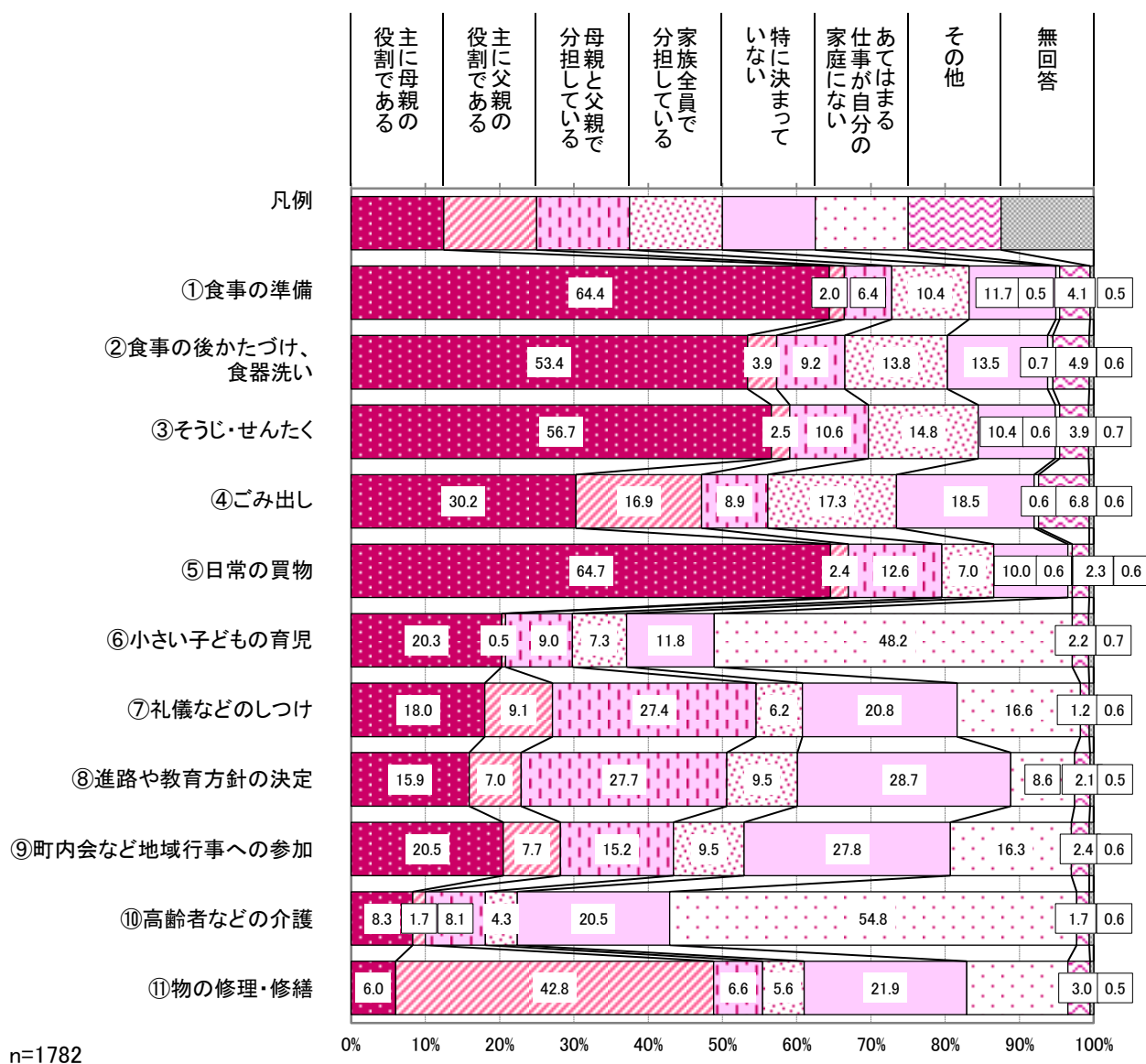
< 全体 >

家庭での家事などの分担について、「主に母親の役割である」の値が最も高い項目は、[⑤日常の買い物(64.7%)]であり、[①食事の準備(64.4%)]、[③そうじ・せんたく(56.7%)]、[②食事の後かたづけ、食器洗い(53.4%)]においても過半数を占めている。

「主に父親の役割である」の値は、[⑪物の修理・修繕(42.8%)]が最も高く、ついで[④ゴミ出し(16.9%)]が高くなっている。

「母親と父親で分担している」の値は、[⑧進路や教育方針の決定(27.7%)]、[⑦礼儀などのしつけ(27.4%)]で高い。

■ 家庭での家事などの分担



3. 将来のことなどについて

(1) これからの男女のあり方についての考え

問5 あなたは、これからの男女のあり方が、どのようになればよいと思いますか。
次にあげる、①～④について、それぞれ1つを選んで○をつけてください。

①男女とも経済的自立ができるようになるのがよい

< 全体 >

「①男女とも経済的自立ができるようになるのがよい」については、「賛成(65.5%)」、「どちらかといえば賛成(18.8%)」を合わせた『賛成』が84.3%と高い。

< 性別の値の比較 >

『賛成』の値を見ると、男性81.5%、女性87.7%と、女性が男性より6.2ポイント高い。

< 学年別の値の比較 >

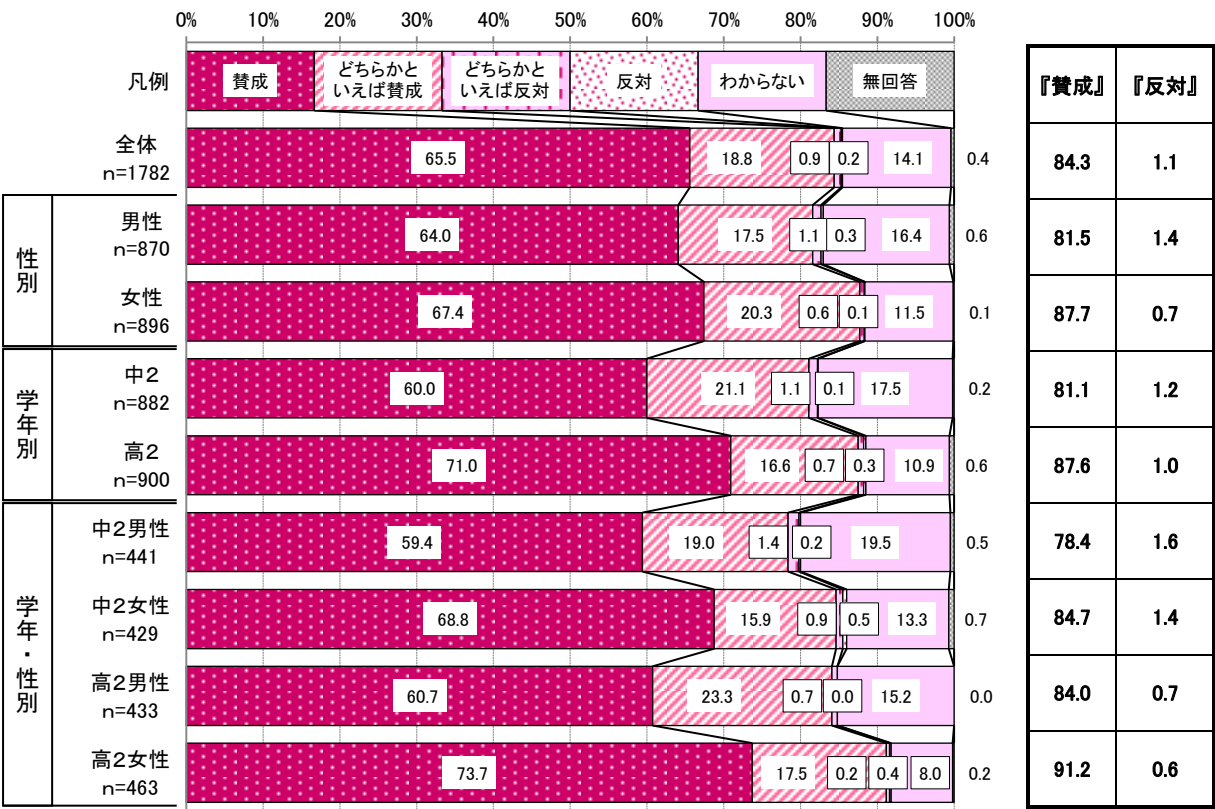
『賛成』の値を見ると、[中2]が60.0%、[高2]が71.0%と、[高2]が[中2]より11.0ポイント高くなっている。

< 学年・性別の値の比較 >

『賛成』の値を見ると、[高2女性]は[高2男性]より7.2ポイント高く、[中2女性]は[中2男性]より6.3ポイント高くなっている。

※『賛成』は「賛成」「どちらかといえば賛成」の合計、『反対』は「反対」「どちらかといえば反対」の合計

■ これからの男女のあり方についての考え (①男女とも経済的自立ができるようになるのがよい)
-性別 / 学年別 / 学年・性別-



②男女とも家事ができるようになるのがよい

< 全体 >

「②男女とも家事ができるようになるのがよい」については、「賛成(66.7%)」、「どちらかといえば賛成(21.5%)」を合わせた『賛成』が88.2%と高い。

< 性別の値の比較 >

『賛成』の値を見ると、男性84.5%、女性92.4%と、女性が男性より7.9ポイント高い。

< 学年別の値の比較 >

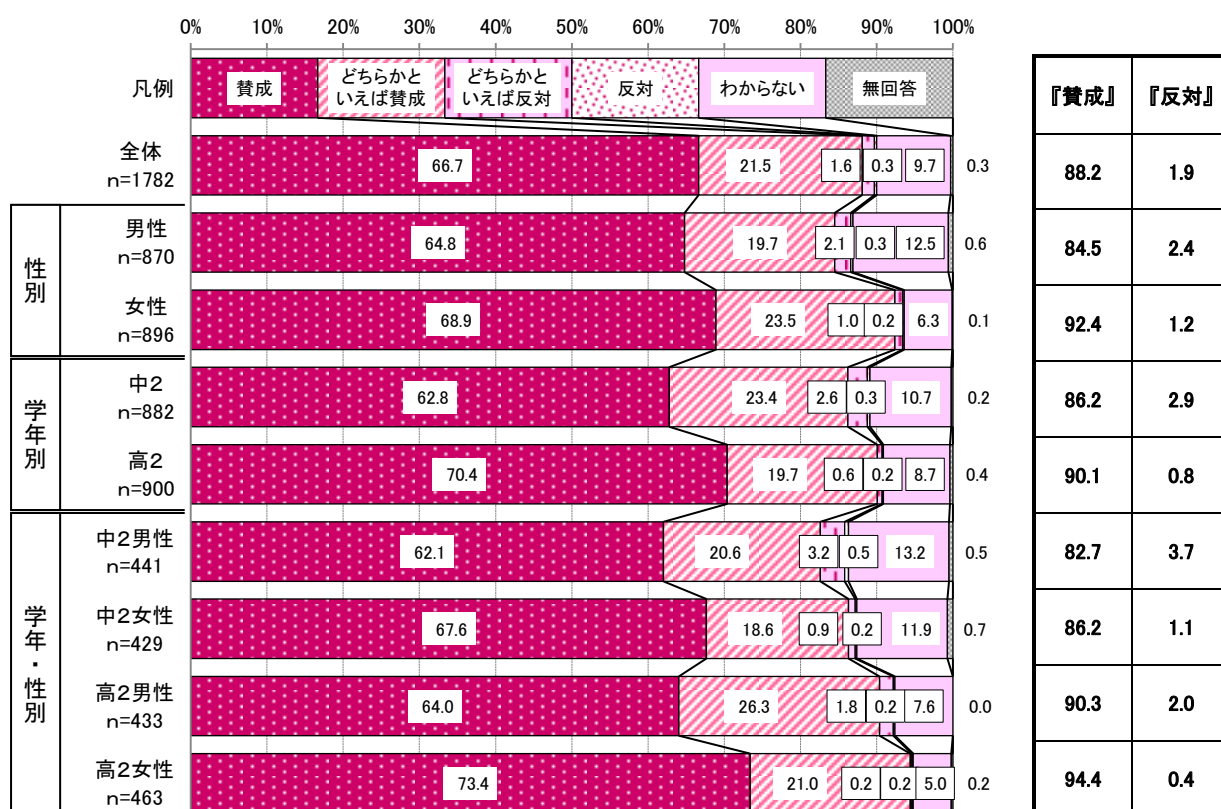
「賛成」の値を見ると、[中2]が62.8%、[高2]が70.4%と、[高2]が[中2]より7.6ポイント高く、『賛成』の値では[高2]が[中2]より3.9ポイント高くなっている。

< 学年・性別の値の比較 >

「賛成」の値を見ると、[高2女性]は[高2男性]より9.4ポイント高く、[中2女性]は[中2男性]より5.5ポイント高い。また、『賛成』の値では[高2女性]は[高2男性]より4.1ポイント高く、[中2女性]は[中2男性]より3.5ポイント高くなっている。

※『賛成』は「賛成」「どちらかといえば賛成」の合計、『反対』は「反対」「どちらかといえば反対」の合計

■ これからの男女のあり方についての考え (②男女とも家事ができるようになるのがよい) -性別 / 学年別 / 学年・性別-



③男は男らしく、女は女らしく生きていくのがよい

< 全体 >

「③男は男らしく、女は女らしく生きていくのがよい」については、「賛成(30.0%)」、「どちらかといえば賛成(17.6%)」を合わせた『賛成』は47.6%と半数を下回った。

< 性別の値の比較 >

『賛成』の値を見ると、男性50.5%、女性45.2%と、男性が女性より5.3ポイント高い。

< 学年別の値の比較 >

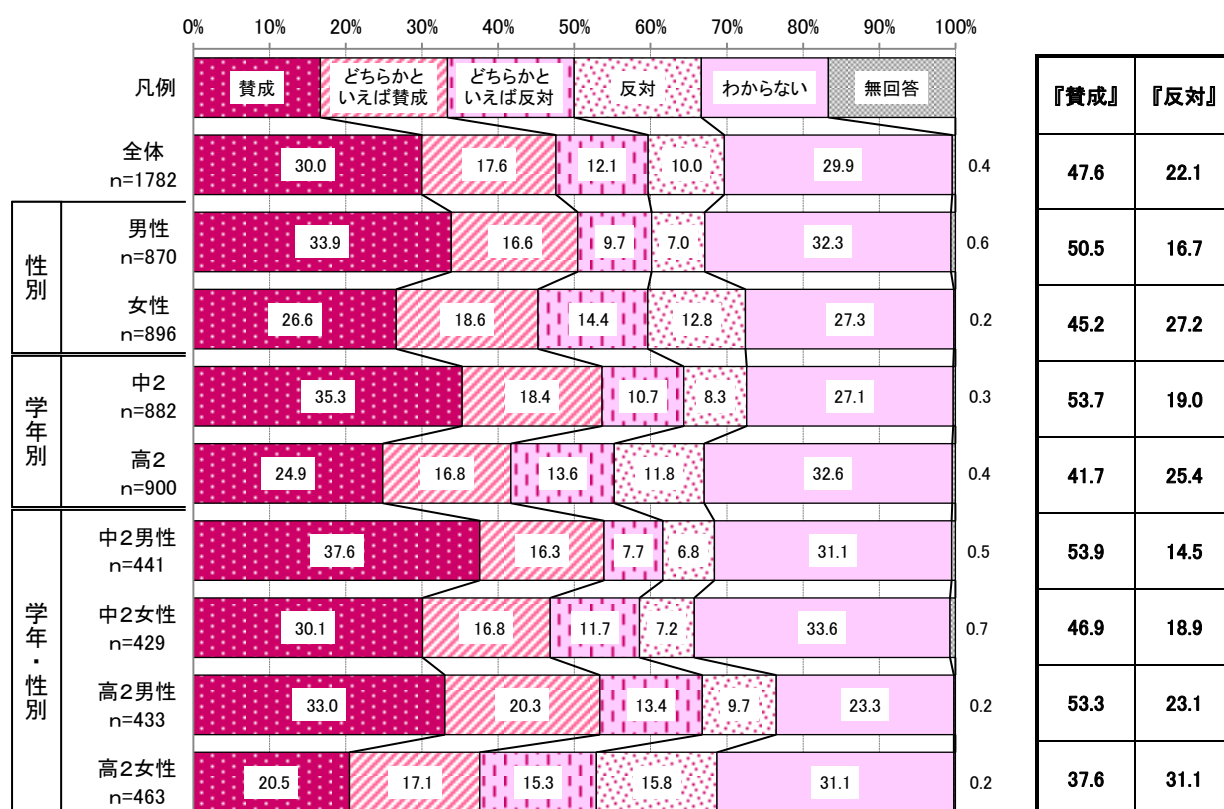
「賛成」の値を見ると、[中2]が35.3%、[高2]が24.9%と、[中2]が[高2]より10.4ポイント高く、『賛成』の値では[中2]が[高2]より12.0ポイント高くなっている。

< 学年・性別の値の比較 >

「賛成」の値を見ると、[高2男性]は[高2女性]より12.5ポイント高く、[中2男性]は[中2女性]より7.5ポイント高い。また、『賛成』の値では、[高2男性]は[高2女性]より15.7ポイント高く、[中2男性]は[中2女性]より7.0ポイント高くなっている。

※『賛成』は「賛成」「どちらかといえば賛成」の合計、『反対』は「反対」「どちらかといえば反対」の合計

■ これからの男女のあり方についての考え (③男は男らしく、女は女らしく生きていくのがよい) -性別 / 学年別 / 学年・性別-



④性別に関わらず個性に応じて生きていくのがよい

< 全体 >

「④性別に関わらず個性に応じて生きていくのがよい」については、「賛成(64.9%)」、「どちらかといえば賛成(18.9%)」を合わせた『賛成』は83.8%と高い。

< 性別の値の比較 >

『賛成』の値を見ると、男性79.8%、女性88.3%と、女性が男性より8.5ポイント高い。

< 学年別の値の比較 >

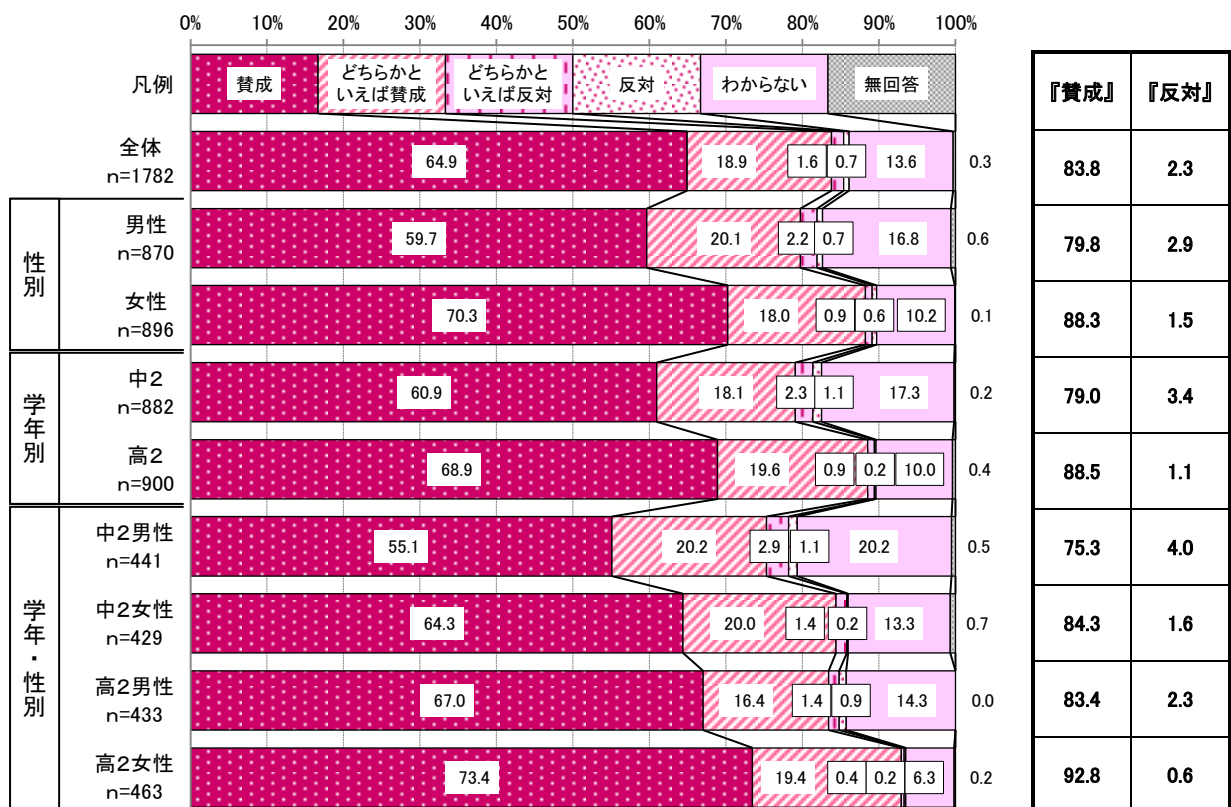
「賛成」の値を見ると、[中2]が60.9%、[高2]が68.9%と、[高2]が[中2]より8.0ポイント高く、『賛成』の値では[高2]が[中2]より9.5ポイント高くなっている。

< 学年・性別の値の比較 >

「賛成」の値を見ると、[高2女性]は[高2男性]より6.4ポイント高く、[中2女性]は[中2男性]より9.2ポイント高い。また、『賛成』の値では[高2女性]は[高2男性]より9.4ポイント高く、[中2女性]は[中2男性]より9.0ポイント高くなっている。

※『賛成』は「賛成」「どちらかといえば賛成」の合計、『反対』は「反対」「どちらかといえば反対」の合計

■ これからの男女のあり方についての考え (④性別に関わらず個性に応じて生きていくのがよい) -性別 / 学年別 / 学年・性別-



(2) 一般的に女性が職業をもつことについて

問6 一般的に女性が職業をもつことについて、あなたの考えは次のうちのどれですか。
次の中から1つを選んで○をつけてください。

< 全体 >

一般的に女性が職業をもつことについては、「子どもができたら辞め、大きくなったら再び職業をもつ方がよい(再就職型)」が30.9%と最も高く、ついで「家事・育児に影響がない程度で、パートタイマーやアルバイトをする方がよい(家事優先型)」の18.8%となっている。

< 性別の値の比較 >

「子どもができたら辞め、大きくなったら再び職業をもつ方がよい(再就職型)」は、男性25.3%、女性36.8%と、女性が男性より11.5ポイント高い。

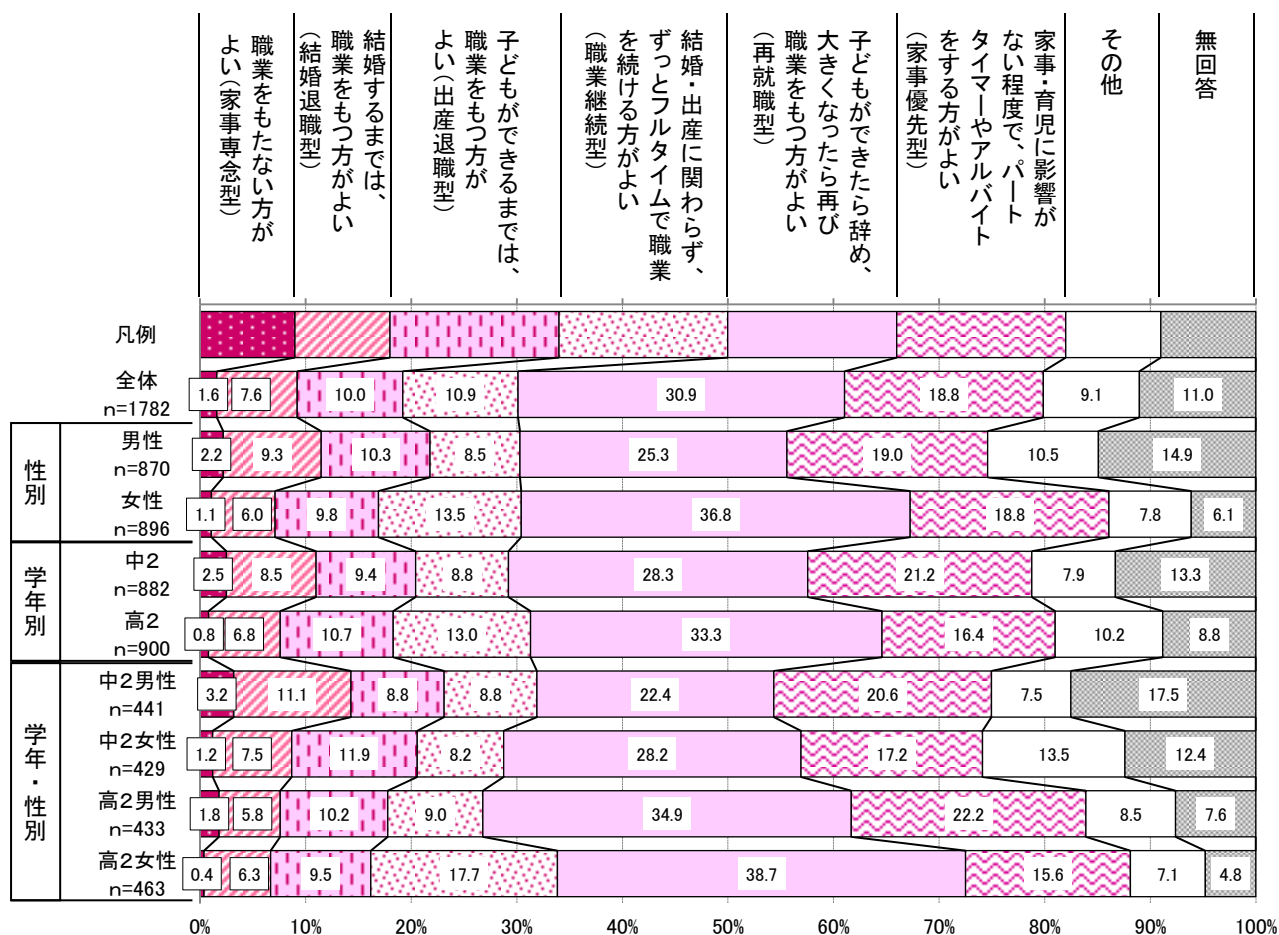
< 学年別の値の比較 >

「子どもができたら辞め、大きくなったら再び職業をもつ方がよい(再就職型)」は、[高2]が[中2]より5.0ポイント高く、「家事・育児に影響がない程度で、パートタイマーやアルバイトをする方がよい(家事優先型)」は、[中2]が[高2]より4.8%ポイント高い。

< 学年・性別の値の比較 >

「子どもができたら辞め、大きくなったら再び職業をもつ方がよい(再就職型)」の値は、[高2女性]が38.7%と最も高くなっている。

■ 一般的に女性が職業をもつことについて -性別 / 学年別 / 学年・性別-



4. デートDVについて

(1) デートDVの経験

問7 あなたは、恋人同士で起こる次のような行為をしたこと、されたことがありますか。
①～⑥について、それぞれ1つを選んで○をつけてください。

< 全体 >

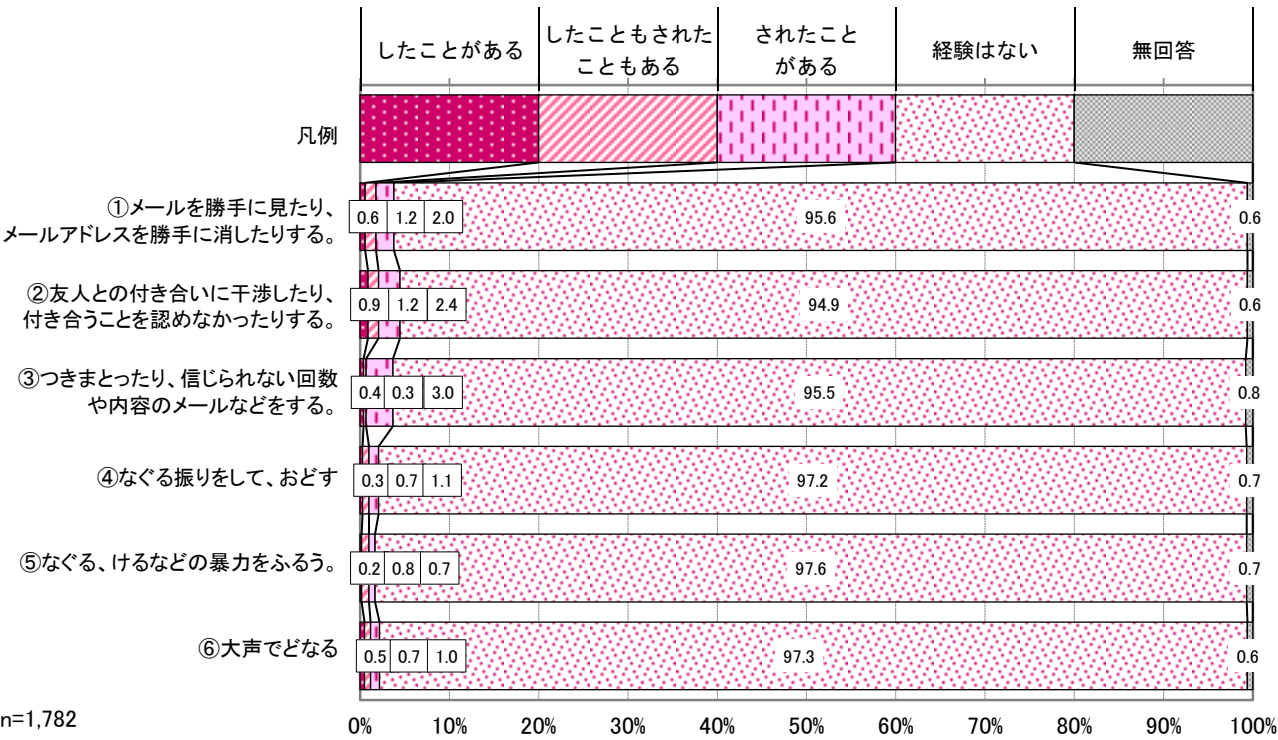
デートDVの経験について、『されたことがある(「されたことがある」「したこともされたこともある」の合計)』の値は、「②友人との付き合いに干渉したり、付き合うことを認めなかったりする。」が3.6%、「③つきまとったり、信じられない回数や内容のメールなどをする。」が3.3%、「①メールを勝手に見たり、メールアドレスを勝手に消したりする。」が3.2%である。

『したことがある(「したことがある」「したこともされたこともある」の合計)』の値は、「②友人との付き合いに干渉したり、付き合うことを認めなかったりする。」が2.1%、「①メールを勝手に見たり、メールアドレスを勝手に消したりする。」が1.8%となっている。

※『したことがある』は「したことがある」「したこともされたこともある」の合計
※『されたことがある』は「されたことがある」「したこともされたこともある」の合計

■ デートDVの経験

	『したことがある』※	『されたことがある』※
① メールを勝手に見たり、メールアドレスを勝手に消したりする。.....	1.8%	3.2%
② 友人との付き合いに干渉したり、付き合うことを認めなかったりする。.....	2.1%	3.6%
③ つきまとったり、信じられない回数や内容のメールなどをする。.....	0.7%	3.3%
④ なぐる振りをして、おどす.....	1.0%	1.8%
⑤ なぐる、けるなどの暴力をふるう。.....	1.0%	1.5%
⑥ 大声でどなる.....	1.2%	1.7%



5. 男女共同参画社会を実現するために必要なことについて

(1) 男女共同参画社会を実現するために必要なこと

問8 あなたは、今後、男女が社会のあらゆる分野(仕事、家庭、学校、地域活動、政治など)でもっと平等になるために重要だと思うことは何ですか。
次の中から特に重要だと思うものを3つ以内で選んで○をつけてください。

< 全体 >

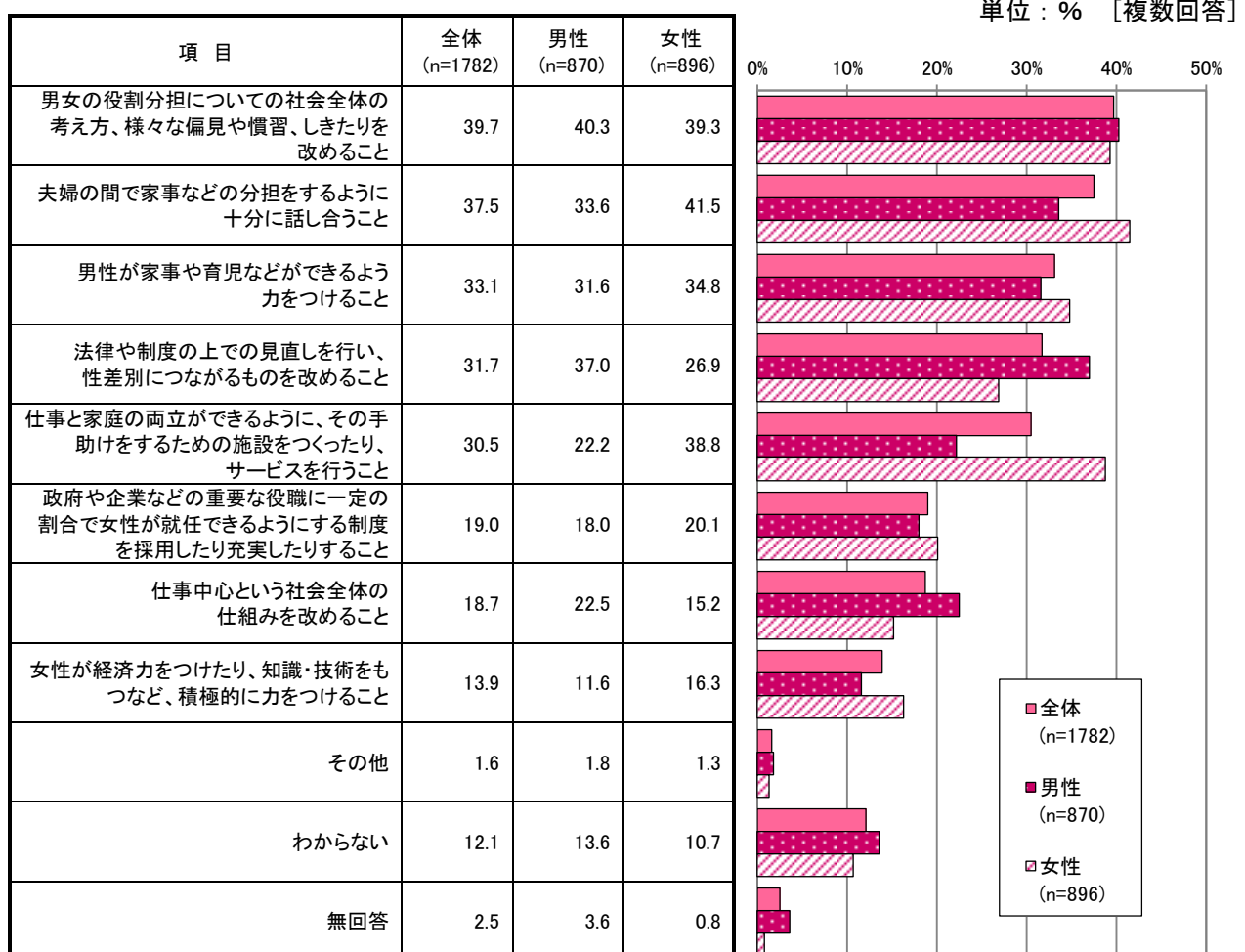
男女共同参画社会を実現するために必要なことについては、「男女の役割分担についての社会全体の考え方、様々な偏見や慣習、しきたりを改めること(39.7%)」が最も高く、ついで「夫婦の間で家事などの分担をするように十分に話し合うこと(37.5%)」となっている。

< 性別の値の比較 >

女性の値が男性より高く、差が大きい項目は、「仕事と家庭の両立ができるように、その手助けをするための施設をつくったり、サービスを行うこと(男性22.2%、女性38.8%)」、「夫婦の間で家事などの分担をするように十分に話し合うこと(男性33.5%、女性41.5%)」である。

一方、男性の値が女性より高く、差が大きい項目は、「法律や制度の上での見直しを行い、性差別につながるものを改めること(男性37.0%、女性26.9%)」、「仕事中心という社会全体の仕組みを改めること(男性22.5%、女性15.2%)」となっている。

■ 男女共同参画社会を実現するために必要なこと -性別-



(2) 男女共同参画などに関する項目の認知度

問9 あなたは、次の男女共同参画などに関することを知っていますか。

①～④について、それぞれ1つを選んで○をつけてください。

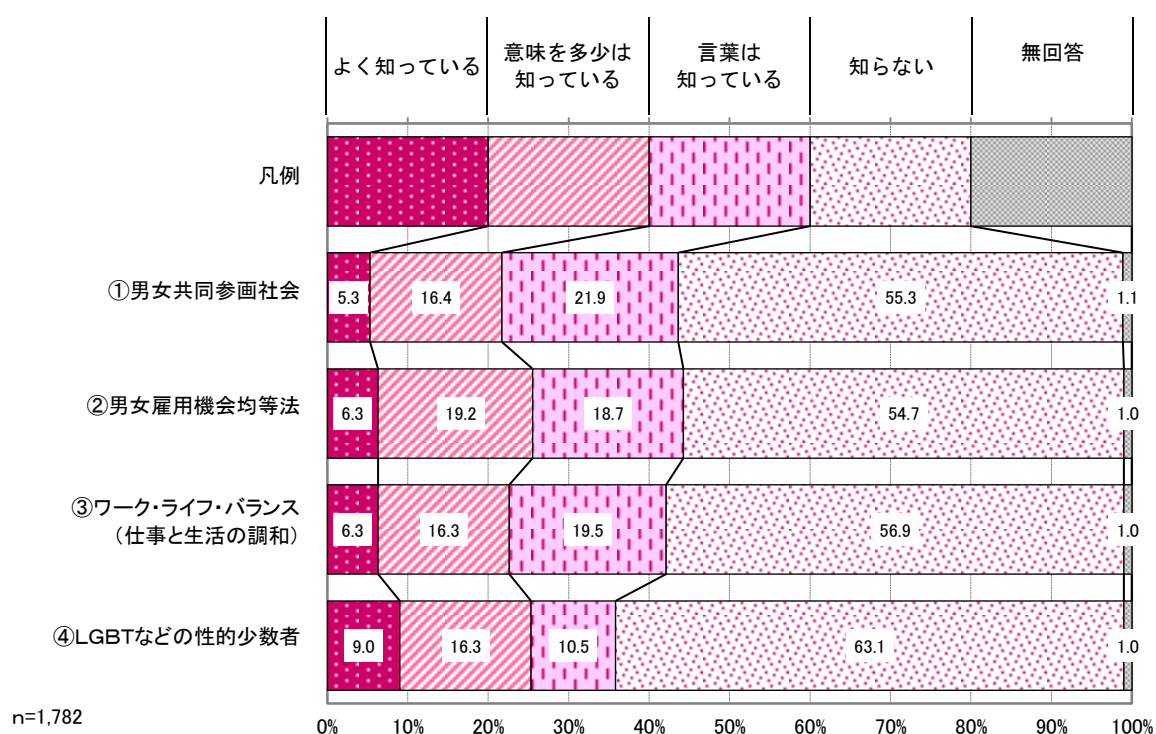
男女共同参画などに関する項目の認知度について、各項目の『知っている※』の値は、[②男女雇用機会均等法(44.2%)]が最も高く、ついで、[①男女共同参画社会(43.6%)]、[③ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)(42.1%)]となっているが、4項目とも過半数は「知らない」と回答している。

※『知っている』は「よく知っている」、「意味を多少は知っている」、「言葉は知っている」の合計

■ 男女共同参画などに関する項目の認知度

『知っている』※

① 男女共同参画社会.....	43.6%
② 男女雇用機会均等法.....	44.2%
③ ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和).....	42.1%
④ LGBTなどの性的少数者.....	35.8%



IV 自由意見

最後に、あなたが家庭や学校、社会の中で感じている男女の役割や生活、生き方など、男女共同参画に関することについて何でも結構ですから、自由に記入してください。

< 自由意見の記入状況 >

男女共同参画に関することについて、意見・要望などを自由に記入してもらったところ、全部で750人から833件の意見が寄せられた。

内容別に整理・分類し、これらの中から代表的な意見を紹介する。

※複数の内容を含む意見があるため、意見の合計件数と内容別件数は一致しない。

■ 自由意見の分類

① 男女平等や役割について.....	280	② 家事の分担 家庭生活について.....	133
③ 学校生活について.....	68	④ 就労環境や将来について.....	84
⑤ DV・その他差別等について.....	42	⑥ その他.....	35
⑦ 分からない・特になし.....	191		

① 男女平等や役割について

- 男性も女性も協力し合える仕事が多くなれば差別も減ると思う。(男性・高校2年生)
- 男女の役割などは気にせず、人として家族や社会の中での役割をまっとうすればいいと思う。(男性・高校2年生)
- 男女間の差別は良くないと思うのでこれからは自分も気を付けたいと思った。(男性・高校2年生)
- 女性の社会の立場が低いということで改善をはかっていますが、道を踏み間違えると女尊男卑の社会をつくってしまうことにもつながりかねないと思います。僕たちの世代がこの問題に対し地道な議論を積み重ねることが必要だと思います。(男性・高校2年生)
- 男の方が体力、力があるからある程度は仕方ないと思う。(男性・高校2年生)
- 電車の女性専用の場所をつくるなら男性の分もつくるべきであると考えている。他にもいろいろあると思うので変わってほしい。(男性・高校2年生)
- 私は無理やり平等にしなくても、誰かが女性だから、男性だからと差別(そういう悪質な習慣とかはなくなってほしいです。)されていやな思いをしていなかったら、それでいいなと思います。(女性・高校2年生)
- 男性が不利になることがある事件があるから、無くしてほしい。(女性・高校2年生)
- 男子だから、女子だからといってできることが限られるのは少し変だし自分的に嫌です。(女性・高校2年生)
- 女子が男子をサポートするという考え。結婚したら、男の人の名字をもらうこと。(女性・高校2年生)
- 男だから、女だからという考え方はやめるべき。(女性・高校2年生)
- 国会などで国や地域の代表が性差別的な発言や行動をすべきではない。した場合には、正式な謝罪をするべきだ。(女性・高校2年生)
- 男女共同参画について私が考えることは2つあります。1つ目は「男性は男性らしく、女性は女性らしく」などと言った、古い時代の考え方を現代から根本的に消すことが大切だと思います。男性でも女性でも自分が得意なことを社会に生かすことができれば平等になるからです。2つ目は、その得意なことを生かすために政治によって制度を改善することです。(男性・中学2年生)

- 自分は、外国に比べて、男女差があると思う。大臣なども男性が圧倒的に多い。
(男性・中学2年生)
- 家庭や学校のどこでも女性と男性で優遇されていることはないと思います。(男性・中学2年生)
- おとこの人がはたらいて、おんなの人が子育てをするイメージ。(男性・中学2年生)
- 男女平等（共同）を目指す取り組みのはずが、女性が優ぐうされたり、逆に男性が優ぐうされてしまったりと、平等な取り組みのように見えるものが、そうでなかったりすることもあるのでサービスなどをするときは、しっかりと考えた上ですべきだと思います。
(男性・中学2年生)
- 昔の人だと、男性は女性をなめているように見える。もっと女性も男性に負けないぐらいに政治をしたりと活やくしてほしい。男だから、女だからと思うのではなく、1人の人間として物事を考えて、自由に生きていけば良いと思う。(女性・中学2年生)
- 日本が「少子高齢化」なのは女性が子供を産まないからと言うのは、産みたくても産めない人たちの気持ちをふみにじっていると思う。「少子高齢化」というのを女性だけのせいにはしていると思う。
(女性・中学2年生)
- 女性専用車両は男性への差別だと聞いたことがあります。たしかになぜ女性だけあるんだと不満に思う人もいるかもしれませんが、女性は専用車両がある方が安心すると思います。あと、もし危険なことがあった時、男性より女性の方が優先して救けるということが多いそうです。それは男性の方が力があるし、女性の方が弱そうという偏見があるからだと思います。でも、もしかしたら、その男性は体が弱く、女性の方が力があるかもしれません。偏見がない方がいいなと思いました。
(女性・中学2年生)
- いくら男性が間違っているとしても、男性の方が「力・口」は強いから、男性が力で女性を押しつけるのはおかしいと思う。(女性・中学2年生)
- 「女性ならこれくらい出来るでしょ」という考えをやめてほしい。(女性・中学2年生)

② 家事の分担 家庭生活について

- やはり今でも家庭の家事は母が多くのことを行っていると思う。(男性・高校2年生)
- どれが平等でどれが平等でないかはよく分かりませんが、結婚してから女性にばっか家事を押しつけるのも、男性にばっかり仕事を押しつけるのは違うと思います。しっかり話し合って、家事の分担をかたよらないようにできたら良いと思います。(男性・高校2年生)
- 男性がまだまだ家事がちゃんと出来ていない人が多いと思う。(男性・高校2年生)
- 家事はほとんど女というのをやめて、男も手伝ってほしい。共同で作業することはとてもよいと思う。全部男、全部女というのをやめてほしい。(女性・高校2年生)
- お父さんの考え方が古くて家のことを全部お母さんにまかせているので、こんな人とは絶対結婚したくないと思う。(女性・高校2年生)
- 家事の分担は大切。(女性・高校2年生)
- 女性は家事をしながら、仕事もするので、忙しくて心に余裕がないのでストレスがたまってしまう。それを防ぐために仕事をするだけの男性は休みの日にだけでも料理や家事をして妻を助けるべきと思う。(男性・中学2年生)
- 最近は男性でもごはんや家事をしているところが増えてきているので女性の負担も少なくなっていると思います。(男性・中学2年生)
- 家事も全員で手伝えばいい。(男性・中学2年生)
- 男性・女性、いっしょに家事ができたらいいと思う。(女性・中学2年生)
- 家庭ではだいたい女性が家事、男性が仕事となっていると思う。(女性・中学2年生)
- 男性にも、子供の育て方を知る必要がある。(女性・中学2年生)

③ 学校生活について

- 最近「男女を平等に」しようといろいろな取り組みが行われていてとくに不平等だと思うことも少ない。だけど学校の中だったら、男子は外で着替えるとか、男子だからだめみたいなこともまだまだ多くて変えるのは中々難しいと思う。(男性・高校2年生)
- 学校では先生は女子に優しく男子に厳しい。どちらも平等に接してほしい。この風習がよく意味が分からない。担任の先生を変えてほしい。(男性・高校2年生)
- 女性だけ先生方の対応が優しくなると思う。(男性・高校2年生)
- 男女平等というのはすこし難しい気もする。体育でも長距離をはしるとき男子5km、女子4kmなどあるように、必要に応じては男女平等をできないときもあるとおもう。(女性・高校2年生)
- 学校では平等になっている。(女性・高校2年生)
- 学校は女子の方が優位なイメージがあります。でもそれ以上に部活等の差があるので気にならないほうだと思います。社会でも「女は・・・」と聞くのでどうにかなればいいのにとおもいます。(女性・高校2年生)
- 学校でみんな平等でいいと思う。(男性・中学2年生)
- 学校では女性が特別扱いのようにひいきする先生もいると思うのでそれをなくしていったら良いと思う。学校の部活で男性に紛れて女性も一緒にしているときに先生がもっと平等になるような対応をとれば良いと思います。(男性・中学2年生)
- 部活を男女平等にしてほしい。女子の方がとても優遇されていると思う(部活で)。コーチは女子にやさしすぎる。(男性・中学2年生)
- 先生の男女のえこひいきはやめた方がいいと思う。(女性・中学2年生)
- 給食当番やそうじは女子しか真面目にやらないし、男子は程々でも「男だから」で許されている。授業の発表でも女子はあまり手を挙げないから挙げるににくい。(女性・中学2年生)
- 学校内ではそこまで感じるような差別はありません。男子が先生から重い荷物を運んで頼まれた分、またの機会に女子に仕事があたえられるからです。(女性・中学2年生)

④ 就労環境や将来について

- 女性が妊娠したら仕事をやめるのは生まれながらに不平等(仕事に関して)有給制度などがあればよい。(男性・高校2年生)
- 男>女のような事を父や政治家、企業の人達がやっていてとても嫌な気分、正直男より女性の方が仕事もコミュニケーションも上手に出来るので男は上から見る事なんて出来ないと思う。確かに力仕事は男の方が向いているがデスクワークなどは絶対女性の方が上手に出来る。(男性・高校2年生)
- 仕事と生活の調和は大切だと思った。(男性・高校2年生)
- やっぱり女性の合格率が低い職業もあつたり、女性の定員が圧倒的に少ないのが気になります。(女性・高校2年生)
- 女性の方が働いたとき、同じ時間だけ働いても男性よりもらえるお金が少ないのをなおしてほしい。(女性・高校2年生)
- 子どもができて、女性がまた同じ職場ではたらける社会になれば良いと思う。(女性・高校2年生)
- 男性は仕事で残業などが多すぎると思う。そして女性は結婚して、子どもができてなかなか仕事をやめられない現状があると思う。(男性・中学2年生)
- 男子だけ入れる仕事や、女子だけ入れる仕事などをなくした方がいい。(男性・中学2年生)
- 子どもをもったじょうたいで仕事をする、子どものめんどうがおそろそかになったりして、愛を子どもは感じれないと思った。(男性・中学2年生)
- 女性に就職は必要ないという考えがなくなったらよいと思う。(女性・中学2年生)

- 働きたいと思っている女性の方は世の中に多くいると思います。でも「子どもをあずける保育園がない」などという理由で働くことのできない人も多くいると思うので、そういった「保育園の数が少ない」などの問題を解決して欲しいです。(女性・中学2年生)
- 今の社会では、女の人結婚したら、仕事を辞める人が多いと思いますが、子供が大きくなったら、女性がいつでも仕事に戻れるようにしたら、子供を産む人が増えて、少しでも若い人が増えると思います。男の人は外で働いて、女の人が家で仕事をするイメージが強い気がします。(女性・中学2年生)

⑤ DV・その他差別等について

- 電車やバスに乗るときに、ちかんに疑われたら嫌なので、公共交通機関を利用しにくい。(男性・高校2年生)
- L G B Tへの偏見や、母子家庭、父子家庭への偏見など。(女性・高校2年生)
- 男性が女性をなぐるのは、なんかふいんきわるいけど女性が男性をなぐるのは、いいみたいなふいんきがいやだ。(男性・中学2年生)
- 女性、男性に問わず、障害をもっている人が差別を受けることを無くして平等であってほしい。人の外見で決めつけること。もっと世の中を自由にすべきだと思う。(女性・中学2年生)

⑥ 男女平等や役割について

- 男女共同参画社会というのを初めて知った。(男性・中学2年生)
- 私は男女共同参画についてはあまり知らなかったので、調べてみようかなと思いました。(女性・中学2年生)
- 男女共同参画がそもそも分からない。(女性・中学2年生)

＜資料編＞



男女共同参画に関する市民アンケート

～調査の趣旨とご協力のお願い～

市民の皆様には、日ごろから市政にご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。

廿日市市では、男女が社会のあらゆる分野で対等な構成員として、共に参画し、それぞれの個性や能力を十分に発揮しながら、いきいきと暮らすことのできる男女共同参画社会の実現に向けて、平成 27 年に「第 2 次廿日市市男女共同参画プラン」を策定し、さまざまな施策を実施しています。

このたびプランの前期実施計画期間が平成 31 年度で終了することに伴い、市民の皆様には男女共同参画に関する意識や問題点についてお考えを伺い、後期実施計画策定のための基礎資料とさせていただき、今後の男女共同参画施策に活かすため、市内に在住する 20 歳以上の男女の方から 2,000 人を無作為に選ばせていただき、アンケートを実施いたします。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力いただきますようお願いいたします。

平成 30 年 11 月

廿日市市長 眞野 勝弘

記入にあたってのお願い

- 記入にあたっては、原則として封筒のあて名のご本人がお答えください。
- このアンケート調査は無記名式ですので、アンケート用紙に名前を記入する必要はありません。ありのままを回答していただくようお願いします。
- ボールペン、えんぴつなどではっきりと記入してください。
- 質問ごとに当てはまる回答の番号を選び、その番号を○で囲んでください。○を付ける数は、質問中の指示にしたがってください。
- 回答していただく方が限られる質問もありますので、質問の前の指示にしたがってお答えください。指示のない質問については全員がお答えください。
- 回答が「その他」に当てはまる場合は、()内になるべく具体的にその内容をご記入ください。
- 記入していただいた調査票は同封の返信用封筒に入れ、12月6日(木)までにポストに投函してください。その際、切手を貼る必要はありません。

※調査結果は統計的に処理し、個別の内容を公表することはありません。

《記入にあたっての不明な点や調査についてのお問い合わせはこちらまでお願いします》

廿日市市 自治振興部 人権・男女共同推進課 啓発・推進係
TEL：0829-30-9136 FAX：0829-32-1059

あなたご自身のことについておたずねします。

問(1)～(9)の項目について、それぞれ1つ選んで○をつけてください。

(1) 性 別	1 男性	2 女性
(2) 年 齢	1 20歳～29歳 3 40歳～49歳 5 60歳～69歳	2 30歳～39歳 4 50歳～59歳 6 70歳以上
(3) 配偶者の有無	1 結婚して、現在配偶者がいる(事実婚を含む) 2 現在、結婚していない、又は、配偶者がいない	
(4) 家 族 構 成	1 ひとり暮らし(単身世帯) 2 夫婦のみ(1世代世帯) 3 親と子(2世代世帯) 4 親と子と孫(3世代世帯) 5 その他()	
(5) 子 ど も	1 子どもがいる 2 子どもはいない ※成人した子ども、現在同居をしていない子どもを含めて、お答えください。	
(6) 一 番 下 の 子どもの年齢	1 3歳未満 3 小学生	2 3歳～小学校入学前 4 中学生以上
(7) 職 業	自 営 業 主	1 農林漁業 2 商工サービス業 3 自由業(医者・弁護士など)
	自 営 業 の 家 族 従 事 者	4 農林漁業 5 商工サービス業 6 自由業(医者・弁護士など)
	被 雇 用 者 (雇われている人)	7 会社員・公務員・その他勤め人 8 パート・アルバイト
	そ の 他	9 内職 10 家事専念 11 学生 12 無職
(8) 職 場 の 場 所	1 廿日市市内	2 廿日市市外
(9) お 住 ま い の 地 域	1 廿日市地域 4 大野地域	2 佐伯地域 5 宮島地域 3 吉和地域

男女の平等意識などについておたずねします。

問1 あなたは、次にあげる分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。
(1)～(8)の項目について、それぞれ1つ選んで○をつけてください。

項 目	女性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	男性の方が非常に優遇されている	わからない
(1) 家庭生活で	1	2	3	4	5	6
(2) 職場で	1	2	3	4	5	6
(3) 学校教育の場で	1	2	3	4	5	6
(4) 地域活動の場で	1	2	3	4	5	6
(5) 政治の場で	1	2	3	4	5	6
(6) 法律や制度の上で	1	2	3	4	5	6
(7) 社会通念・慣習・しきたりなどで	1	2	3	4	5	6
(8) 社会全体で	1	2	3	4	5	6

問2 あなたは、子どもの育て方についてどのように思いますか。
(1)～(4)の項目について、それぞれ1つ選んで○をつけてください。

項 目	賛成	賛成 どちらかといえば	反対 どちらかといえば	反対	わからない
(1) 男女とも経済的自立ができるように育てる	1	2	3	4	5
(2) 男女とも家事ができるように育てる	1	2	3	4	5
(3) 男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる	1	2	3	4	5
(4) 性別に関わらず子どもの個性を大切に育てる	1	2	3	4	5

問3 あなたは、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方に
対してどう思いますか。次の中から1つ選んで○をつけてください。

- 1 賛成
- 2 どちらかといえば賛成
- 3 どちらかといえば反対
- 4 反対
- 5 わからない

家庭生活についておたずねします。

問4 男女がともに家事、育児、介護などに積極的に参加していくためにはどのような
ことが必要だと思いますか。
次の中から3つ以内で選んで○をつけてください。

- 1 男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす
- 2 男性が家事などに参加することに対する女性の抵抗感をなくす
- 3 夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる
- 4 まわりの人が、夫婦の役割分担等についての当事者の考え方を尊重する
- 5 社会の中で、男性による家事、子育て、介護についても、その評価を高める
- 6 労働時間短縮や休暇制度の普及により、仕事以外の時間をより多く持てるようにする
- 7 男性が家事、子育て、介護に関心を高めるよう啓発や情報提供を行う
- 8 研修や講座の開催により、男性の家事や子育て、介護等の技能を高める
- 9 子育てや介護を行うための、仲間(ネットワーク)作りをすすめる
- 10 家庭と仕事の両立などの問題について、相談しやすい窓口を設ける
- 11 わからない
- 12 その他()

配偶者・パートナーのいる方のみにおたずねします。

問5 あなたのご家庭では、次にあげる家事などは主にどなたの役割ですか。
 (1)～(9)の項目について、それぞれ1つ選んで○をつけてください。

項 目	主に妻の役割である	主に夫の役割である	妻と夫でほぼ半々である	家族全員で分担している	特に決まっていない	その他
(1) 食事の準備	1	2	3	4	5	()
(2) 食事の後かたづけ、食器洗い	1	2	3	4	5	()
(3) 掃除・洗濯	1	2	3	4	5	()
(4) ごみ出し	1	2	3	4	5	()
(5) 日常の買い物	1	2	3	4	5	()
(6) 育児	1	2	3	4	5	()
(7) 地域行事への参加	1	2	3	4	5	()
(8) 高齢者などの介護	1	2	3	4	5	()
(9) 物の修理、修繕	1	2	3	4	5	()

配偶者・パートナーのいる方のみにおたずねします。

問6 あなたは、家庭での家事・育児・介護の分担の満足度をどのように感じていますか。次の中から1つ選んで○をつけてください。

- 1 満足している
- 2 どちらかといえば満足している
- 3 どちらかといえば不満である
- 4 不満である
- 5 その他()

働く場についておたずねします。

問 7 あなたは、一般的に女性が職業をもつことについて、どのように思いますか。
次の中から1つ選んで○をつけてください。

- 1 職業をもたない方がよい（家事専念型）
- 2 結婚するまでは、職業をもつ方がよい（結婚退職型）
- 3 子どもができるまでは、職業をもつ方がよい（出産退職型）
- 4 結婚・出産に関わらず、ずっとフルタイムで職業を続ける方がよい（職業継続型）
- 5 子どもができたら辞め、大きくなったら再び職業をもつ方がよい（再就職型）
- 6 家事・育児に影響がない程度で、パートタイマーやアルバイトをする方がよい
（家事優先型）
- 7 その他（ ）

問 8 あなたの今の職場では、男女の扱いについて、平等になっていると思いますか。
(1)～(6)の項目について、それぞれ1つ選んで○をつけてください。

項 目	女性の方が優遇されている	どちらかといえば 女性の方が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば 男性の方が優遇されている	男性の方が優遇されている	わからない
(1) 募集や採用	1	2	3	4	5	6
(2) 昇進・昇格・評価	1	2	3	4	5	6
(3) 職務内容	1	2	3	4	5	6
(4) 教育訓練・研修	1	2	3	4	5	6
(5) 福利厚生	1	2	3	4	5	6
(6) 有給休暇の取得	1	2	3	4	5	6

問 9 あなたは、次にあげる制度をご存知ですか。また利用したことがありますか。
(1)～(2)の項目について、それぞれ1つ選んで○をつけてください。

	知っており、 利用したこと がある	知っているが、 利用したこと はない	知らなかった
(1)「育児休業」 (働く男女が原則として1歳未満の 子どもを養育するために休業できる制度)	1	2	3
(2)「介護休業」 (働く男女が家族を介護するために休業 できる制度)	1	2	3

いづれかに○をつけた方は、問 9-1 へ

問 9 で「知っているが利用したことがない」と答えた方におたずねします。

問 9-1 あなたがこれらの休暇を取得しなかったのはどのような理由ですか。取得し
 なかった休暇について、次の中から、あてはまるものすべてに○をつけて
 ください。

項 目	育児 休業	介護 休業
1 育児や介護が必要になったことがないから		
2 仕事が忙しく、休める状況ではなかったから		
3 職場に休みにくい雰囲気があった（上司や同僚に言いにくい）		
4 経済的な理由（休業補償がない、昇給に影響するなど）から		
5 配偶者が休暇を取得したから		
6 配偶者が育児や介護を行ったから		
7 昇進・昇格が遅れるから		
8 元の職場に戻れるかどうか不安だから		
9 休暇中に仕事の能力が低下するのが不安だから		
10 育児や介護が必要になったときには、まだ制度がなかったから		
11 休業の取得を理由に解雇されそうだから		
12 仕事をする方が好きだから		

問 10 あなたは、政治・経済・働く場などの各分野で女性のリーダーが増えない原因は何だと思いますか。
次の中からあてはまるものすべてを選んで○をつけてください。

- 1 現時点では、必要な知識や経験などを持つ女性が少ないこと
- 2 女性自身がリーダーになることを希望しないこと
- 3 上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと
- 4 長時間労働の改善が十分でないこと
- 5 企業などにおいては、管理職になると広域異動が増えること
- 6 保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと
- 7 保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと
- 8 その他（ ）
- 9 特にない
- 10 わからない

現在仕事をしている方、または今後仕事をする見込みのある方におたずねします。

問 11 あなたは、管理職に昇進したいと思いますか。
次の中から1つを選んで○をつけてください。

- 1 昇進したい
- 2 どちらかといえば昇進したい
- 3 どちらかといえば昇進したくない
- 4 昇進したくない
- 5 その他（ ）

女性の方のみにおたずねします。

問 12 あなたが、結婚、育児、介護などにより仕事をやめた場合、再び仕事をしやすくなるためにはどのようなことが必要だと思いますか。
次の中から2つ以内で選んで○をつけてください。

- 1 再就職を支援するセミナーや職業訓練の機会の充実
- 2 企業が積極的に再就職しやすい職場風土をつくること
- 3 男女双方の長時間労働の改善
- 4 短時間勤務制度や在宅勤務制度の充実
- 5 家事・保育支援サービスの充実
- 6 介護サービスの充実
- 7 女性が働くことへの家族や周囲の理解・協力
- 8 女性の再就職を応援する社会全体の意識
- 9 趣味や家事スキルを生かせる仕事や創業に関するセミナーや情報の充実
- 10 女性同士の情報交換や交流の場があること
- 11 その他（ ）

仕事と家庭、個人の生活のバランスについておたずねします。

問 13 あなたの希望に最も近いものを、次の中から1つ選んで○をつけてください。

- 1 「仕事」を優先したい
- 2 「家庭や地域生活」を優先したい
- 3 「個人の生活」を優先したい
- 4 「仕事」と「家庭や地域生活」をともに優先したい
- 5 「仕事」と「個人の生活」をともに優先したい
- 6 「家庭や地域生活」と「個人の生活」をともに優先したい
- 7 「仕事」と「家庭や地域生活」と「個人の生活」の3つとも優先したい
- 8 わからない

問 14 あなたの現実（現状）に最も近いものを、次の中から1つ選んで○をつけてください。

- 1 「仕事」を優先している
- 2 「家庭や地域生活」を優先している
- 3 「個人の生活」を優先している
- 4 「仕事」と「家庭や地域生活」をともに優先している
- 5 「仕事」と「個人の生活」をともに優先している
- 6 「家庭や地域生活」と「個人の生活」をともに優先している
- 7 「仕事」と「家庭や地域生活」と「個人の生活」の3つとも優先している
- 8 わからない

問 15 男女がともに、仕事と家庭を両立していくためには、どのようなことが必要
だと思えますか。
次の中からあてはまるものすべてを選んで○をつけてください。

- 1 労働時間の短縮
- 2 有給休暇を取得しやすい企業風土をつくること
- 3 短時間勤務、在宅勤務やフレックスタイム（時差勤務）の普及
- 4 家族や配偶者の家事・子育て・介護への参加・協力
- 5 保育施設やサービス（一時保育、病児保育などの保育サービス）の充実
- 6 企業内保育所の普及
- 7 介護施設やサービス（デイサービス、配食サービスなど）の充実
- 8 育児・介護のための休暇・休業を取りやすい職場環境
- 9 育児・介護休業中の給付金の充実
- 10 結婚・出産・子育てなどにより退職した人への再雇用制度の普及
- 11 経営者や管理職の意識改革
- 12 就労形態（正社員⇄パートなど）をライフサイクルに応じて変更できる制度
- 13 わからない
- 14 その他（）

地域活動についておたずねします。

問 16 あなたは、町内会・自治会、コミュニティ、PTA活動などの地域活動の役員をしたことがありますか。次の中から1つ選んで○をつけてください。

1 したことがある

2 したことがない

問 16 で「したことがある」と答えた方におたずねします。

問 16-1 あなたは、地域活動の実態についてどのように感じていますか。
次の中からあてはまるものすべてを選んで○をつけてください。

1 男性の参加が少ない

2 女性の参加が少ない

3 団体の会長に男性がつき、補助的役職に女性がつく慣行がある

4 活動の準備や後片付けは、女性がやる慣行がある

5 会議で女性が発言しにくい雰囲気がある

6 女性は会長などの責任のある役員になりたがらない

7 男女の差がなく活動している

8 男女に関わらず適材適所で活動している

9 その他 ()

問 17 あなたは、地域活動に男女がともに参画するためには、どのようなことが必要だと思いますか。次の中からあてはまるものすべてを選んで○をつけてください。

1 若い世代の人の意見を聞くなど誰でも参加しやすい雰囲気をつくる

2 全員が発言し、全員で決定するなど会議の方法を工夫する

3 会議などの開催時刻の配慮や会議の時間・回数の短縮を図る

4 子ども連れで会議などに参加できるようにする

5 男女の役割の固定化（男性は草刈り、女性は炊き出しなど）をなくし、各自が得意分野で活躍できるようにする

6 社会的地位や肩書きによる発言力の上下関係をなくす

7 役員を輪番制にする

8 副会長を複数にして、会長の負担を軽減する

9 男性の会長を増やす

10 女性の会長を増やす

11 その他 ()

ドメスティック・バイオレンス（DV）などについておたずねします。

配偶者や恋人など、パートナーからの暴力（ドメスティック・バイオレンス）が社会問題になっています。

問 18 あなたは、配偶者や恋人の間で行われる、次のような行為をしたこと、されたことがありますか。

(1)～(8)の項目について、それぞれ1つ選んで○をつけてください。

項 目	した こと がある	した・された 両方ある	されたこと がある	経験はない
(1) 外出や人との付き合いを監視したり、制限する	1	2	3	4
(2) なぐる振りをして、おどす	1	2	3	4
(3) なぐる、蹴るなどの暴力を振るう	1	2	3	4
(4) 命の危険を感じるほどの暴力を振るう	1	2	3	4
(5) ののしる、大声でどなる	1	2	3	4
(6) 何を言っても長時間無視し続ける	1	2	3	4
(7) 相手が嫌がっているのに、性的な行為を要求する	1	2	3	4
(8) 生活費を渡さない、外で働くことを妨害する	1	2	3	4

問 18 でひとつでも「2 した・された両方ある」、「3 されたことがある」と答えた方におたずねします。

問 18-1 あなたは、これまで配偶者や恋人から受けた暴力などについて、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。

次の中からあてはまるものすべてを選んで○をつけてください。

- 1 親族に相談した
- 2 友人・知人に相談した
- 3 公的機関に相談した
- 4 民間の機関（弁護士会等）に相談した
- 5 医師に相談した
- 6 警察に相談した
- 7 どこ（だれ）にも相談しなかった
- 8 その他（ ）

問 19 あなたの身近なところ（職場・学校・地域）でセクシュアル・ハラスメント（相手の意に反する性的な言動）を見たり、聞いたりしたことはありますか。
次の中から1つ選んで○をつけてください。

- 1 自分自身が受けたことがある
- 2 自分に身近な女性が受けたことがある
- 3 自分に身近な男性が受けたことがある
- 4 ない
- 5 わからない

これから重点的に取り組むべきことについておたずねします。

問 20 「男女共同参画社会」を実現していくために、今後、どのようなことに力を入れて取り組むべきだと思いますか。
次の中から3つ以内で選んで○をつけてください。

- 1 広報紙や講演会などによる男女の平等と相互理解についての啓発
- 2 学校などにおける男女平等の意識づくり
- 3 社会教育・生涯学習の場での学習の充実
- 4 政治や働く場などにおける政策・方針決定過程への女性の積極的登用
- 5 リーダー養成など女性の人材育成の推進
- 6 チャレンジしたい女性の再就職や起業支援
- 7 職場における男女均等な取り扱いの周知徹底
- 8 保育サービスや学童保育などの子育て支援の充実
- 9 介護サービスの充実
- 10 各国の女性との交流や情報提供など国際化の推進
- 11 女性のための相談体制の充実
- 12 男性の家事・育児・介護への参加の促進
- 13 女性の生き方に関する情報提供や交流、相談や学習ができるセンターの充実
- 14 町内会やコミュニティ、防災活動など地域活動における男女共同参画の推進
- 15 企業へのワーク・ライフ・バランスの普及、支援
- 16 その他（ ）

問21 あなたは、次にあげる男女共同参画などに関する項目を知っていますか。
(1)～(8)それぞれの項目について、1つを選んで○をつけてください。

項 目	よく知っている	内容(意味)を 多少は知っている	名称(言葉)は 知っている	全く知らない
(1) 男女共同参画社会	1	2	3	4
(2) ポジティブ・アクション(積極的改善措置)	1	2	3	4
(3) ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)	1	2	3	4
(4) 男女共同参画社会基本法	1	2	3	4
(5) 男女雇用機会均等法	1	2	3	4
(6) 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護 に関する法律(DV防止法)	1	2	3	4
(7) LGBTなどの性的少数者	1	2	3	4
(8) 男女共同参画週間	1	2	3	4

「男女共同参画社会」を実現していくまちづくりについて、ご意見、ご要望、あなたが経験されたこと、感じていることなど、なんでも結構ですので自由に記入してください。

アンケートはこれで終わりです。ご協力ありがとうございました。

この調査票を同封の返信用封筒に入れ、
 切手を貼らずにポストに投函してください。



男女共同参画に関する事業所アンケート

調査の趣旨とご協力のお願い

日ごろから市政にご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。

廿日市市では、男女が社会のあらゆる分野で対等な構成員として、共に参画し、それぞれの個性や能力を発揮しながら、いきいきと暮らすことのできる男女共同参画社会の実現にむけて、平成 27 年に「第 2 次廿日市市男女共同参画プラン」を策定し、さまざまな施策を実施しています。

このたび、プランの前期実施計画期間が平成 31 年度で終了することに伴い、後期実施計画策定のため、5 年に 1 度の「男女共同参画に関する事業所アンケート」を実施いたします。

ここでいただいた状況や問題点を計画策定のための基礎資料とさせていただくほか、今後の男女共同参画の推進に活用していきます。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力いただきますようお願いいたします。

平成 30 年 11 月

廿日市市長 眞野 勝弘

調査票記入にあたってのお願い

- この調査票は、経営者（代表者）・支社（店）の責任者または人事・労務担当の方に記入をお願いします。
- この調査票は、当該事業所の状況をお答えください。
- このアンケート調査は記名式ですが、事業所の情報は聞き取り調査が必要な場合にのみ利用させていただきます。市全体の状況調査を目的としていますので、結果は統計的に処理し、個別の内容を公表することはありませんので、ありのままをお答えください。
- ボールペン、えんぴつなどではっきりと記入してください。
- 回答を選択肢から選ぶ質問は、当てはまる回答の番号を選び、その番号を○で囲んでください。○を付ける数は、質問中の指示にしたがってください。
- 回答していただく方が限られる質問もありますので、質問の前の指示にしたがってお答えください。指示のない質問については全員がお答えください。
- 回答が「その他」に当てはまる場合は、（ ）内になるべく具体的にその内容をご記入ください。
- 記入していただいた調査票は、同封の返信用封筒に入れ、12月10日(月)までにポストに投函してください。その際、切手を貼る必要はありません。

◇ 記入にあたっての不明な点や調査についてのお問い合わせはこちらまでお願いします。

廿日市市 自治振興部 人権・男女共同推進課 啓発・推進係

TEL：0829-30-9136 FAX：0829-32-1059

最初に、事業所の名称などについておたずねします。

問 1 次の(1)～(7)の項目について、それぞれお答えください。

※平成 30 年(2018 年) 4 月 1 日現在のデータでお答えください。
4 月 1 日での回答が困難な場合は、回答時点でのデータでも構いません。

名 称		
(1) 所 在 地		
電 話 番 号		
(2) 業 種	1 農業・林業・漁業 2 建設業 3 製造業 4 運輸・通信業 5 電気・ガス・熱供給・水道業 6 金融・保険業 7 卸売・小売業・飲食業 8 不動産業 9 サービス業 10 その他 ()	
(3) 従 業 者 数	_____ 人 (男 _____ 人、女 _____ 人) うち パート・臨時等 (男 _____ 人、女 _____ 人)	
(4) 管 理 職 人 数	部長相当職 _____ 人 (男 _____ 人、女 _____ 人) 課長相当職 _____ 人 (男 _____ 人、女 _____ 人) 係長相当職 _____ 人 (男 _____ 人、女 _____ 人)	
(5) 平成 29 年度 採 用 実 績	_____ 人 (男 _____ 人、女 _____ 人)	
(6) 平 均 年 齢	全 体 _____ 歳 性 別 毎 (男 _____ 歳、女 _____ 歳)	
(7) 平均勤続年数	全 体 _____ 年 性 別 毎 (男 _____ 年、女 _____ 年)	

雇用管理についておたずねします。

問2 現在、あなたの事業所では、男女の扱いについて、平等になっていると思いますか。
(1)～(10)の項目について、それぞれ1つを選んで○をしてください。

項 目	優遇されている 女性の方が非常に	どちらかという 女性の方が優遇ば	平等になっている	どちらかという 男性の方が優遇ば	優遇されている 男性の方が非常に
(1) 募集や採用	1	2	3	4	5
(2) 賃金	1	2	3	4	5
(3) 人事考課・評価	1	2	3	4	5
(4) 昇進・昇格	1	2	3	4	5
(5) 幹部職員への登用	1	2	3	4	5
(6) 職務内容	1	2	3	4	5
(7) 教育訓練・研修	1	2	3	4	5
(8) 退職・解雇	1	2	3	4	5
(9) 福利厚生	1	2	3	4	5
(10) 有給休暇の取得	1	2	3	4	5

ポジティブ・アクション（*1）についておたずねします。

問3 あなたの事業所では、男女間の格差を解消するためにポジティブ・アクション
（積極的改善措置）を何か行っていますか。
次の中から1つを選んで○をしてください。

- | | |
|------------------|-------------------------|
| 1 既に取り組んでいる | →「1」に○をした方は、問4へ |
| 2 今後取り組むこととしている | } →「2」または「3」に○をした方は、問5へ |
| 3 今のところ取り組む予定はない | |

***1 ポジティブ・アクション（積極的改善措置）とは**

性別による固定的な役割分担意識や過去の経緯から、男女労働者の間に事実上生じている差があるとき、それを解消しようと企業が行う自主的かつ積極的な取組。

問3で「1 既に取り組んでいる」と答えた方におたずねします。

問4 その取組はどのような内容のものですか。

次の中からあてはまるものすべてを選んで○をしてください。

- 1 担当部局を定め、担当者・責任者を選任する等、事業所内の推進体制を整備している
- 2 女性の能力発揮の状況や、能力を発揮するための問題点について調査・分析を行っている
- 3 格差解消のための、具体的な取組について計画を策定している
- 4 女性がいない、または少ない職務について、意欲と能力ある女性を積極的に採用している
- 5 女性がいない、または少ない職務・役職について、意欲と能力ある女性を積極的に登用している
- 6 女性がいない、または少ない職務・役職に女性が従事するため、教育訓練を積極的に実施している
- 7 男性従業員に対し、女性の能力発揮の重要性についての啓発を行っている
- 8 性別による評価を行うことがないよう、人事考課基準を明確に定めている
- 9 体力面での個人差を補う器具、設備等を設置する等、働きやすい職場環境を整備している
- 10 仕事と家庭との両立を支援する制度を導入している
- 11 男女の役割分担意識に基づく慣行の見直し等、職場環境・風土を改善している
- 12 その他（ ）

問3で、「2 今後取り組むこととしている」、または「3 今のところ取り組む予定はない」と答えた方におたずねします。

問5 現在取り組んでいないのはどのような理由からですか。

次の中からあてはまるものすべてを選んで○をしてください。

- 1 日常の業務が忙しく対応する余裕がない
- 2 コストがかかるから
- 3 業績につながらないから
- 4 男性からの理解が得られない
- 5 女性の職業意識が低いなど効果が期待できない
- 6 すでに女性が十分に活躍しているので、取り組む必要がない
- 7 ポジティブ・アクションの手法がわからない
- 8 その他（ ）

ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）についておたずねします。

問6 ワーク・ライフ・バランスについて知っていますか。
次の中から1つを選んで○をしてください。

- 1 よく理解している
- 2 だいたい理解している
- 3 聞いたことはあるが、内容はよく知らない
- 4 知らない

問7 ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）を事業所で推進していくことについてどのようにお考えですか。次の中から1つを選んで○をしてください。

- 1 必要
- 2 どちらかといえば必要
- 3 あまり必要ではない
- 4 分からない

ワーク・ライフ・バランス「仕事と家庭の調和が実現した社会」 とは

「国民一人ひとりがやりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方が、選択、実現できる社会」である。

～内閣府「仕事と生活の調和憲章」より～

問8 過去5年間の育児休業の取得状況についてお聞きします。

育児休業対象者 _____ 人（男 人、女 人）

育児休業取得者 _____ 人（男 人、女 人）

問9 過去5年間で、介護を理由に休業や退職した人の状況についてお聞きします。

介護休業者 _____ 人（男 人、女 人）

介護退職者 _____ 人（男 人、女 人）

問 10 あなたの事業所では次の制度がありますか。
あてはまるものすべてに○をしてください。

- 1 短時間勤務制度
- 2 所定外労働時間の免除
- 3 始業、就業時間の繰り下げ、繰り上げ
- 4 フレックスタイム制度
- 5 在宅勤務制度
- 6 就業形態の変更（正社員⇄パート等）
- 7 再雇用制度
- 8 産前、産後休暇制度
- 9 治療のための休暇
- 10 療養中の手当て支給
- 11 子ども、家族のための看護休暇
- 12 時間単位の有給休暇
- 13 資格取得などの自己啓発のための休暇
- 14 健康維持増進のための休暇
- 15 ボランティア（社会貢献）休暇
- 16 勤務時間、勤務地、担当業務についての希望聴取
- 17 育児・介護休業中の経済的支援
- 18 自己啓発、健康維持（増進）、ボランティア休暇中の経済的支援
- 19 その他（）
- 20 特になし

問 11 あなたの事業所では、次の項目の中で実施しているものがありますか。
あてはまるものすべてに○をしてください。

- 1 短時間勤務制度が活用されている
- 2 経営者層や管理職による残業時間の管理ができています
- 3 有給休暇が公正・公平に利用できている
- 4 フレックスタイム制度が活用されている
- 5 業務上の改善や提案など従業員の意見が反映されている
- 6 所属内でのコミュニケーションが円滑に行われている
- 7 性別によらず勤務評価が適正に行われている
- 8 業務に関する技術や知識を学ぶための研修を実施している
- 9 管理職に対するワーク・ライフ・バランスや働き方改革の研修を実施している
- 10 業務マニュアルの作成や業務の可視化を行っている
- 11 複数人担当制や多能工化の取組みを行っている
- 12 パワーハラスメントやセクシュアル・ハラスメントの防止策を講じている
- 13 全従業員に対して、就業や休暇に関する制度の情報提供を行っている
- 14 定期的な人事面談や希望聴取を行っている
- 15 長期休暇からの復職時に研修やトレーニングを行っている
- 16 事業所内に保育施設を設置している
- 17 更衣室やトイレなど性別に配慮した環境が整っている
- 18 その他（ ）
- 19 特になし

問 12 あなたの事業所で、育児休業制度、介護休業制度を定着させるためには、今後どのような取組が必要だと思いますか。
次の中からあてはまるものすべてを選んで○をしてください。

- 1 休業取得者の代替要員を確保すること
- 2 休業取得者に対する職場復帰プログラムを実施すること
- 3 男性労働者に対する意識啓発を行うこと
- 4 女性労働者に対する意識啓発を行うこと
- 5 その他（ ）

女性の活躍の推進についておたずねします。

問 13 あなたの事業所では、現在と比べて、管理職や役員に女性を登用しようと思いますか。
次の中から1つを選んで○をしてください。

- 1 登用しようと思う
- 2 登用しようとは思わない
- 3 その他 ()

問 14 あなたの事業所では、現在と比べて、女性を採用しようと思いますか。
次の中から1つを選んで○をしてください。

- 1 採用しようと思う
- 2 採用しようとは思わない
- 3 その他 ()

問 15 女性の活躍を推進するとどのようなメリットがあると思いますか。
次の中からあてはまるものすべてを選んで○をしてください。

- 1 女性の職業意識や意欲が高まる
- 2 有能な人材を採用・登用するチャンスが増える
- 3 女性の勤続年数が伸びて熟練した従業員が増える
- 4 競争力が高まり組織が活性化される
- 5 人材の定着による育成コストが減少する
- 6 女性の視点を生かすことにより生産性向上につながる
- 7 人手不足が解消される
- 8 企業イメージの向上
- 9 メリットはない
- 10 その他 ()

セクシュアル・ハラスメント（*2）の防止についておたずねします。

問 16 あなたの事業所では、セクシュアル・ハラスメントの防止のための取組を何か行っていますか。次の中から1つを選んで○をしてください。

- 1 既に取り組んでいる。 → 「1」に○をした方は、問 17 へ
- 2 今後取り組むこととしている。
- 3 今のところ取り組む予定はない。 } → 「2」または「3」に○をした方は、問 18 へ

*2 セクシュアル・ハラスメント とは

性的嫌がらせ。

相手の意に反した性的な言動を行い、それに対する対応によって、仕事をする上で一定の不利益を与えたり、それを繰り返すことによって就業環境を著しく悪化させること。

問 16 で「1 既に取り組んでいる。」と答えた方におたずねします。

問 17 その取組はどのような内容のものですか。
次の中からあてはまるものすべてを選んで○をしてください。

- 1 就業規則、労働協約等の書面で、セクシュアル・ハラスメント防止についての方針を明確化し、従業員に周知している
- 2 広報、啓発資料の作成・配布を行っている
- 3 ミーティング時などを利用してセクシュアル・ハラスメント防止の周知や人権問題についての従業員教育を行っている
- 4 セクシュアル・ハラスメントに係る相談窓口・苦情窓口を設置している
- 5 相談窓口担当者に対する研修を行っている
- 6 その他（ ）

市として重点的に取り組むべきことについておたずねします。

問 18 今後、働く場の「男女共同参画」を実現していくために、市はどのようなことに重点的に取り組むべきだと思いますか。
次の中から3つ以内で選んで○をしてください。

- 1 情報誌やパンフレットなどによる男女共同参画に関する啓発の充実
- 2 女性の社会的自立をめざす講座やセミナーの開催
- 3 事業所が行う研修会等への講師の派遣、紹介
- 4 職場における男女の平等な取扱いの周知徹底
- 5 女性の就労機会の確保、女性の職業教育・訓練の機会の充実
- 6 保育施設や保育サービスの充実
- 7 男性の家事・育児・介護への参加の促進
- 8 高齢者や病人のための施設や介護サービスの充実
- 9 事業所や女性のための相談機関の充実
- 10 男女の平等な雇用・労働条件確保のための指導強化
- 11 事業所へのワーク・ライフ・バランスや働き方改革に関する個別支援
- 12 女性活躍や働き方改革に関する補助金や助成金の支給
- 13 その他（ ）

「男女共同参画社会」を実現していくまちづくりについて、ご意見・ご要望などがありましたら、自由に記入してください。

アンケートはこれで終わりです。ご協力ありがとうございました。

この調査票を返信用封筒に入れ、
切手を貼らずにポストに投函してください。



男女共同参画に関する中学生・高校生アンケート

ご協力のお願い

みなさん、こんにちは。廿日市市役所人権・男女共同推進課です。

みなさんは「男女共同参画社会」という言葉を聞いたことがあるでしょうか？

「男女共同参画社会」とは、男女がそれぞれの個性や能力を十分に発揮して、互いに認め合い、いきいきと暮らすことのできる社会のことです。

廿日市市では「第2次廿日市市男女共同参画プラン」を平成27年に策定し、「男女共同参画社会」の実現に向けていろいろな事業を推進しています。

このアンケートは、みなさんの考えをお聞きして第2次プラン見直しの基礎資料、また、これからの市の取り組みなどの参考にするために廿日市市内の中学2年生と高校2年生を対象に、実施するものです。

ご協力をお願いします。

平成30年11月

アンケートを記入するときのお願い

- このアンケート調査に自分の名前を書く必要はありません。
また、みなさんが書かれた個別の内容を公表することはありませんので、ありのまま、思ったままを回答してください。
- 黒のボールペンかえんぴつではっきりと記入してください。
- 質問ごとに当てはまる回答の番号を選び、その番号を○で囲んでください。
○をつける数は、質問中の指示にしたがってください。
- 考えても分からない場合は空白にせずに「わからない」に○をつけてください。
- 回答が「その他」にあてはまる場合は、後ろの（ ）の部分になるべく具体的にその内容を記入してください。

廿日市市 自治振興部 人権・男女共同推進課 啓発・推進係
TEL：0829-30-9136

最初に、あなたご自身のことについておたずねします。

問1 次の(1)～(4)のことについて、あなた自身にあてはまるものを、それぞれ1つ選んで○をつけてください。

(1) 性 別	1 男	2 女	
(2) 学 年	1 中学2年生	2 高校2年生	
(3) いっしょに住んでいる人	1 ひとり暮らし（下宿や寮 ^{りょう} など） 2 兄弟姉妹と親 または 親 3 兄弟姉妹と親と祖父母 または 親と祖父母 4 その他		
(4) 住んでいる地域	1 廿日市地域		2 佐伯地域
	3 吉和地域	4 大野地域	
	5 宮島地域	6 廿日市市外	



男女平等について、おたずねします。

問2 あなたは、次にあげる分野で、男女は平等になっていると思いますか。

(1)～(6)について、それぞれ1つを選んで○をつけてください。

	女性の方がとても優遇 されている	どちらかといえば女性 の方が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば男性 の方が優遇されている	男性の方がとても優遇 されている	わからない
(1) 家庭の中で	1	2	3	4	5	6
(2) 学校の中で	1	2	3	4	5	6
(3) 政治の中で（国会議員や 市議会議員など）	1	2	3	4	5	6
(4) 法律や制度の中で	1	2	3	4	5	6
(5) 慣習、しきたりなどで	1	2	3	4	5	6
(6) 社会全体で	1	2	3	4	5	6

問3 あなたは、次にあげるような学校生活の場面の中で、男女は平等になっていると思いますか。(1)～(4)について、それぞれ1つを選んで○をつけてください。

	女性の方がとても優遇 されている	どちらかといえば女性 の方が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば男性 の方が優遇されている	男性の方がとても優遇 されている	わからない
(1) 学級や生徒会の役員を 決めるとき	1	2	3	4	5	6
(2) そうじや給食配膳などの 仕事をするとき	1	2	3	4	5	6
(3) 部活動のとき	1	2	3	4	5	6
(4) 授業のとき	1	2	3	4	5	6

家庭での家事などの分担について、おたずねします。

問4 あなたの家庭では、次の家事などは主にだれの役割ですか。

(1)～(11)について、それぞれ1つを選んで○をつけてください。

	主に 母親の 役割で ある	主に 父親の 役割で ある	母親 と父親 で分担 している	家族 全員で 分担し ている	特に 決まっ ていな い	あては まる仕 事が自 分の家 庭にない	そ の 他
(1) 食事の準備	1	2	3	4	5	6	()
(2) 食事の後かたづけ、食器洗い	1	2	3	4	5	6	()
(3) そうじ・せんたく	1	2	3	4	5	6	()
(4) ごみ出し	1	2	3	4	5	6	()
(5) 日常の買物	1	2	3	4	5	6	()
(6) 小さい子どもの育児	1	2	3	4	5	6	()
(7) 礼儀 ^{れいぎ} などのしつけ	1	2	3	4	5	6	()
(8) 進路や教育方針の決定	1	2	3	4	5	6	()
(9) 町内会など地域行事への参加	1	2	3	4	5	6	()
(10) 高齢者 ^{かいご} などの介護	1	2	3	4	5	6	()
(11) 物の修理・修繕	1	2	3	4	5	6	()



あなたの将来のことなどについて、おたずねします。

問5 あなたは、これからの男女のあり方が、どのようになればよいと思いますか。
次にあげる、(1)～(4)について、それぞれ1つを選んで○をつけてください。

	賛 成	どちらか といえば 賛 成	どちらか といえば 反 対	反 対	わ か ら な い
(1) 男女とも経済的自立ができるようになるのがよい	1	2	3	4	5
(2) 男女とも家事ができるようになるのがよい	1	2	3	4	5
(3) 男は男らしく、女は女らしく生きていくのがよい	1	2	3	4	5
(4) 性別に関わらず個性に応じて生きていくのがよい	1	2	3	4	5

問6 一般的に女性が職業をもつことについて、あなたの考えは次のうちのどれですか。
次の中から1つを選んで○をつけてください。

- 1 職業をもたない方がよい（家事専念型）
- 2 結婚するまでは、職業をもつ方がよい（結婚退職型）
- 3 子どもができるまでは、職業をもつ方がよい（出産退職型）
- 4 結婚・出産に関わらず、ずっとフルタイムで職業を続ける方がよい（職業継続型）
- 5 子どもができたら辞め、大きくなったら再び職業をもつ方がよい（再就職型）
- 6 家事・育児に影響がない程度で、パートタイマーやアルバイトをする方がよい
（家事優先型）
- 7 その他（ ）



デートDVについておたずねします。

「デートDV」とは恋人の間で起きる問題です。
夫婦の間で起きるDV（ドメスティック・バイオレンス）と同じで、男女が対等の関係ではなく、一方が力で相手を自分の思うようにする（支配する）ことで、社会問題になっています。

問7 あなたは、恋人同士で起こる次のような行為をしたこと、されたことがありますか。
(1)～(6)について、それぞれ1つを選んで○をつけてください。

項 目	したことがある	したこともされたこともある	されたことがある	経験はない
(1) メールを勝手に見たり、メールアドレスを勝手に消したりする。	1	2	3	4
(2) 友人との付き合いに干渉したり、付き合うことを認めなかったりする。	1	2	3	4
(3) つきまとったり、信じられない回数や内容のメールなどをする。	1	2	3	4
(4) なぐる振りをして、おどす。	1	2	3	4
(5) なぐる、けるなどの暴力をふるう。	1	2	3	4
(6) 大声でどなる。	1	2	3	4



男女共同参画社会を実現するために必要なことについておたずねします。

問8 あなたは、今後、男女が社会のあらゆる分野（仕事、家庭、学校、地域活動、政治など）でもっと平等になるために重要だと思うことは何ですか。

次の中から特に重要だと思うものを3つ以内で選んで○をつけてください。

- 1 法律や制度の上での見直しを行い、性差別につながるものを改めること
- 2 男女の役割分担についての社会全体の考え方、様々な偏見や慣習、しきたりを改めること
- 3 女性が経済力をつけたり、知識・技術をもつなど、積極的に力をつけること
- 4 政府や企業などの重要な役職に一定の割合で女性が就任できるようにする制度を採用したり充実したりすること
- 5 仕事中心という社会全体の仕組みを改めること
- 6 夫婦の間で家事などの分担をするように十分に話し合うこと
- 7 男性が家事や育児などができるよう力をつけること
- 8 仕事と家庭の両立ができるように、その手助けをするための施設をつくったり、サービスを行うこと
- 9 その他（ ）
- 10 わからない



問9 あなたは、次の男女共同参画などに関することを知っていますか。
(1)～(4)について、それぞれ1つを選んで○をつけてください。

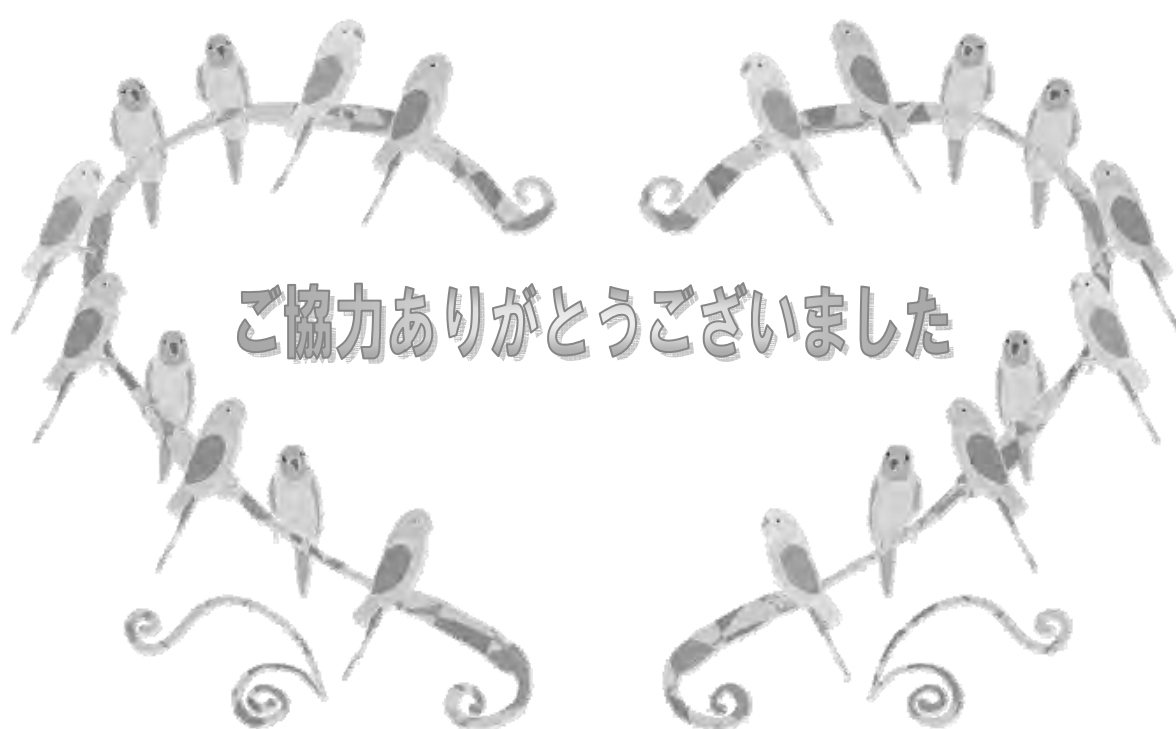
項 目	よく知っている	意味 多少は知っている	言葉は知っている	知らない
(1) 男女共同参画社会	1	2	3	4
(2) 男女雇用機会均等法	1	2	3	4
(3) ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）	1	2	3	4
(4) LGBT などの性的少数者	1	2	3	4

みなさんの自由な意見を書いてください。

最後に、あなたが家庭や学校、社会の中で感じている男女の役割や生活、生き方など、男女共同参画に関することについて何でも結構ですから、自由に記入してください。

This image shows a blank sheet of handwriting practice paper. It features ten rows of horizontal guidelines designed to help children learn letter formation. Each row is defined by three lines: a solid top line, a dashed middle line, and a solid bottom line. The first row is positioned at the very top of the page, while the last row is near the bottom. The entire sheet is enclosed in a thin black border.

アンケートはこれで終わりです。



平成30年度 廿日市市男女共同参画に関するアンケート調査報告書

平成31（2019）年3月 発行

発行 廿日市市

編集 自治振興部 人権・男女共同推進課

〒738-8501 広島県廿日市市下平良一丁目11番1号

T E L 0829-30-9136

E-Mail jinken@city.hatsukaichi.lg.jp